

第2章 満10歳～14歳調査の結果

1 家庭や家族のことについて

(1) しつけの厳しさに対する意識

◇『きびしい(計)』はお父さんが50.8%、お母さんが63.0%

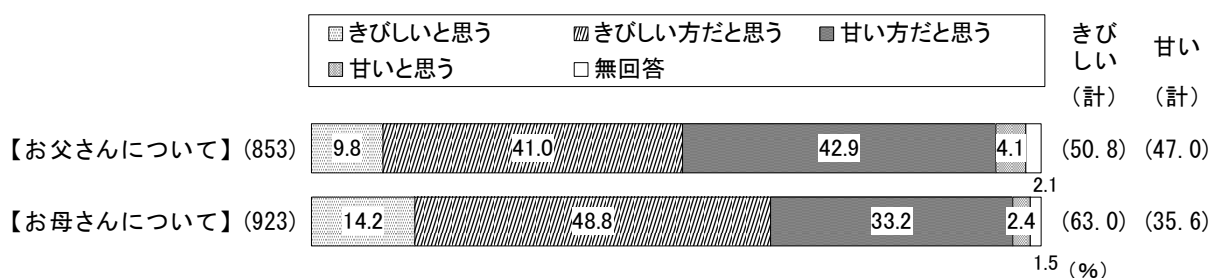
(「お父さん」か「お母さん」と一緒に暮らしていると答えた人にかがいます)

問6 あなたは、お父さん、お母さんのしつけについてどう感じていますか。それぞれの中で、1つ選んで○をしてください。(類似質問：保護者225ページ参照)

お父さん、お母さんのしつけについてどう感じているか聞いたところ、お父さんについては、「きびしいと思う」が9.8%、「きびしい方だと思う」が41.0%で、この2つを合わせた『きびしい(計)』は50.8%である。一方、「甘い方だと思う」(42.9%)と「甘いと思う」(4.1%)の2つを合わせた『甘い(計)』は47.0%となっている。

お母さんについては、『きびしい(計)』が63.0%、『甘い(計)』が35.6%で、『きびしい(計)』の割合は、父親より母親の方が12.2ポイント高くなっている。(図表1-1-1)

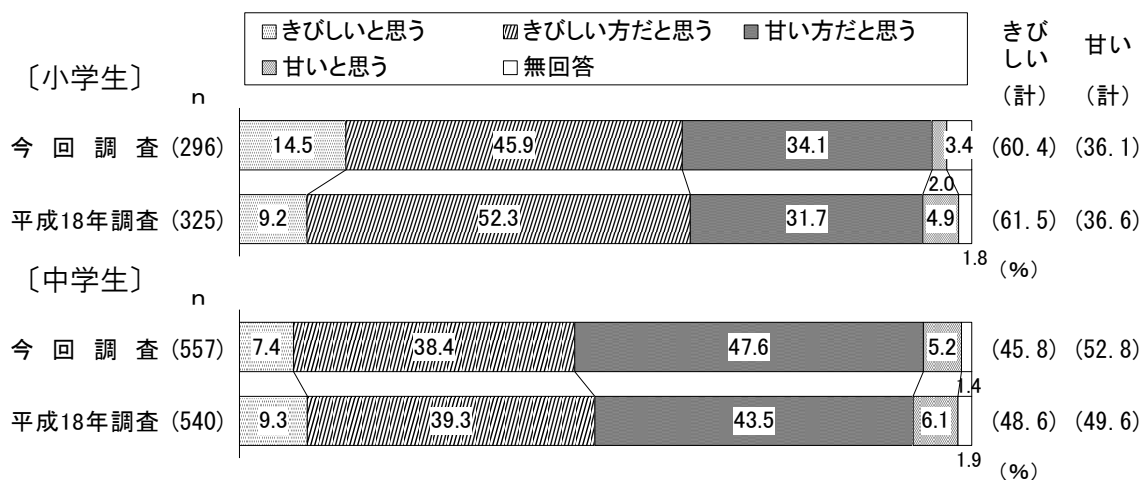
図表 1-1-1



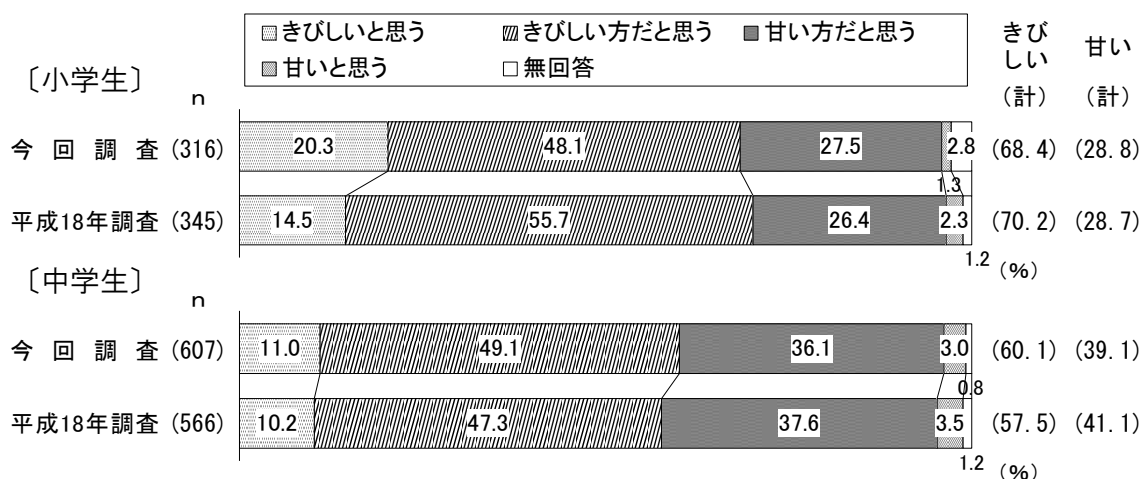
年代別にみると、『きびしい(計)』の割合は、お父さんでは小学生(60.4%)の方が中学生(45.8%)より14.6ポイント高く、お母さんでも小学生(68.4%)の方が中学生(60.1%)より8.3ポイント高くなっている。(図表1-1-2、図表1-1-3)

平成18年調査と比較すると、小学生では、「きびしいと思う」の割合がお父さんで5.3ポイント、お母さんで5.8ポイント、それぞれ増加している。(図表1-1-2、図表1-1-3)

図表1-1-2 しつけの厳しさに対する意識<お父さん> (年代別経年比較)



図表1-1-3 しつけの厳しさに対する意識<お母さん> (年代別経年比較)



(2) 親との信頼感

◇『信頼している(計)』はお父さんが89.1%、お母さんが92.2%

(「お父さん」か「お母さん」と一緒に暮らしていると答えた人にうかがいます)

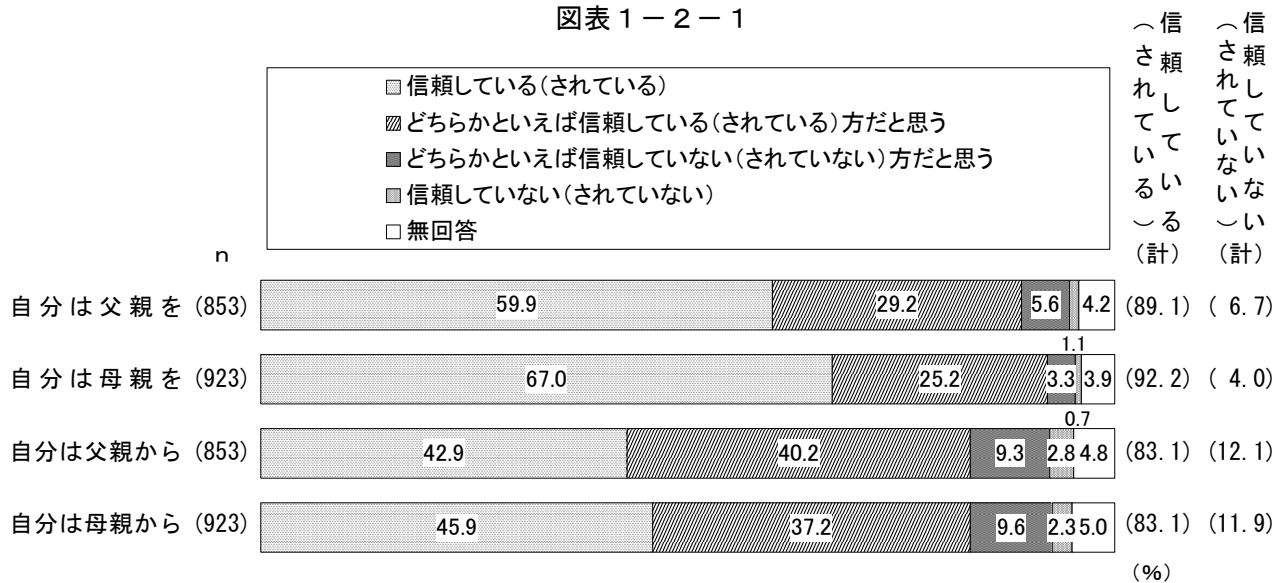
問7 あなたは、お父さん、お母さんを信頼していますか。また、反対にお父さんお母さんから信頼されていると思いますか。それぞれについて、1つ選んで○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳104ページ参照)

お父さん、お母さんを信頼しているか聞いたところ、お父さんについては、「信頼している」が59.9%、「どちらかといえば信頼している方だと思う」が29.2%で、この2つを合わせた『信頼している(計)』は89.1%となっている。お母さんについては、『信頼している(計)』は92.2%となっている。

反対に、お父さん、お母さんから信頼されていると思うか聞いたところ、お父さんについては、「信頼されている」が42.9%、「どちらかといえば信頼されている方だと思う」が40.2%で、この2つを合わせた『信頼されている(計)』は83.1%となっている。お母さんについても、『信頼されている(計)』は83.1%となっている。(図表1-2-1)

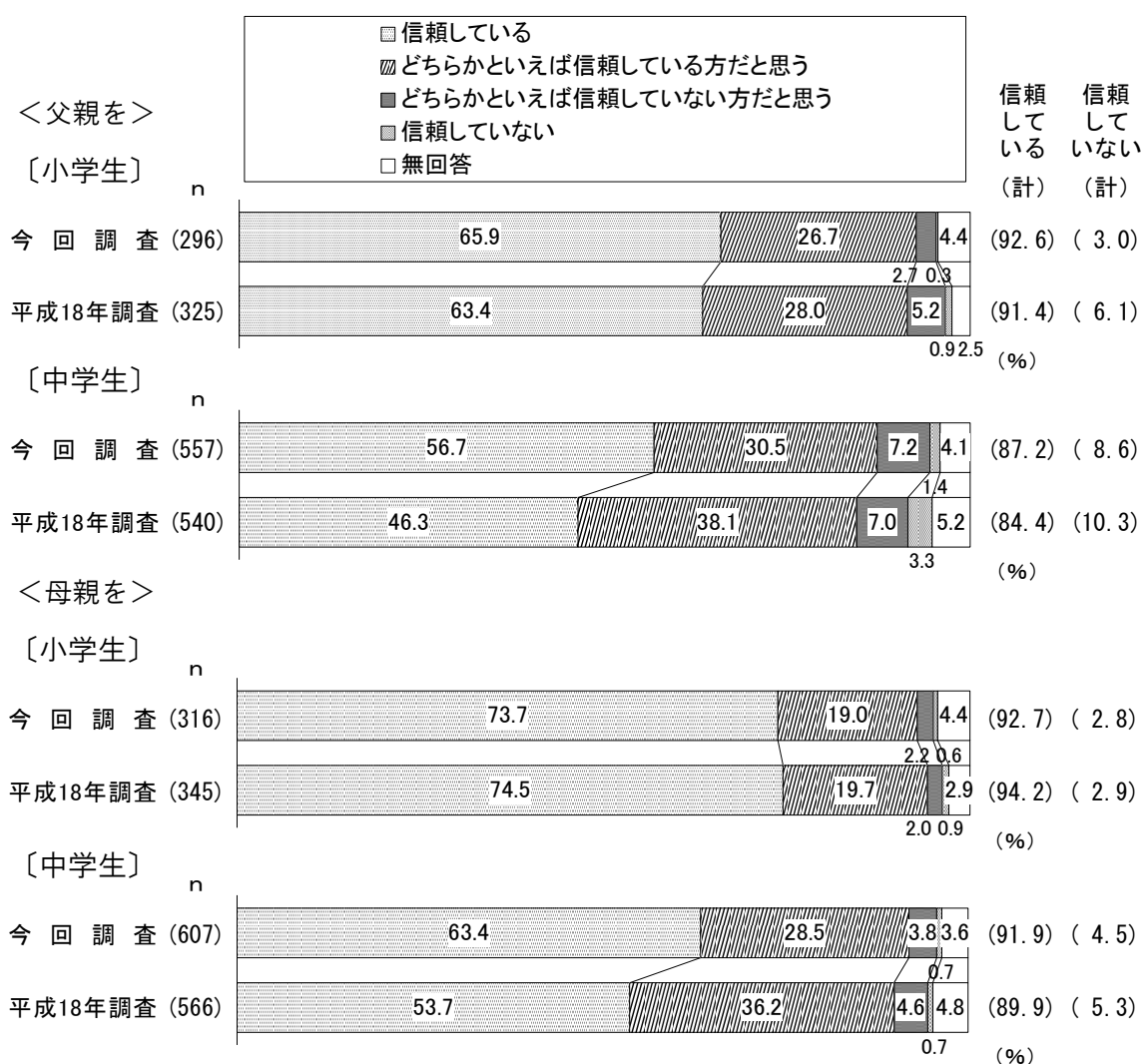
図表1-2-1



お父さん、お母さんを信頼しているかについて年代別にみると、『信頼している（計）』の割合はお母さんでは大きな差はみられないが、お父さんでは中学生より小学生の方が5.4ポイント多くなっている。「信頼している」の割合はお父さん、お母さんともに小学生の方が多く、「どちらかといえば信頼している方だと思う」の割合はお父さん、お母さんともに中学生の方が多くなっている。（図表1-2-2）

平成18年調査と比較すると、小学生についてはほぼ同じ傾向になっている。中学生については、『信頼している（計）』の割合には大きな差はみられないが、「信頼している」の割合はお父さんで10.4ポイント、お母さんで9.7ポイント増加している。（図表1-2-2）

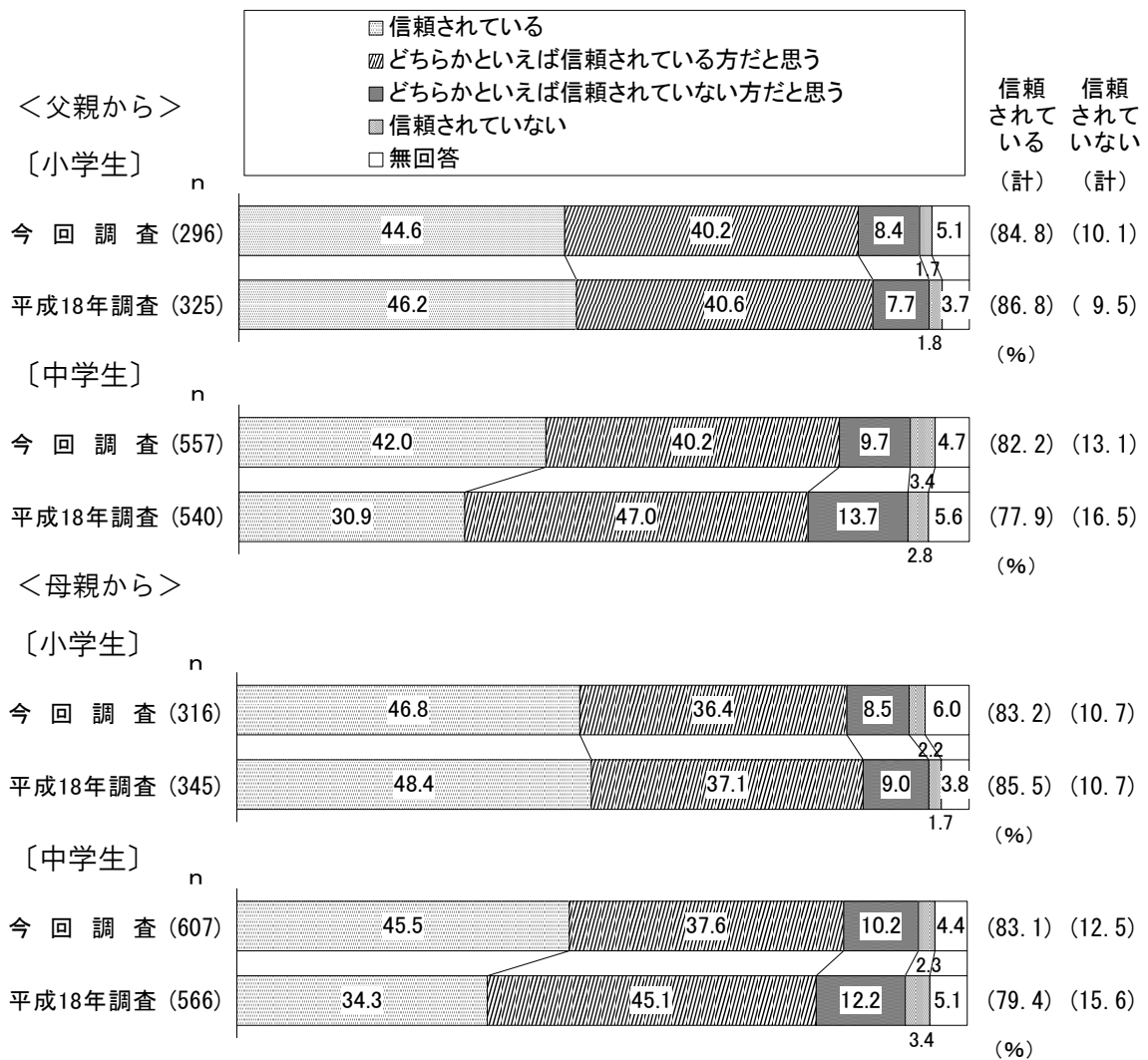
図表1-2-2 親との信頼感<子どもから親へ>（年代別経年比較）



お父さん、お母さんから信頼されていると思うかについて年代別にみると、お父さん、お母さんともに小学生と中学生の間で大きな差はみられない。(図表1-2-3)

平成18年調査と比較すると、小学生についてはほぼ同じ傾向になっている。中学生については、『信頼されている(計)』の割合は、お父さんで4.3ポイント、お母さんで3.7ポイント増加している。「信頼されている」の割合は、お父さんで11.1ポイント、お母さんで11.2ポイント増加している。(図表1-2-3)

図表1-2-3 親との信頼感<親から子どもへ> (年代別経年比較)



(3) 親に対してもつ感情

◇＜頼りになる＞はお父さんが83.0%、お母さんが87.6%

(「お父さん」か「お母さん」と一緒に暮らしていると答えた人にうかがいます)

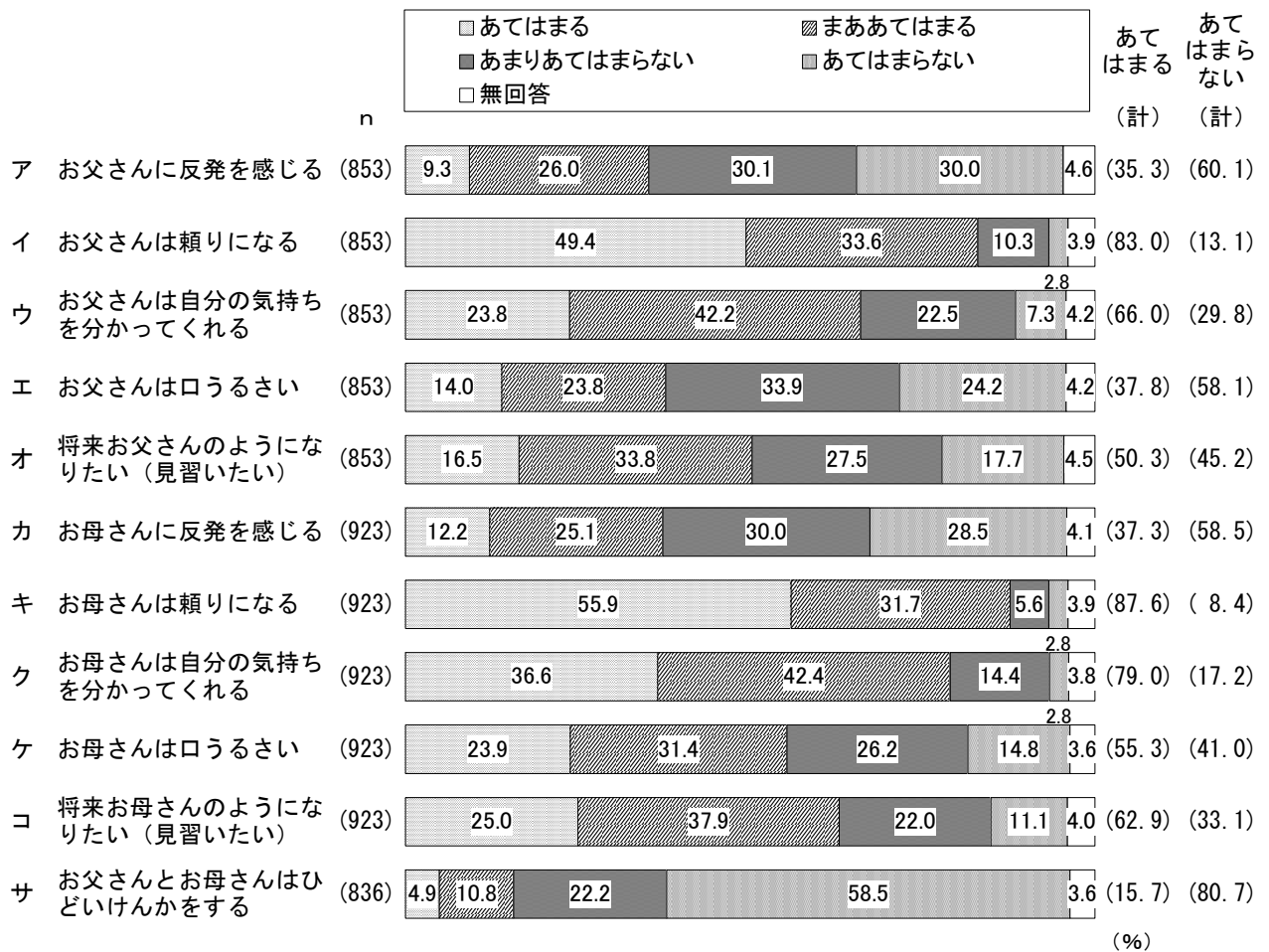
問8 あなたの、お父さんやお母さんには、次のことがあてはまりますか。アからサのそれぞれについて、1つ選んで○をつけてください。

(類似質問：満15歳～30歳99ページ参照)

お父さんやお母さんについてどのような感情を持っているか聞いたところ、「あてはまる」と「まああてはまる」の2つを合わせた『あてはまる(計)』の割合が最も多いのは、＜頼りになる＞で、お父さんへは83.0%、お母さんへは87.6%となっている。次いで＜自分の気持ちを分かってくれる＞は、お父さんへは66.0%、お母さんへは79.0%である。一方、＜反発を感じる＞では、『あてはまる(計)』はお父さんへは35.3%、お母さんへは37.3%となっている。

また、＜お父さんとお母さんはひどいけんかをする＞は、『あてはまる(計)』は15.7%となっている。(図表1-3-1)

図表1-3-1



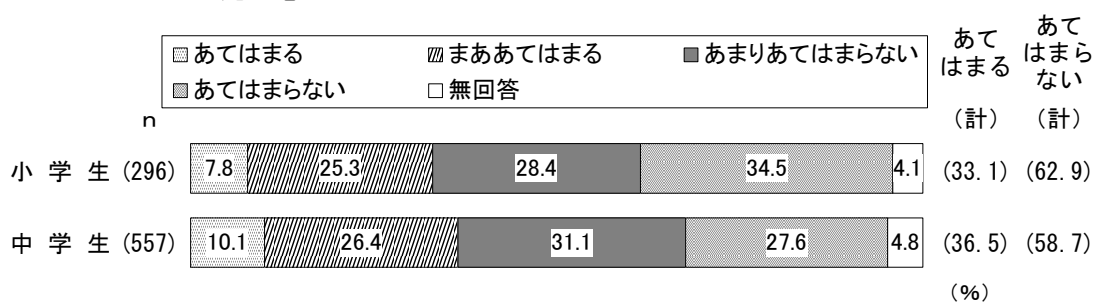
年代別にみると、小学生より中学生の方で『あてはまる（計）』の割合が多いのは、＜ア お父さんに反発を感じる＞、＜カ お母さんに反発を感じる＞、＜ケ お母さんは口うるさい＞の3項目で、特に＜ケ お母さんは口うるさい＞は中学生の方が8.1ポイント高くなっている。

それ以外の8項目では、中学生より小学生の方が『あてはまる（計）』の割合が多く、特に＜ウ お父さんは自分の気持ちを分かってくれる＞で10.7ポイント、＜ク お母さんは自分の気持ちを分かってくれる＞で9.0ポイント、それぞれ小学生の方が多くなっている。

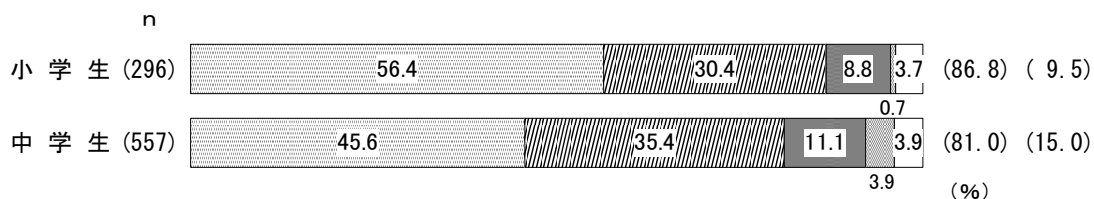
(図表1-3-2、図表1-3-3)

図表1-3-2 親に対してもつ感情（年代別）

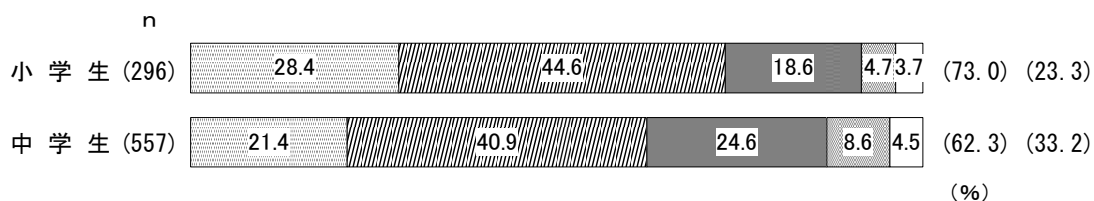
ア お父さんに反発を感じる



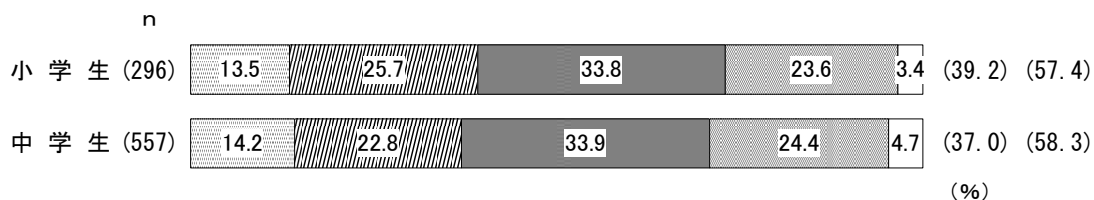
イ お父さんは頼りになる



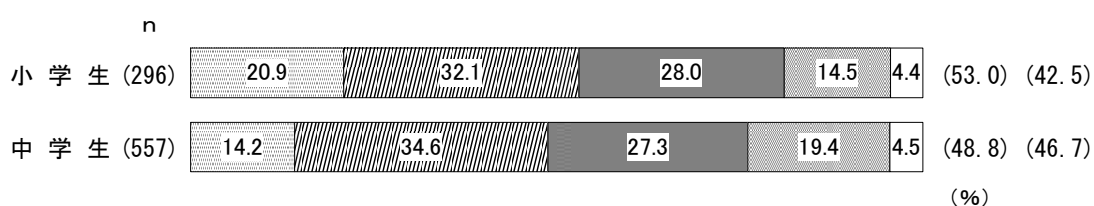
ウ お父さんは自分の気持ちを分かってくれる



エ お父さんは口うるさい

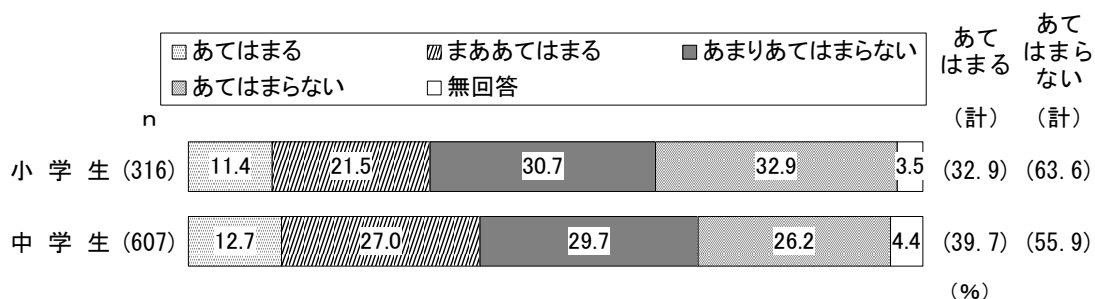


オ 将来お父さんのようになりたい（見習いたい）

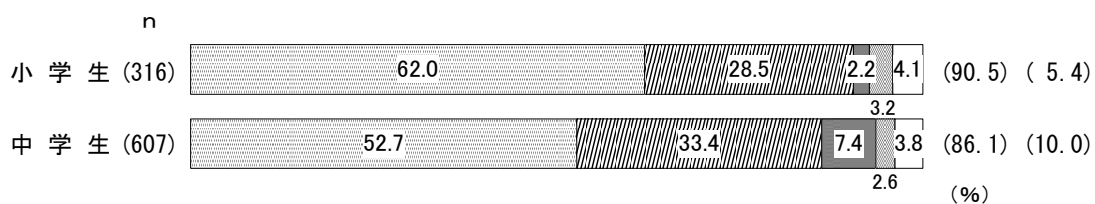


図表 1-3-3 親に対してもつ感情（年代別）（つづき）

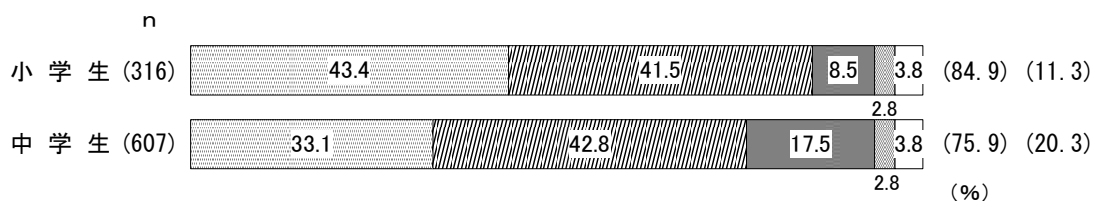
カ お母さんに反発を感じる



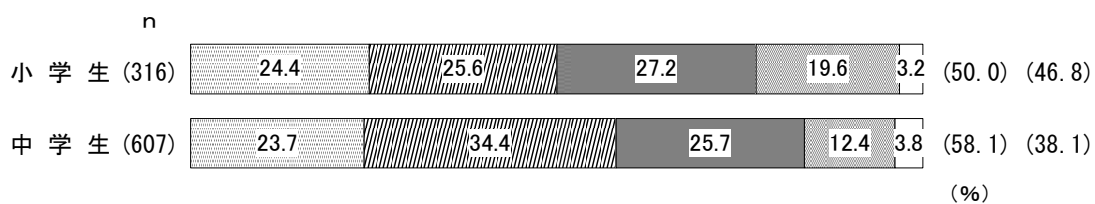
キ お母さんは頼りになる



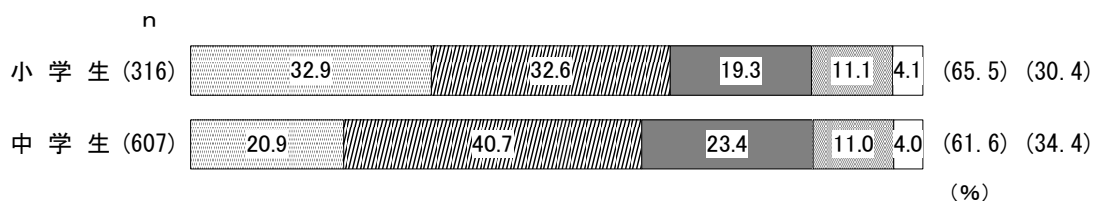
ク お母さんは自分の気持ちを分かってくれる



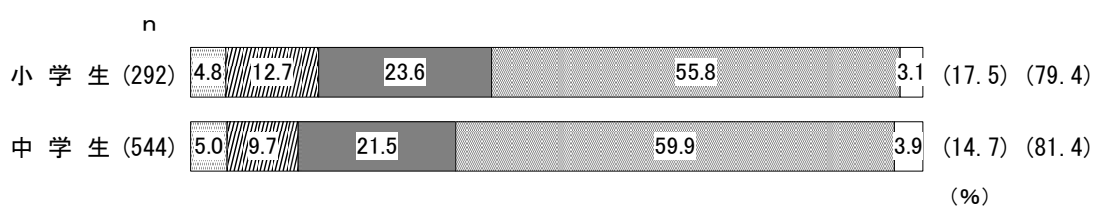
ケ お母さんは口うるさい



コ 将来お母さんのようになりたい（見習いたい）



サ お父さんとお母さんはひどいけんかをする



(4) 親との会話

◇『話す(計)』は90.6%

(「お父さん」か「お母さん」と一緒に暮らしていると答えた人にうかがいます)

問9 あなたは、お父さんやお母さんとよく話をするほうですか、それとも話さないほうですか。次の中から1つ選んで○をしてください。

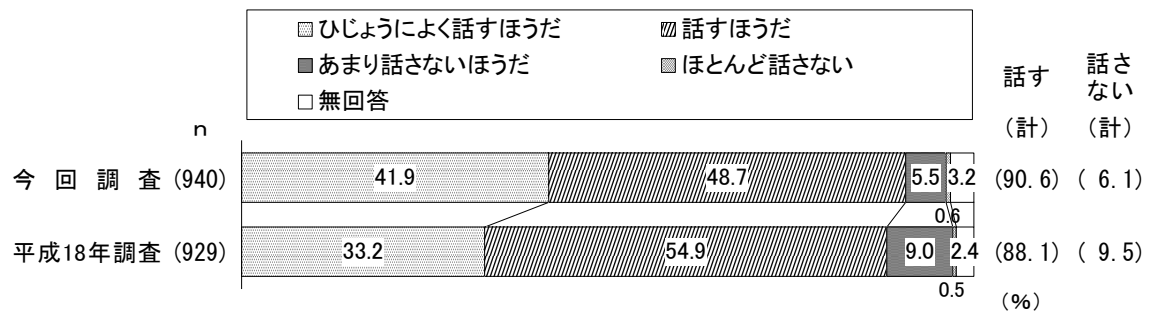
(類似質問：満15歳～30歳108ページ参照)

お父さんやお母さんとよく話をするか聞いたところ、「ひじょうによく話すほうだ」(41.9%)と「話すほうだ」(48.7%)の2つを合わせた『話す(計)』が90.6%と多くなっている。

平成18年調査と比較すると、「ひじょうによく話すほうだ」は8.7ポイント増加している。

(図表1-4-1)

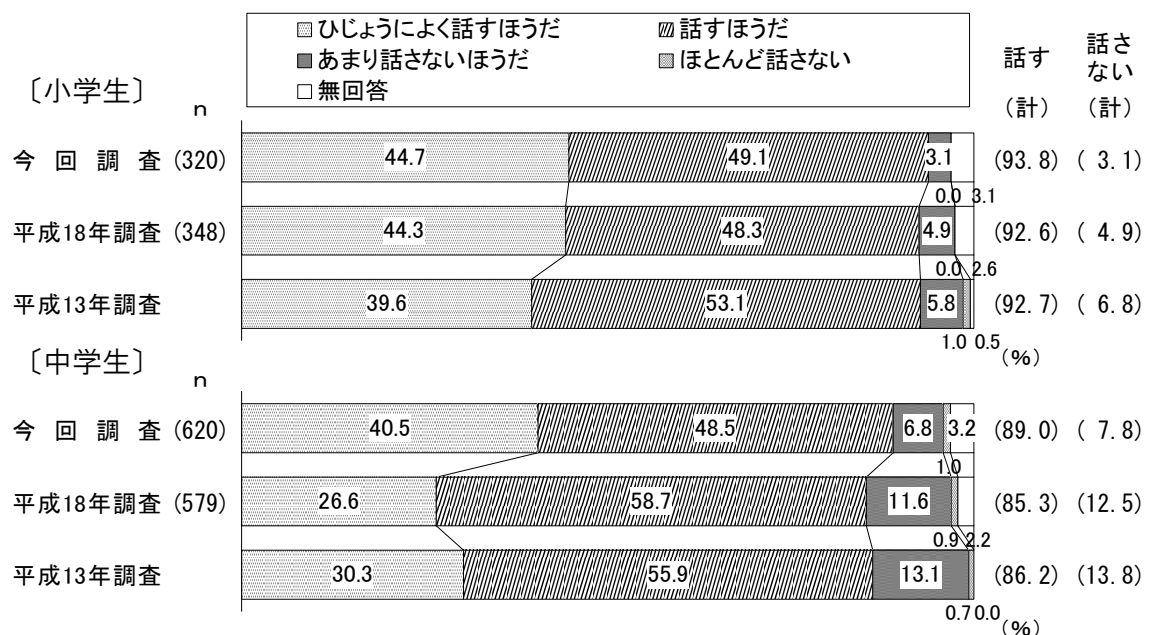
図表1-4-1



年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-4-2)

年代別に過去の調査結果と比較すると、小学生では平成18年調査とほぼ同じ傾向になっている。中学生では、『話す(計)』は平成18年調査より3.7ポイント増加しており、特に「ひじょうによく話すほうだ」は平成18年調査より13.9ポイント増加している。(図表1-4-2)

図表1-4-2 親との会話 (年代別経年比較)



(4-1) 親との会話が少ない理由

◇「話す話題がない」が29.3%

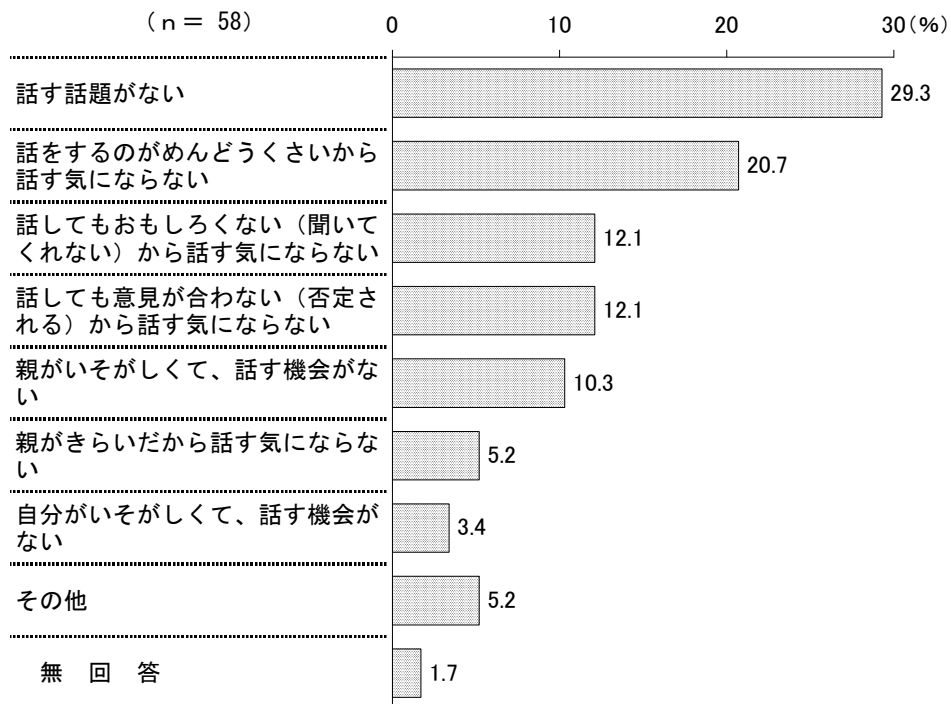
(問9で「あまり話さないほうだ」か「ほとんど話さない」に○をした人にうかがいます)

問10 あなたがお父さんやお母さんとあまり話さなかったり、ほとんど話さなかったりするおもな理由は何ですか。次の中から1つ選んで○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳110ページ参照)

お父さんやお母さんと「あまり話さないほうだ」「ほとんど話さない」と答えた子どもに、その理由を聞いたところ、「話す話題がない」が29.3%で最も多く、次いで「話をするのがめんどくさいから話す気にならない」(20.7%)、「話してもおもしろくない(聞いてくれない)から話す気にならない」、「話しても意見が合わない(否定される)から話す気にならない」(ともに12.1%)、「親がいそがしくて、話す機会がない」(10.3%)などの順となっている。(図表1-4-3)

図表1-4-3

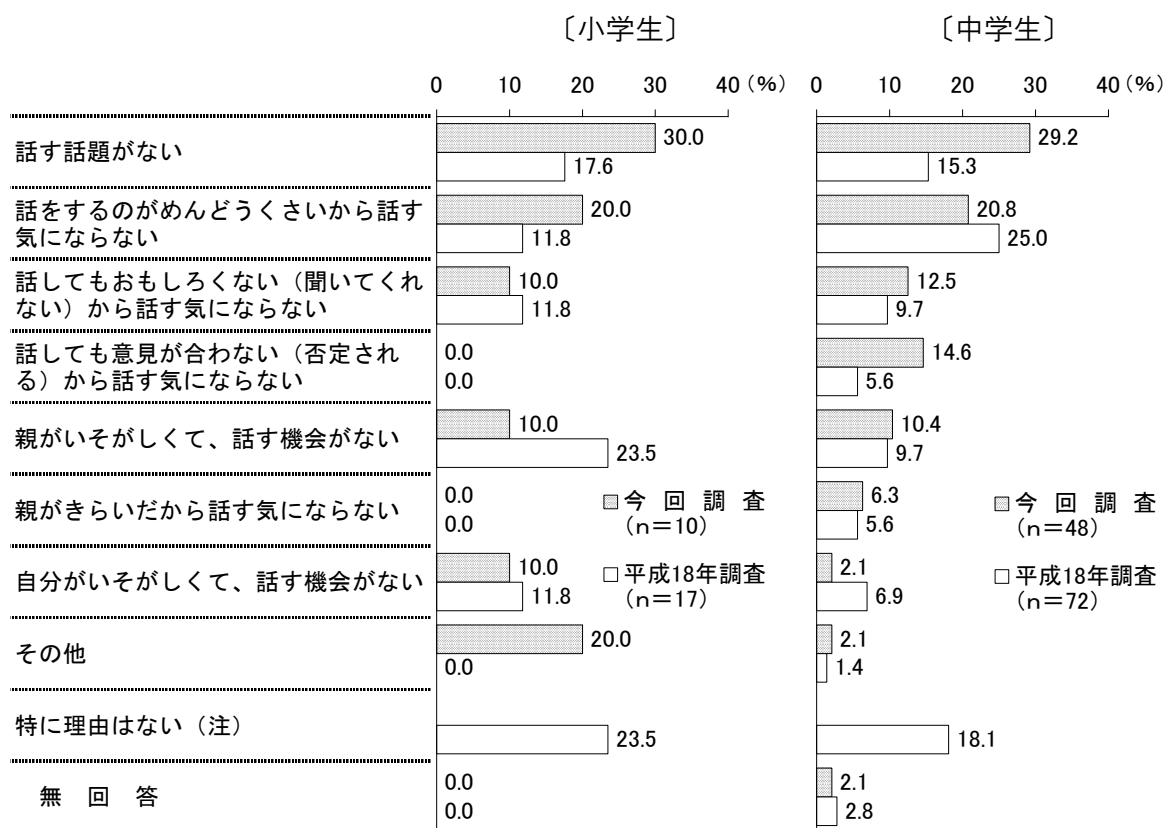


年代別の比較については、小学生の母数が10人と少ないため参考にとどまる。(図表1-4-4)

平成18年調査と比較すると、中学生については、「話す話題がない」や「話しても意見が合わない(否定される)から話す気にならない」の割合が平成18年調査に比べて増加している。

(図表1-4-4)

図表1-4-4 親との会話が少ない理由(年代別経年比較)



(注)「特に理由はない」の選択肢は今回調査では省いている。

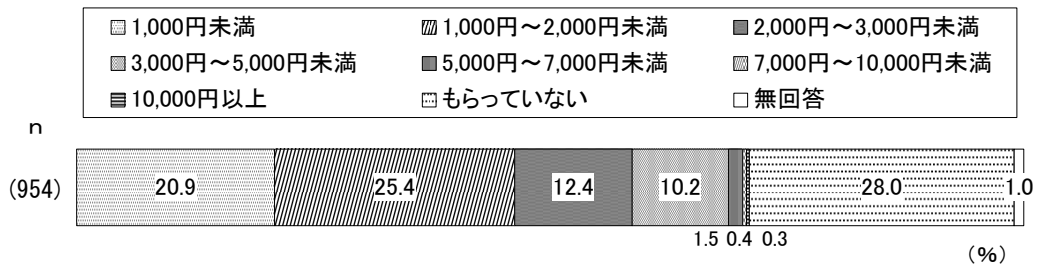
(5) おこづかいの額

◇「もらっていない」が28.0%、「1,000円～2,000円未満」が25.4%、「1,000円未満」が20.9%

問11 あなたは、1か月におこづかいをいくら（決まっていない場合は1か月のだいたいの金額）もらっていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。
 （類似質問：満15歳～30歳114ページ参照）

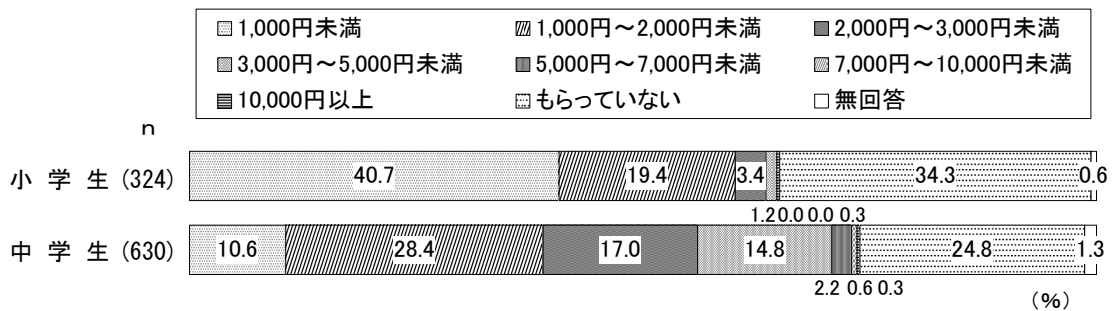
1か月におこづかいをいくらもらっているか聞いたところ、「もらっていない」が28.0%、「1,000円～2,000円未満」が25.4%、「1,000円未満」が20.9%となっている。次いで「2,000円～3,000円未満」が12.4%、「3,000円～5,000円未満」が10.2%などとなっている。（図表1-5-1）

図表1-5-1



年代別にみると、小学生では「もらっていない」(34.3%)と「1,000円未満」(40.7%)が多く、この2項目を合わせると小学生全体の4分の3を占める。中学生になると、「もらっていない」は24.8%と減少し、「1,000円～2,000円未満」が28.4%、「2,000円～3,000円未満」が17.0%、「3,000円～5,000円未満」が14.8%などと多くなっている。それでも、5,000円以上おこづかいをもらっている中学生はわずかである。（図表1-5-2）

図表1-5-2 おこづかいの額（年代別）



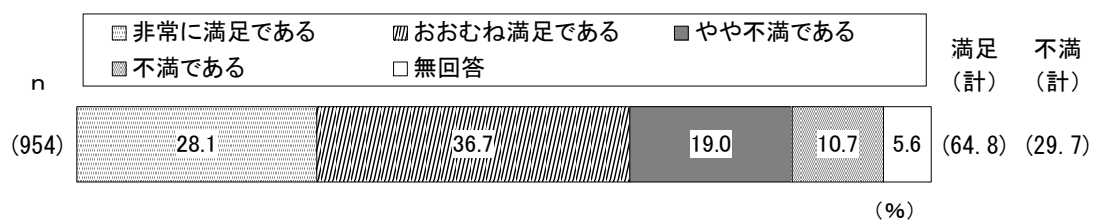
(6) おこづかいの額の満足度

◇『満足(計)』は64.8%

問12 あなたは今のおこづかいの金額をどのように感じていますか。
 (類似質問：満15歳～30歳115ページ参照)

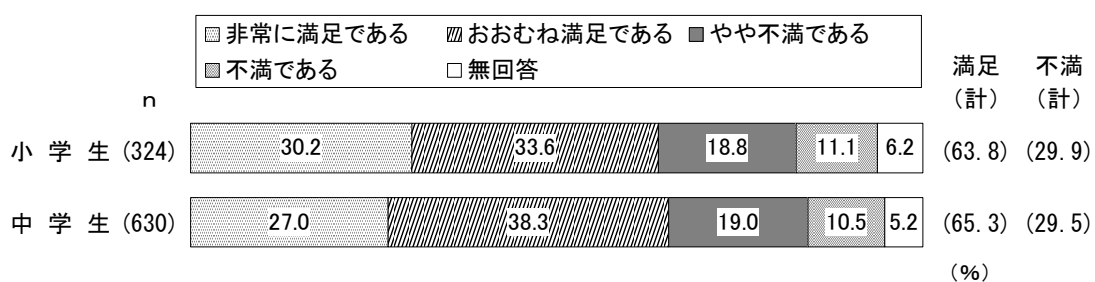
今のおこづかいの金額をどのように感じているか聞いたところ、「非常に満足である」(28.1%)と「おおむね満足である」(36.7%)の2つを合わせた『満足(計)』が64.8%となっている。「やや不満である」(19.0%)と「不満である」(10.7%)の2つを合わせた『不満(計)』は29.7%である。(図表1-6-1)

図表1-6-1



年代別にみると、小学生、中学生ともに『満足(計)』が6割台、『不満(計)』が3割近くとなっており、ほぼ同じ傾向となっている。(図表1-6-2)

図表1-6-2 おこづかいの額の満足度(年代別)



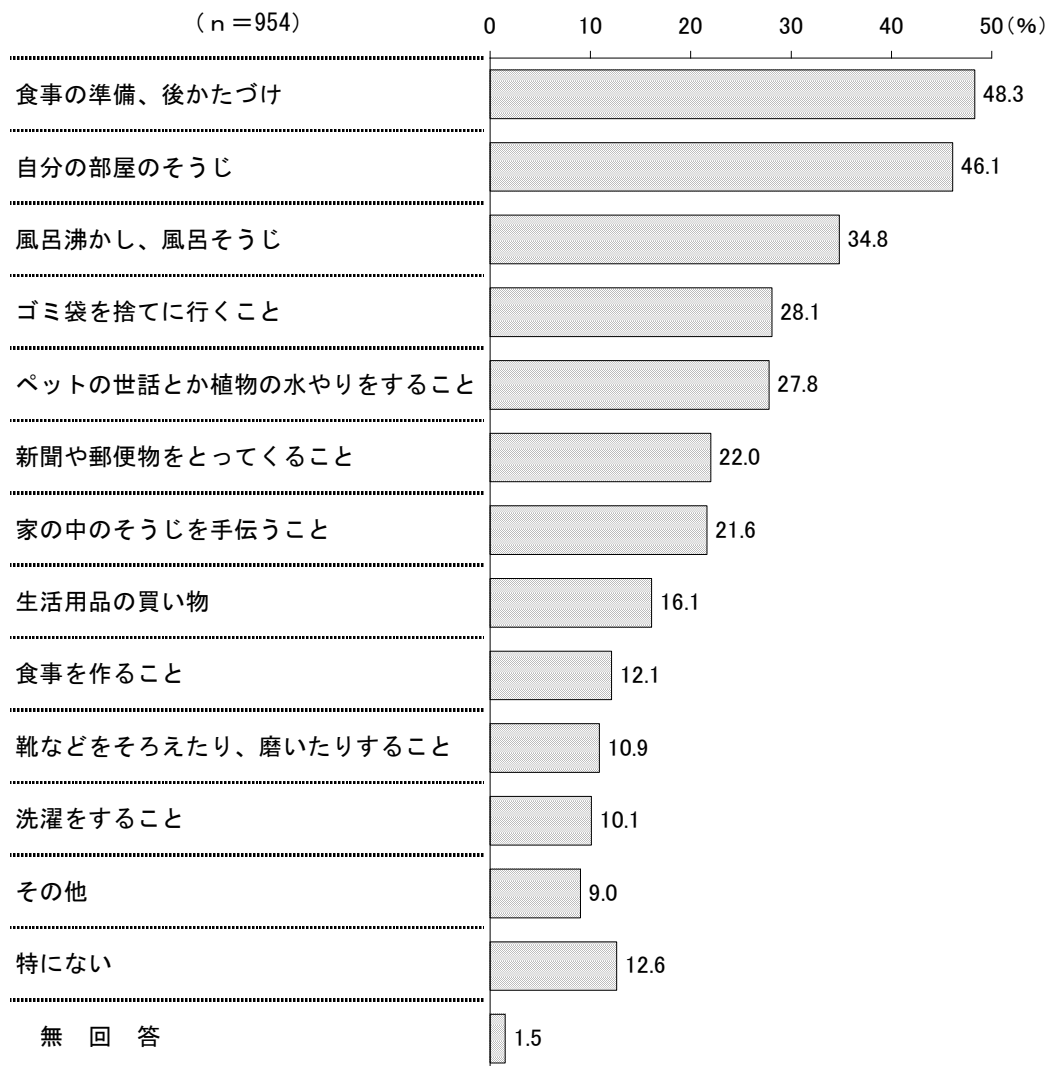
(7) 家庭生活の中での役割

◇「食事の準備、後かたづけ」が48.3%、「自分の部屋のそうじ」が46.1%

問13 家庭生活の中で、あなたの役割となっているものは何ですか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。(あなたが1人でするものでなくとも、お手伝いなどをする場合は○をつけてください。)

家庭生活の中で役割となっているものを聞いたところ、「食事の準備、後かたづけ」が48.3%で最も多く、次いで「自分の部屋のそうじ」(46.1%)、「風呂沸かし、風呂そうじ」(34.8%)、「ゴミ袋を捨てに行くこと」(28.1%)、「ペットの世話とか植物の水やりをすること」(27.8%)などの順となっている。(図表1-7-1)

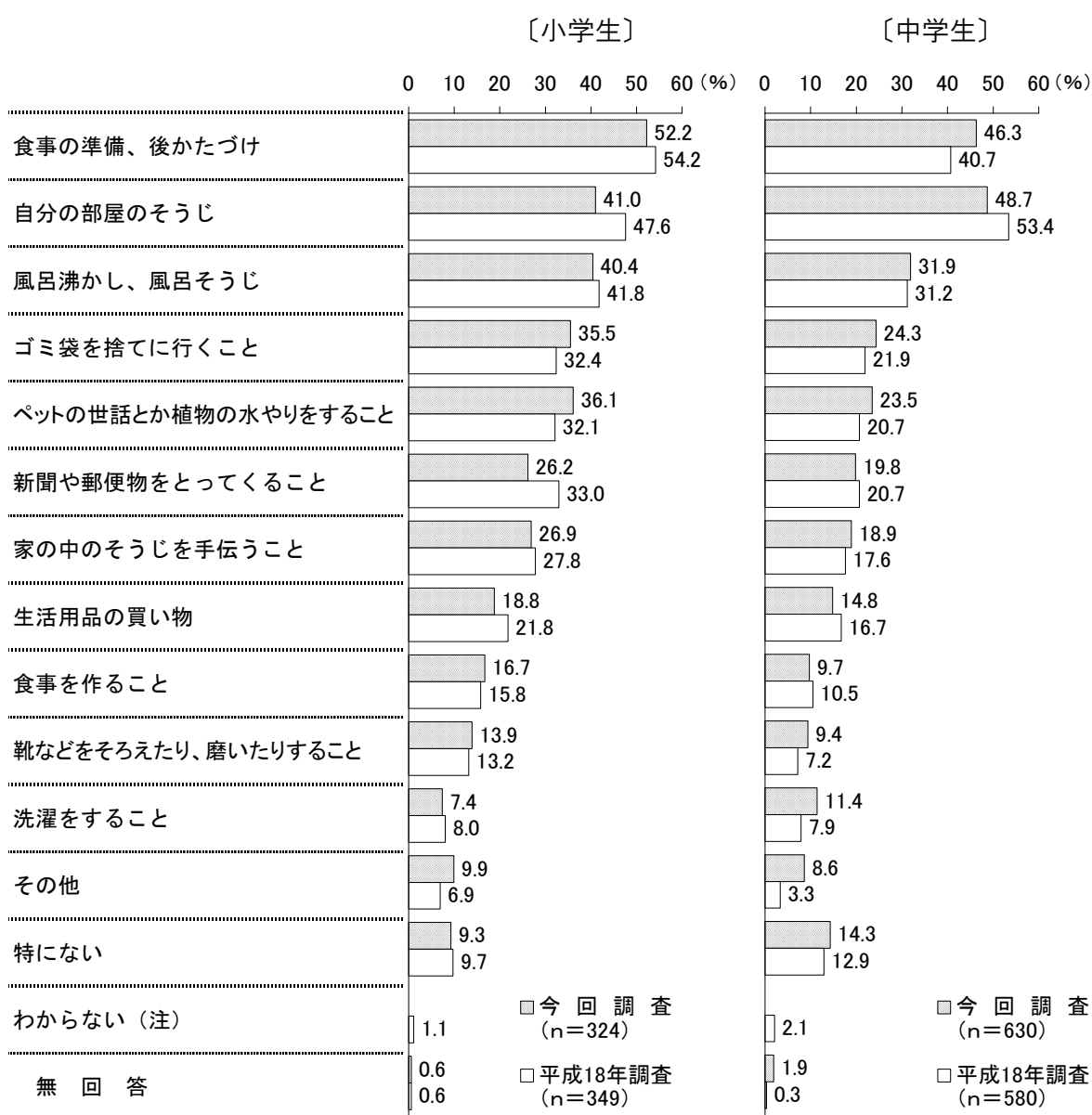
図表1-7-1



年代別にみると、「自分の部屋のそうじ」は小学生より中学生の方が7.7ポイント高く、「洗濯をすること」も小学生より中学生の方が4.0ポイント高くなっているが、それ以外の項目はいずれも中学生より小学生の方が割合が多くなっている。(図表1-7-2)

平成18年調査と比較すると、「食事の準備、後かたづけ」は中学生で5.6ポイント増加している。「自分の部屋のそうじ」は小学生で6.6ポイント、中学生で4.7ポイント、それぞれ減少している。「新聞や郵便物を取ってくること」は小学生で6.8ポイント減少している。(図表1-7-2)

図表1-7-2 家庭生活の中での役割 (年代別経年比較)



(注)「わからない」の選択肢は今回調査では省いている。

(8) 家庭・家族の満足度

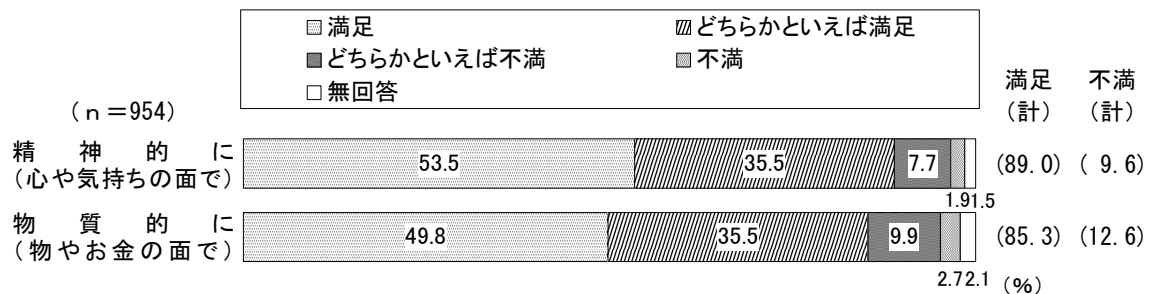
◇<精神的に>と<物質的に>いずれも『満足(計)』は8割台

問14 あなたは家庭や家族のことで満足していますか。「精神的に」「物質的に」のそれぞれについて、1つ選んで○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳112ページ、保護者232ページ参照)

家族や家庭のことで満足しているか聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」の2つを合わせた『満足(計)』の割合は、<精神的に(心や気持ちの面で)>(89.0%)、<物質的に(物やお金の面で)>(85.3%)の両面ともに8割台と高くなっている。(図表1-8-1)

図表1-8-1

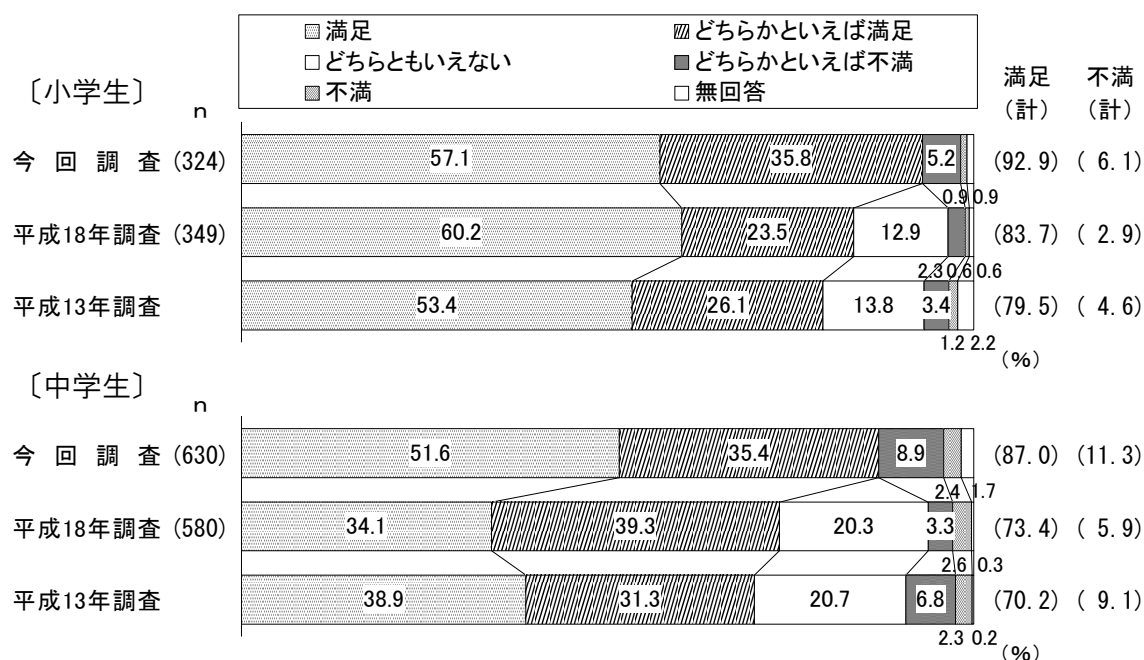


年代別にみると、＜精神的に（心や気持ちの面で）＞は、『満足（計）』の割合は小学生で92.9%、中学生で87.0%と多く、大きな差はみられない。（図表1-8-2）

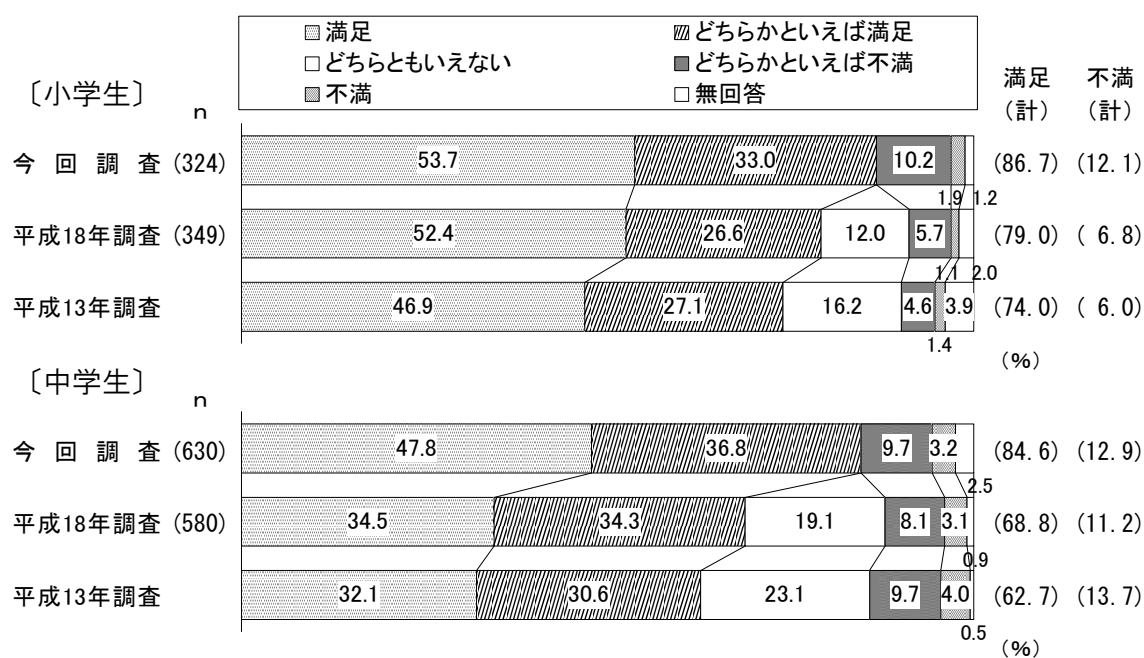
＜物質的に（物やお金の面で）＞でも、『満足（計）』の割合は小学生（86.7%）、中学生（84.6%）ともに8割台で、ほぼ同じ傾向になっている。（図表1-8-3）

また、過去の調査との比較は、今回調査では「どちらともいえない」の選択肢を省いているため参考にとどまるが、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-8-2、図表1-8-3）

図表1-8-2 家庭・家族の満足度＜精神的に（心や気持ちの面で）＞（年代別経年比較）



図表1-8-3 家庭・家族の満足度＜物質的に（物やお金の面で）＞（年代別経年比較）



(9) 家庭での不満や不安

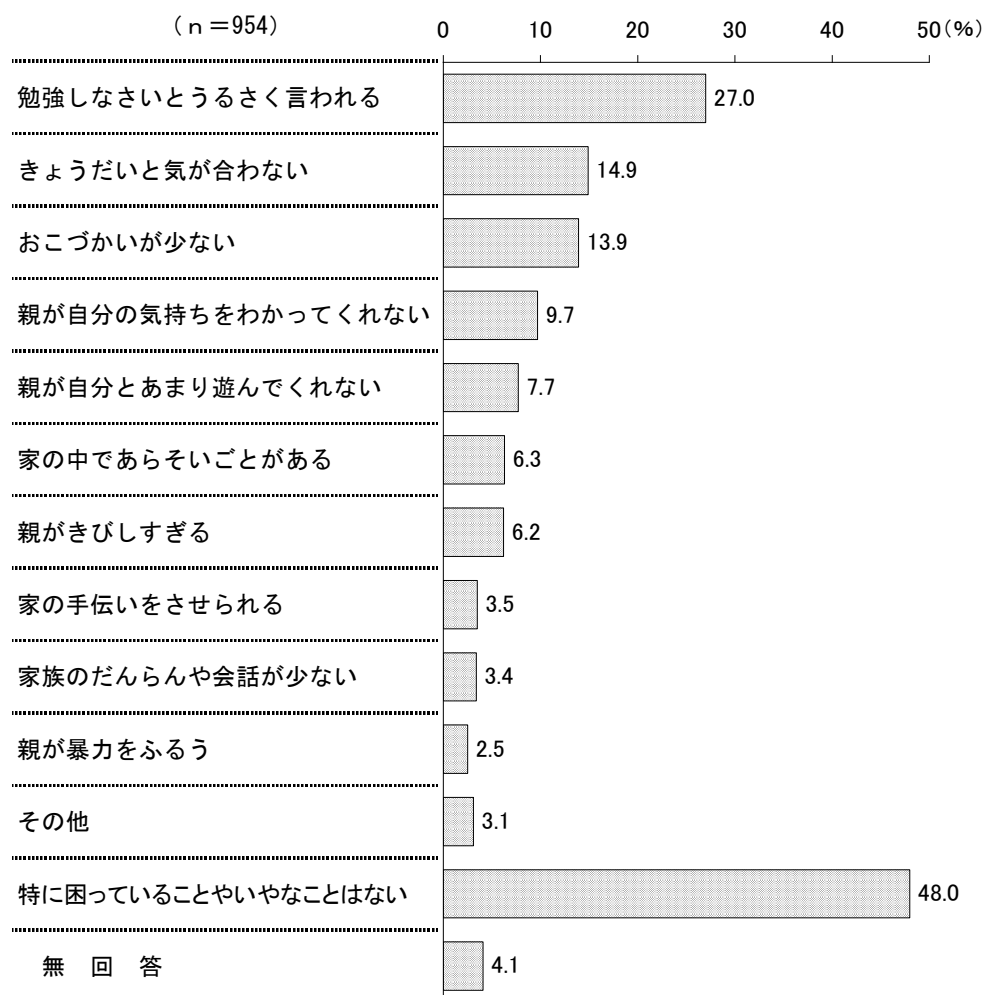
◇「勉強しなさいとうるさく言われる」が27.0%、「特に困っていることやいやなことはない」は48.0%

問15 あなたは、あなたの家のことで何か困っていることやいやなことがありますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳116ページ参照)

家のことで困っていることやいやなことは何か聞いたところ、「勉強しなさいとうるさく言われる」が27.0%で最も多く、次いで「きょうだいと気が合わない」(14.9%)、「おこづかいが少ない」(13.9%)、「親が自分の気持ちをわかってくれない」(9.7%)などの順となっている。「特に困っていることやいやなことはない」は48.0%である。(図表1-9-1)

図表1-9-1

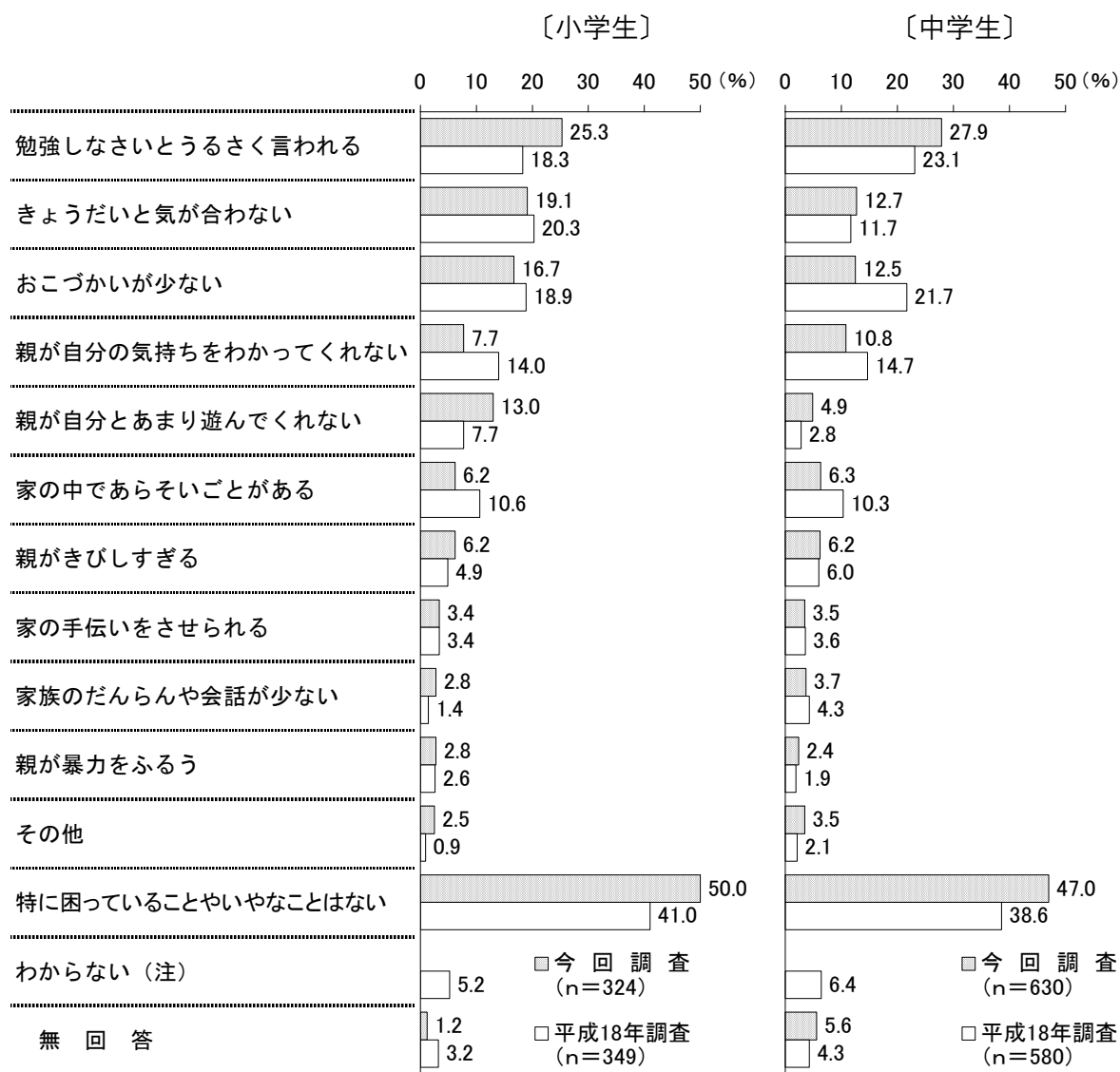


年代別にみると、中学生よりも小学生で割合が高いのは、「きょうだいと気が合わない」(19.1%)、「おこづかいが少ない」(16.7%)、「親が自分とあまり遊んでくれない」(13.0%) などである。逆に、小学生よりも中学生で割合が高いのは、「勉強しなさいとうるさく言われる」(27.9%)、「親が自分の気持ちをわかってくれない」(10.8%) などである。(図表1-9-2)

平成18年調査と比較すると、「勉強しなさいとうるさく言われる」は小学生で7.0ポイント、中学生で4.8ポイント増加している。

逆に、「おこづかいが少ない」は中学生で9.2ポイント減少しているほか、「親が自分の気持ちをわかってくれない」は小学生で6.3ポイント、中学生で3.9ポイント減少している。「家の中であらそいごとがある」も小学生で4.4ポイント、中学生で4.0ポイント減少している。(図表1-9-2)

図表1-9-2 家庭での不満や不安 (年代別経年比較)



(注)「わからない」の選択肢は今回調査では省いている。今回調査では「特に困っていることやいやなことはない」の割合が平成18年調査に比べて増加しているが、これは、「わからない」の選択肢が今回調査で省かれていることが影響している可能性があることに注意が必要である。

(10) 家出したいと思った経験の有無とその理由

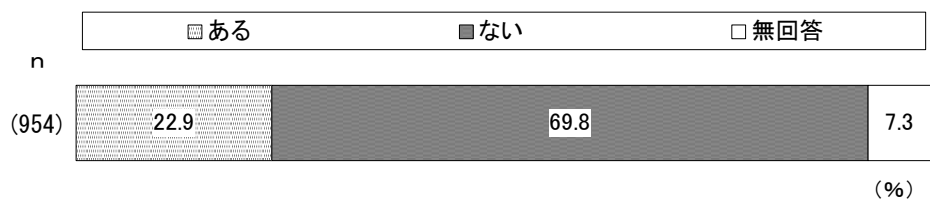
◇家出したいと思ったことがある人は22.9%、理由は「親によくおこられるから」が54.6%

問16 あなたは家出したいと思ったことがありますか。ある場合は、その理由は何ですか。
次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

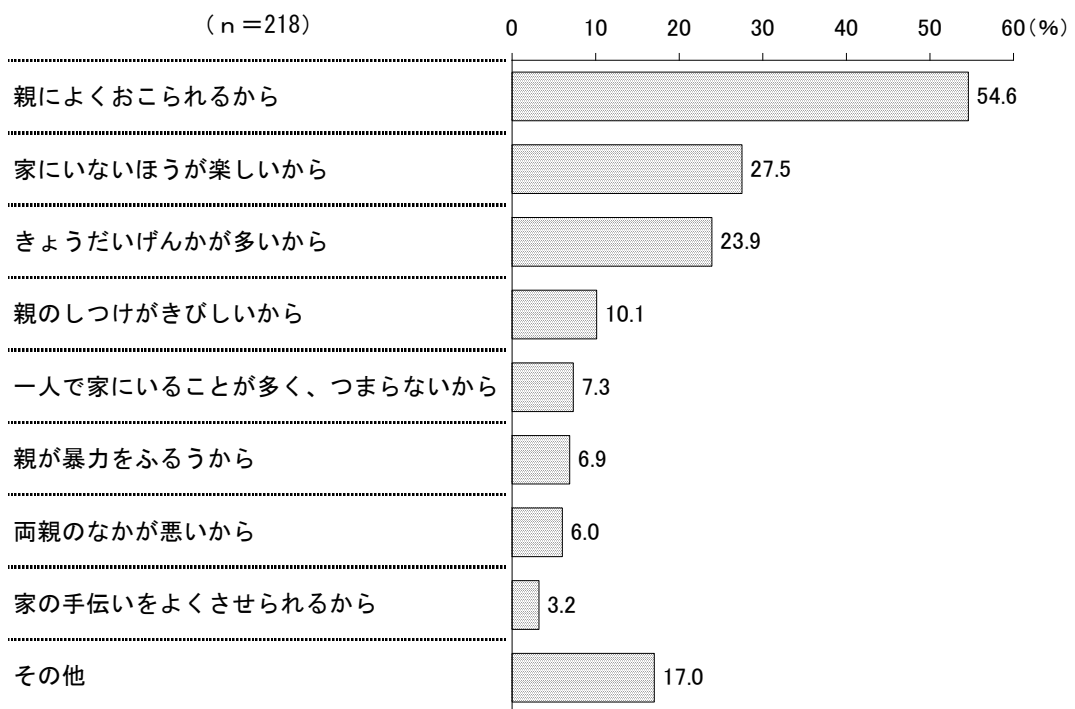
家出したいと思ったことがあるか聞いたところ、「ある」は22.9%、「ない」は69.8%となっている。(図表1-10-1)

家出したいと思ったことが「ある」と答えた子どもに、その理由を聞いたところ、「親によくおこられるから」が54.6%で最も多く、次いで「家にいないほうが楽しいから」(27.5%)、「きょうだいげんかが多いから」(23.9%)、「親のしつけがきびしいから」(10.1%)などの順となっている。(図表1-10-2)

図表1-10-1 家出したいと思った経験の有無

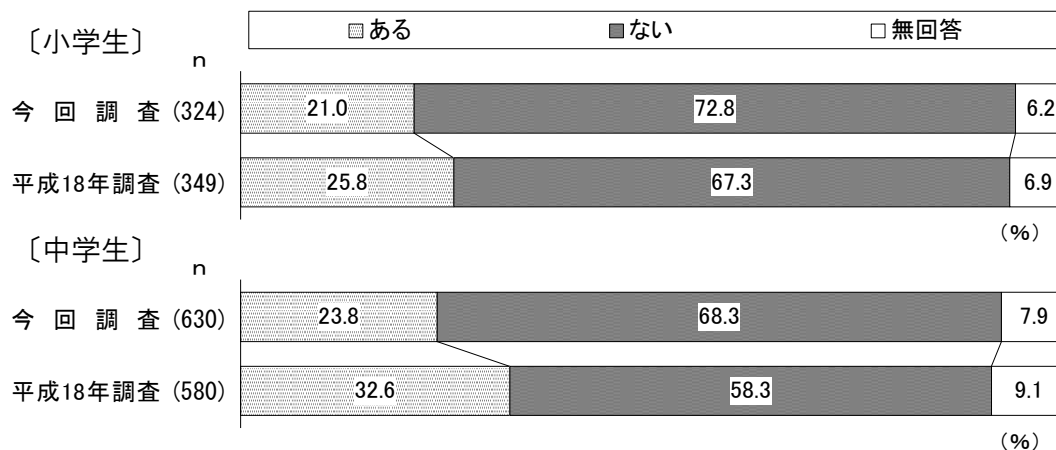


図表1-10-2 家出したいと思った理由



家出したいと思ったことがあるかについて年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。平成18年調査と比較すると、「ある」は小学生で4.8ポイント、中学生で8.8ポイント減少している。(図表1-10-3)

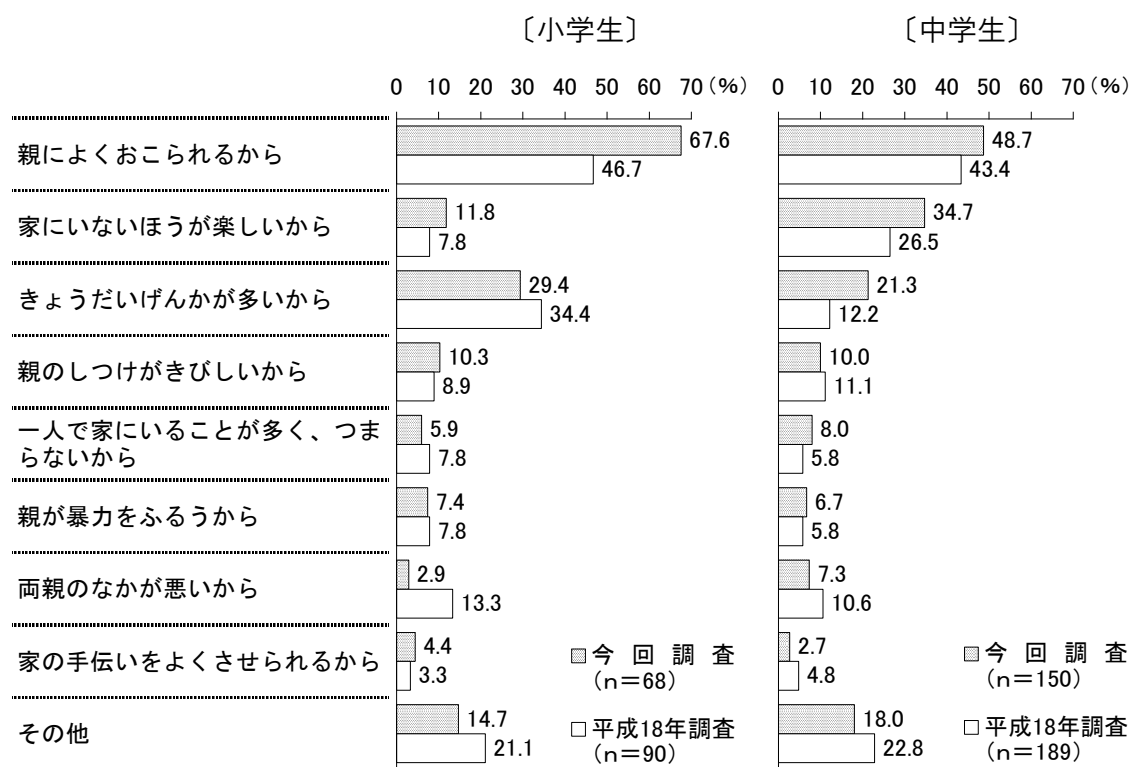
図表1-10-3 家出したいと思った経験の有無 (年代別経年比較)



家出したいと思った理由について年代別にみると、小学生では「親によくおこられるから」が67.6%と特に多く、次いで「きょうだいげんかが多いから」(29.4%)が多くなっている。中学生では、「家にいないほうが楽しいから」が34.7%で、「親によくおこられるから」(48.7%)に次いで多い理由となっている。(図表1-10-4)

平成18年調査と比較すると、「親によくおこられるから」は小学生で20.9ポイント増加している。「きょうだいげんかが多いから」は中学生で9.1ポイント増加している。(図表1-10-4)

図表1-10-4 家出したいと思った理由 (年代別経年比較)



2 学校生活やおけいごとについて

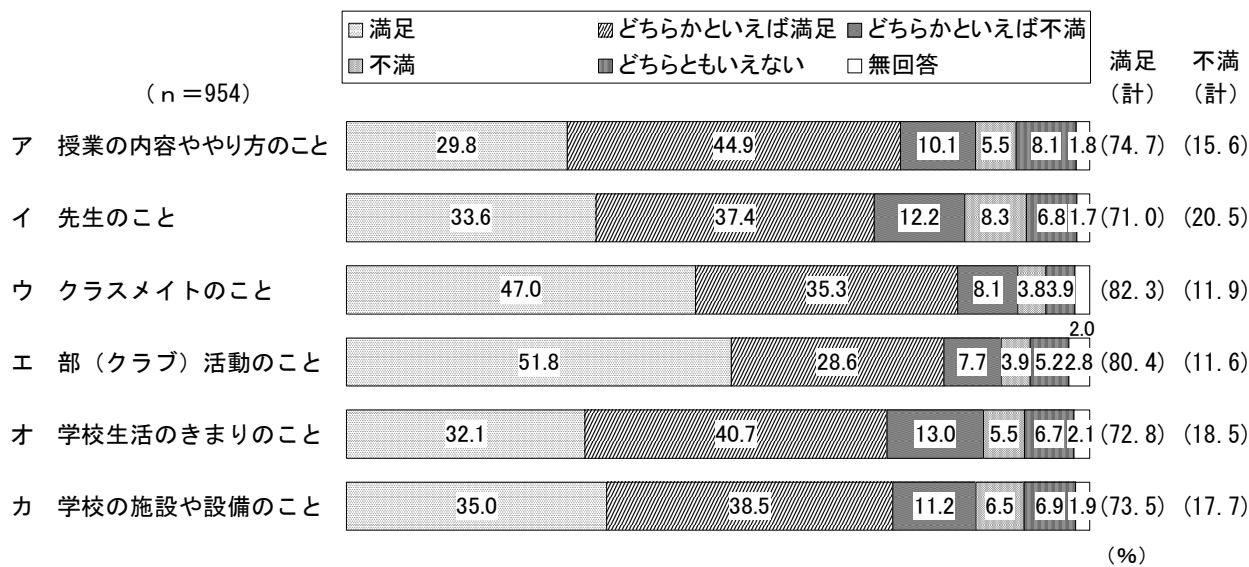
(1) 学校生活の満足度

◇『満足(計)』は<クラスメイトのこと>と<部(クラブ)活動のこと>で8割台

問17 あなたは、学校での生活に満足していますか。それぞれについて、1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳125ページ参照)

学校での生活に満足しているか、6項目に分けて聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」の2つを合わせた『満足(計)』は、<ウ クラスメイトのこと>(82.3%)と<エ 部(クラブ)活動のこと>(80.4%)の2項目で8割を超え、それ以外の4項目でもいずれも7割台となっている。「満足」が最も多いのは、<エ 部(クラブ)活動のこと>(51.8%)で、次いで<ウ クラスメイトのこと>(47.0%)、<カ 学校の施設や設備のこと>(35.0%)などの順となっている。(図表2-1-1)

図表2-1-1



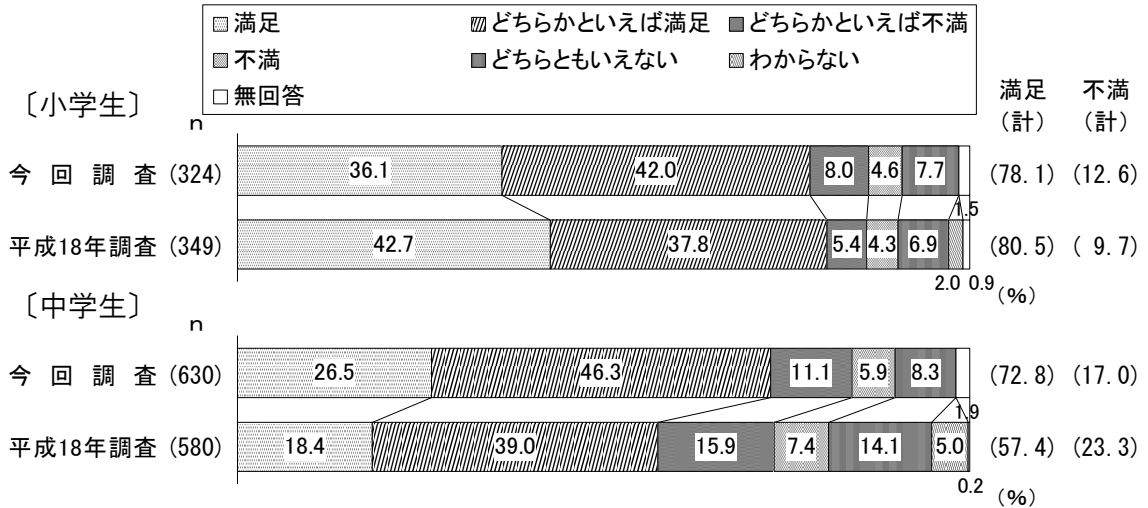
年代別にみると、『満足（計）』は6項目すべてで中学生より小学生の方が割合が多く、特に＜イ 先生のこと＞では12.0ポイント高くなっている。（図表2-1-2、2-1-3）

平成18年調査と比較すると、ほとんどの項目で『満足（計）』の割合が増加しているが、＜ア 授業の内容ややり方のこと＞は、小学生で『満足（計）』の割合が2.4ポイント減少している。

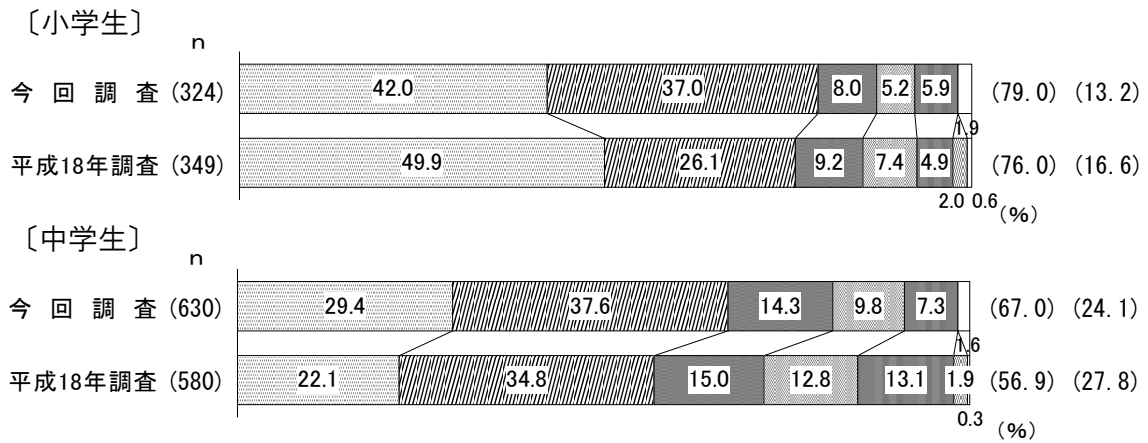
（図表2-1-2、2-1-3）

図表2-1-2 学校生活の満足度（年代別経年比較）

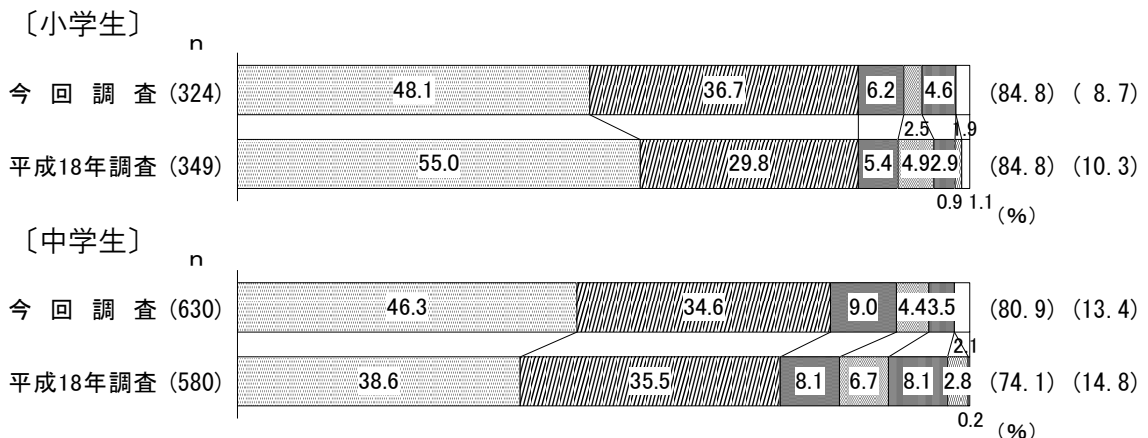
ア 授業の内容ややり方のこと



イ 先生のこと

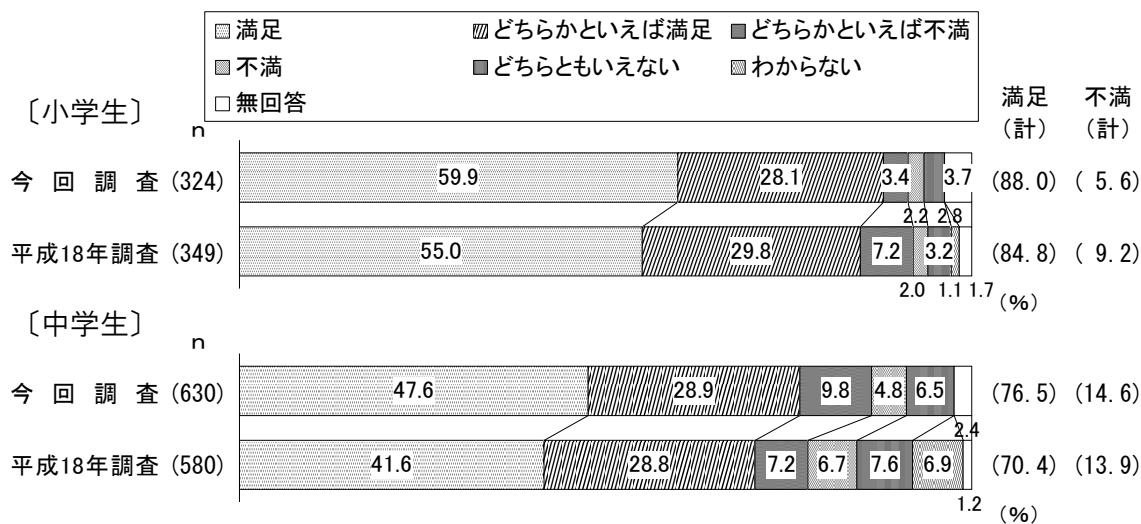


ウ クラスメイトのこと

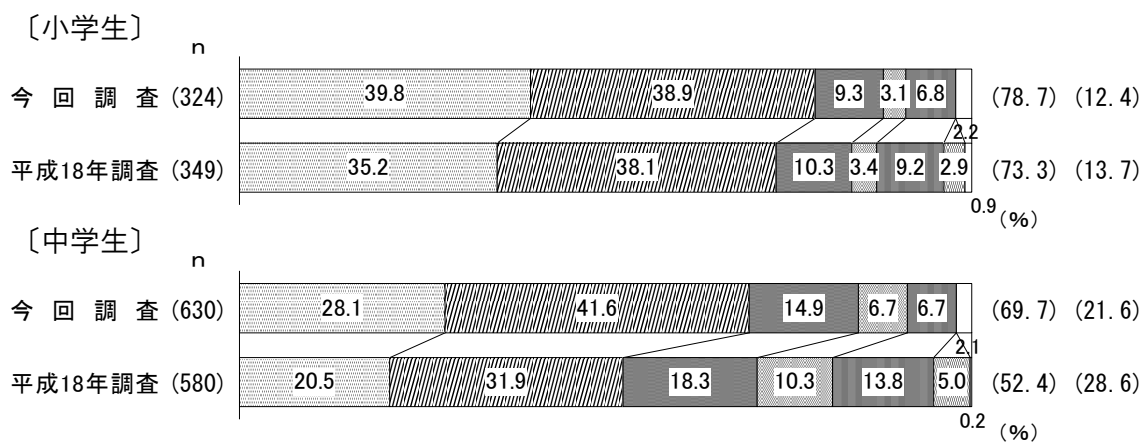


図表2-1-3 学校生活の満足度（年代別経年比較）（つづき）

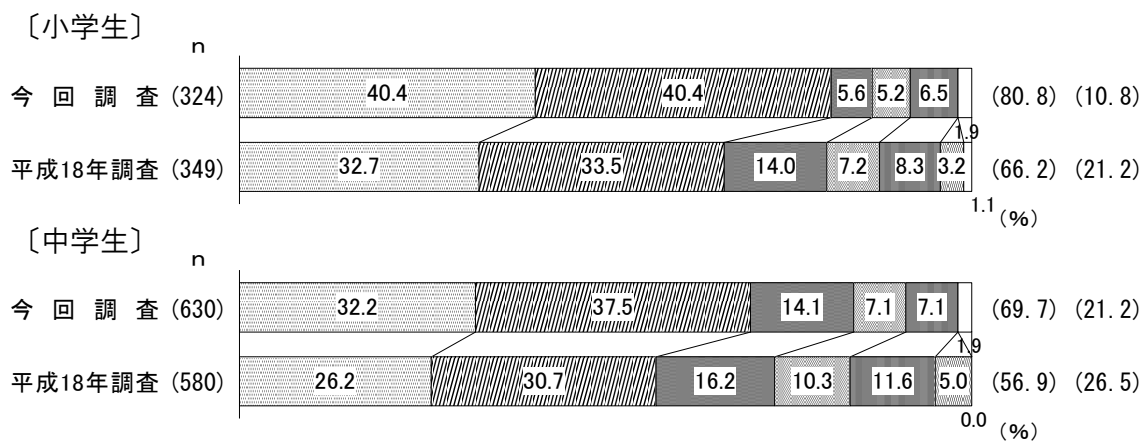
エ 部（クラブ）活動のこと



オ 学校生活のきまりのこと



カ 学校の施設や設備のこと



(2) 学校に行きたくないと思った経験

◇「そう思ったことは1度もない」が44.1%

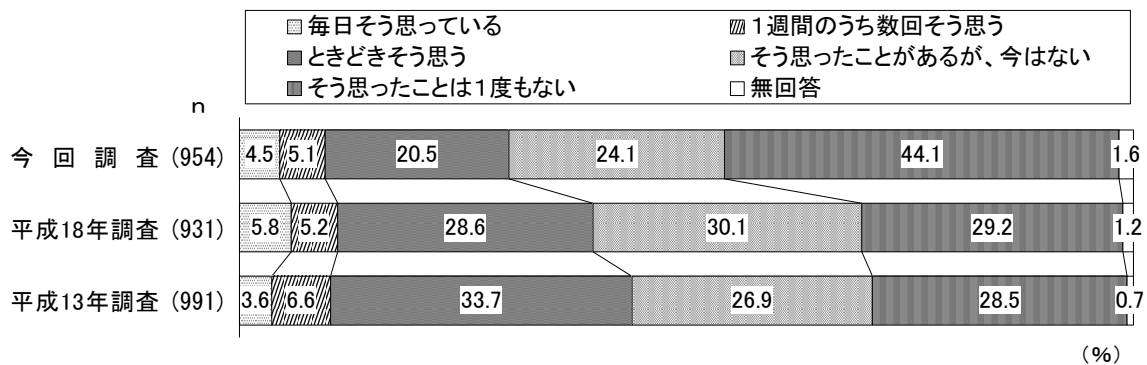
問18 あなたは、「学校に行きたくない」と思ったことがありますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

「学校に行きたくない」と思ったことがあるか聞いたところ、「毎日そう思っている」は4.5%、「1週間のうち数回そう思う」は5.1%となっている。「ときどきそう思う」は20.5%、「そう思ったことはあるが、今はない」が24.1%、「そう思ったことは1度もない」は44.1%である。

過去の調査と比較すると、「そう思ったことは1度もない」が平成18年調査に比べて14.9ポイント増加し、「ときどきそう思う」と「そう思ったことがあるが、今はない」が減少している。

(図表2-2-1)

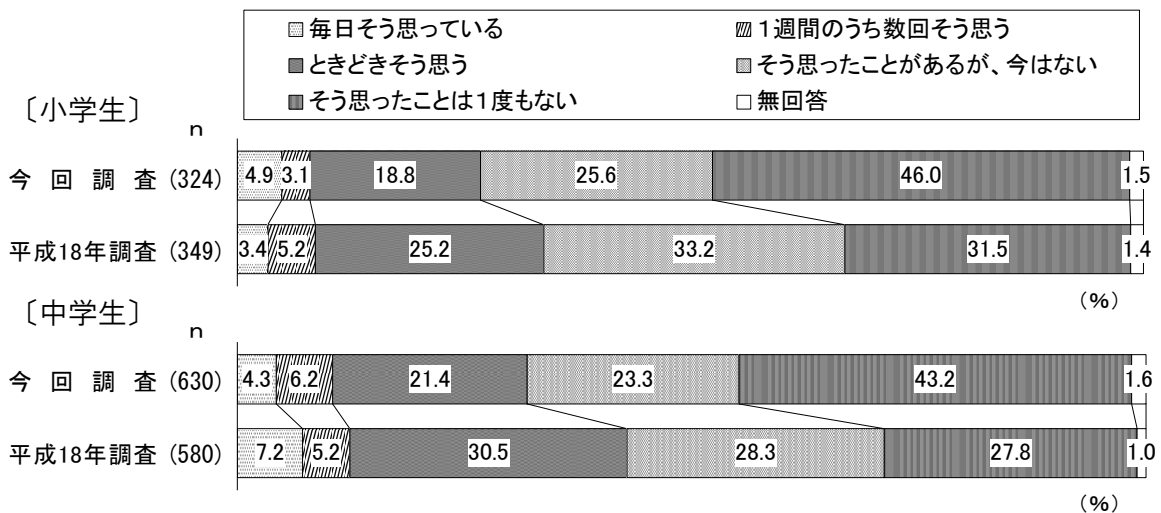
図表2-2-1



年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表2-2-2)

平成18年調査と比較すると、「そう思ったことは1度もない」は小学生で14.5ポイント、中学生で15.4ポイント増加している。また、「毎日そう思っている」と「1週間のうち数回そう思う」の割合は、若干減少傾向がみられるものの、依然として一定の割合を占めている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 学校に行きたくないと思った経験 (年代別経年比較)



(2-1) 学校に行きたくないと思った理由

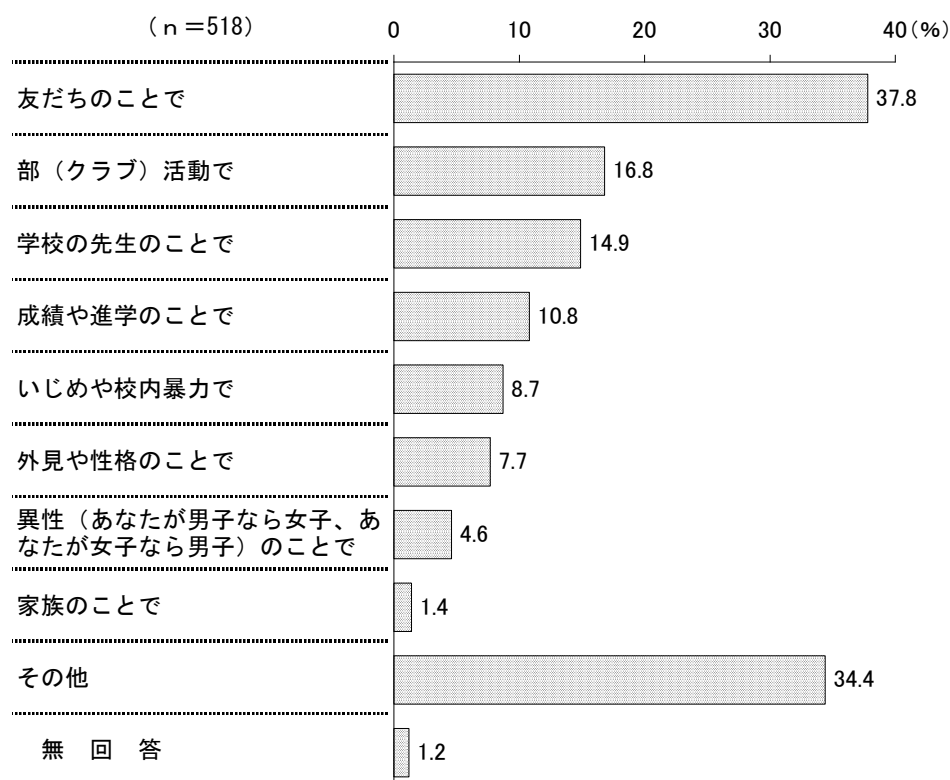
◇「友だちのことで」が37.8%

(問18で、学校に行きたくないと思ったことがあると答えた人にうかがいます)

問19 「学校に行きたくない」と感じた理由は何ですか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

学校に行きたくないと思ったことがあると答えた子どもに、その理由を聞いたところ、「友だちのことで」が37.8%で最も多く、次いで「部(クラブ)活動で」(16.8%)、「学校の先生のこと」(14.9%)、「成績や進学のこと」(10.8%)、「いじめや校内暴力で」(8.7%)などの順となっている。(図表2-2-3)

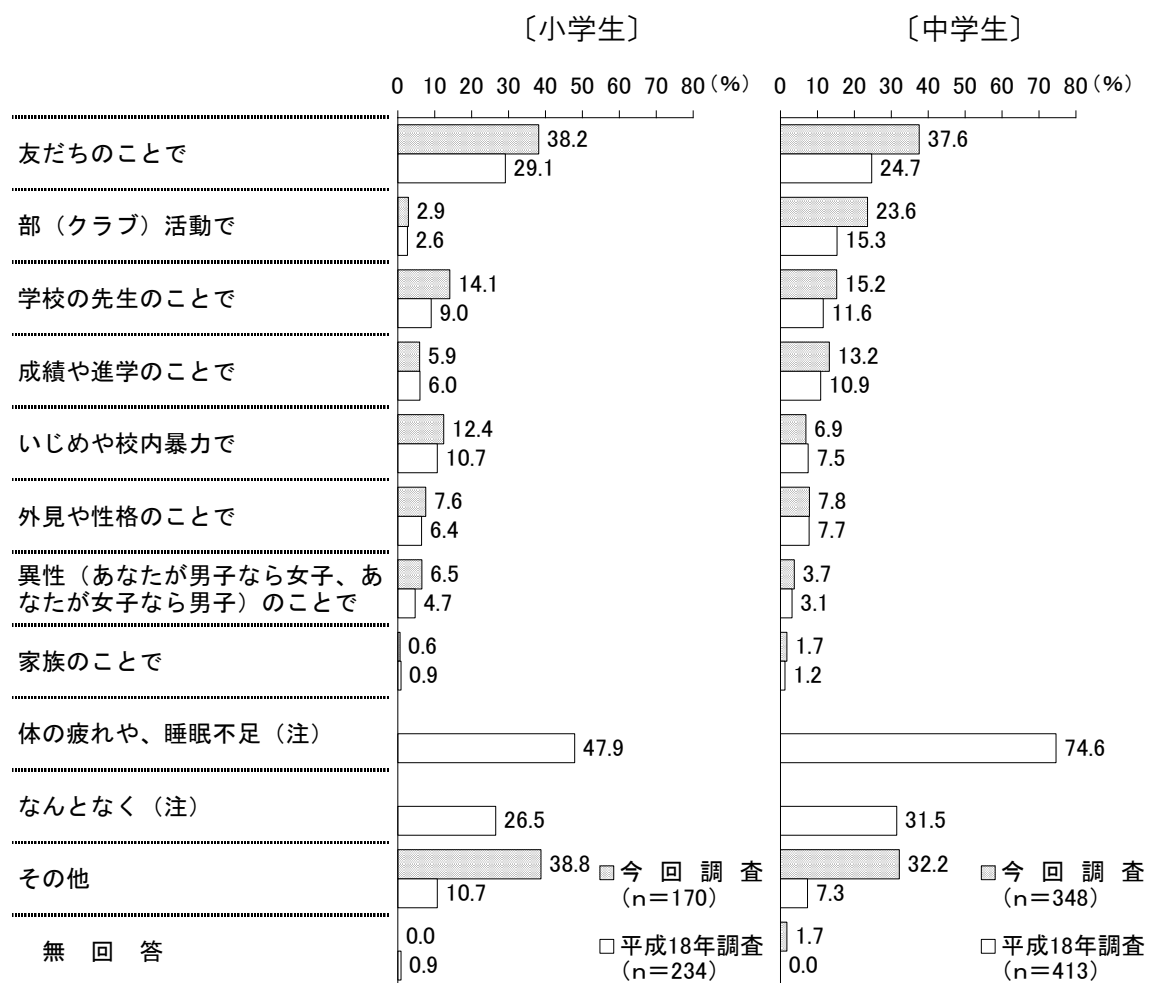
図表2-2-3



年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「いじめや校内暴力で」(12.4%)、「異性(あなたが男子なら女子、あなたが女子なら男子)のことで」(6.5%)などである。逆に小学生より中学生で割合が多いのは、「部(クラブ)活動で」(23.6%)、「成績や進学のこと」(13.2%)などである。(図表2-2-4)

平成18年調査との比較は、今回調査では「体の疲れや、睡眠不足」と「なんとなく」の選択肢を省いているため、参考にとどまるが、「友だちのことで」は小学生で9.1ポイント、中学生で12.9ポイント、それぞれ増加している。(図表2-2-4)

図表2-2-4 学校に行きたくないと思った理由(年代別経年比較)



(注)「体の疲れや、睡眠不足」と「なんとなく」の選択肢は今回調査では省いている。平成18年調査におけるこれら2つの選択肢の割合が高いため、今回調査と平成18年調査を比較するときは、これら2つの選択肢が今回調査で省かれていることが与えた影響を考慮する必要がある。

(3) 仲間はずれにされたりいじめられた経験の有無と対応

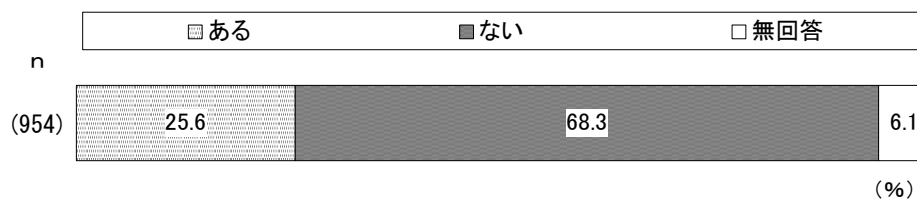
◇仲間はずれにされたりいじめられた経験のある人は25.6%、対応は「じっとがまん」が47.5%

問20 あなたは、最近仲間はずれにされたり、いじめられたりしたことがありますか。ある場合、あなたはそのときどうしましたか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

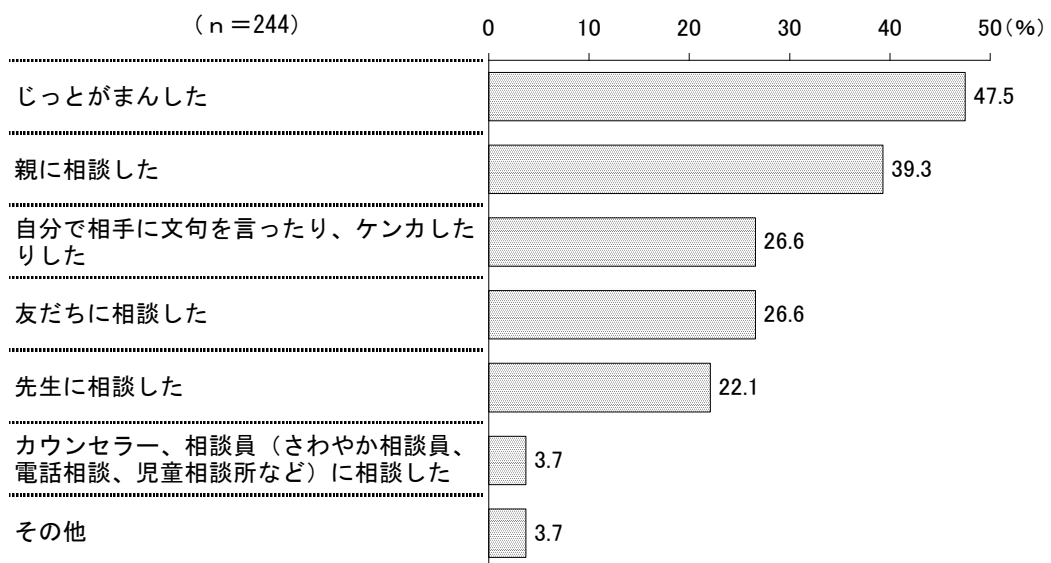
仲間はずれにされたり、いじめられたことがあるか聞いたところ、「ある」は25.6%、「ない」は68.3%となっている。(図表2-3-1)

仲間はずれにされたり、いじめられたことが「ある」と答えた子どもに、そのときどうしたか聞いたところ、「じっとがまんした」が47.5%で最も多く、次いで「親に相談した」(39.3%)、「自分で相手に文句を言ったり、ケンカしたりした」(26.6%)、「友だちに相談した」(26.6%)、「先生に相談した」(22.1%)などの順となっている。(図表2-3-2)

図表2-3-1 仲間はずれにされたりいじめられた経験の有無



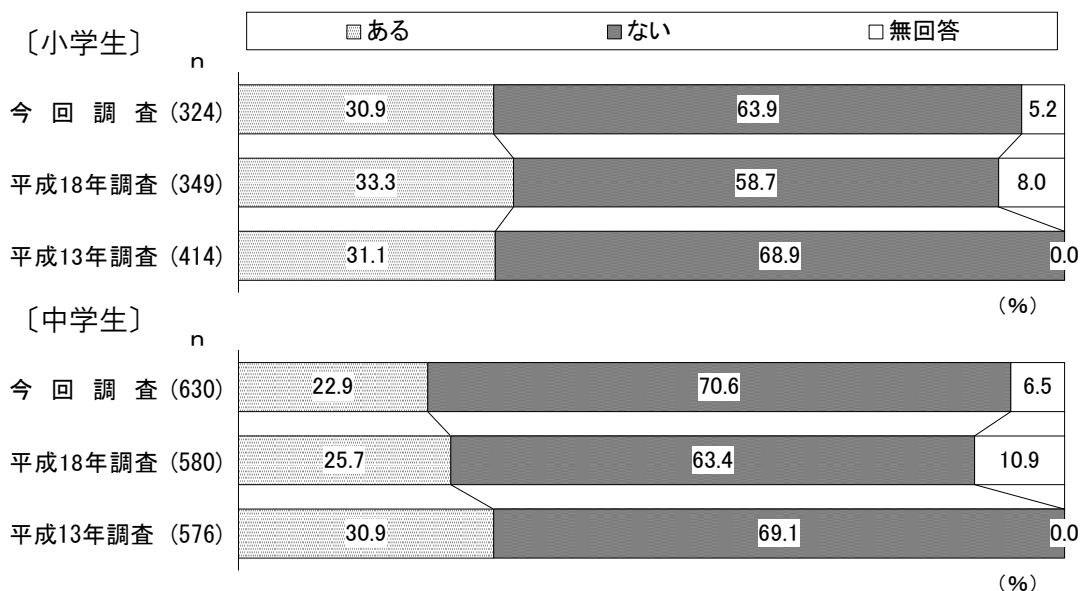
図表2-3-2 仲間はずれにされたりいじめられたときの対応



仲間はずれにされたり、いじめられたことがあるかについて年代別にみると、「ある」は小学生で30.9%、中学生で22.9%となっている。(図表2-3-3)

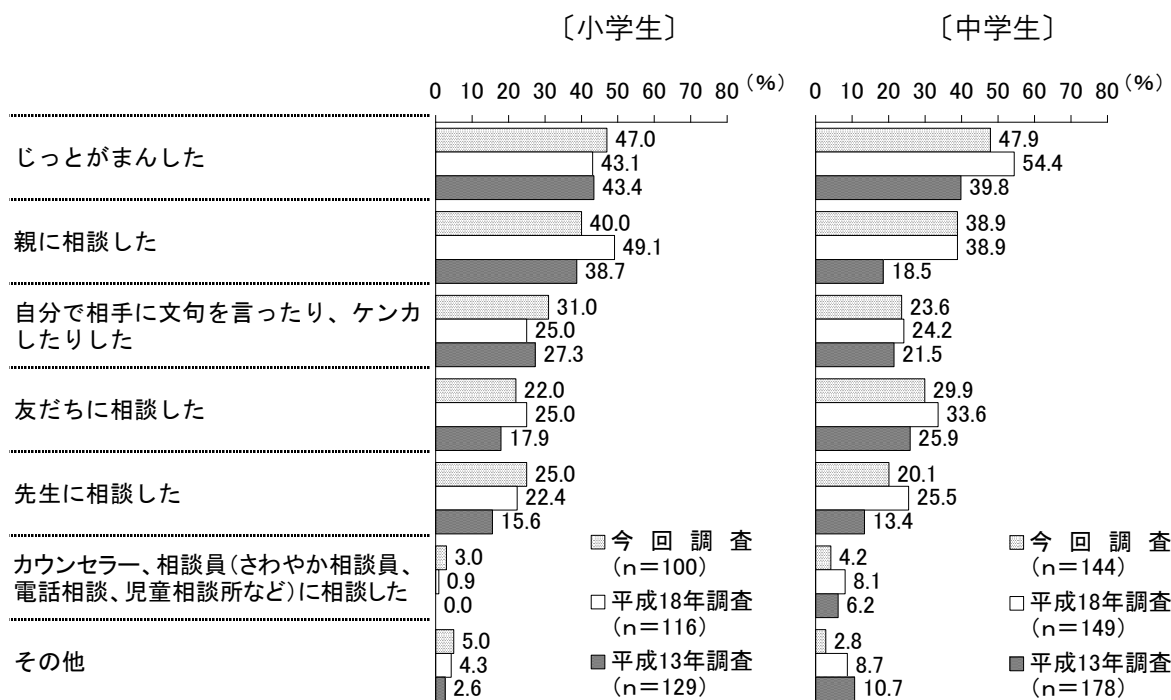
過去の調査結果と比較すると、「ある」は小学生では2.4ポイント、中学生では2.8ポイント、それぞれ減少し、中学生では一貫して減少傾向となっている。(図表2-3-3)

図表2-3-3 仲間はずれにされたりいじめられた経験の有無 (年代別経年比較)



仲間はずれにされたり、いじめられたときどうしたかについて年代別にみると、中学生よりも小学生で割合が多いのは、「自分で相手に文句を言ったり、ケンカしたりした」(31.0%)、「先生に相談した」(25.0%) などである。小学生よりも中学生で割合が多いのは「友だちに相談した」(29.9%) などである。(図表2-3-4)

図表2-3-4 仲間はずれにされたりいじめられたときの対応 (年代別経年比較)



(4) 部（クラブ）活動に参加する日数

◇中学生では、「毎日」が32.2%、「6日」が24.4%、「5日」が12.2%

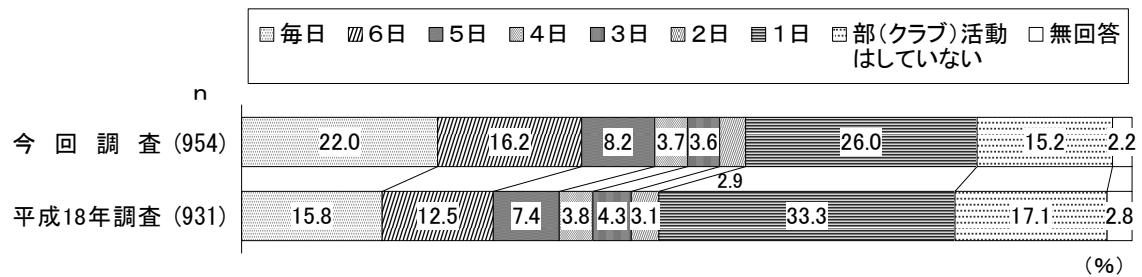
問21 週に何日ぐらい部（クラブ）活動をしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

週に何日ぐらい部（クラブ）活動をしているか聞いたところ、「毎日」が22.0%、「6日」が16.2%、「5日」が8.2%などとなっており、5日以上部（クラブ）活動をしている子どもは46.4%となっている。「1日」は26.0%で、「部（クラブ）活動はしていない」は15.2%である。

(図表2-4-1)

平成18年調査と比較すると、「毎日」と「6日」の割合が増加傾向にある。(図表2-4-1)

図表2-4-1

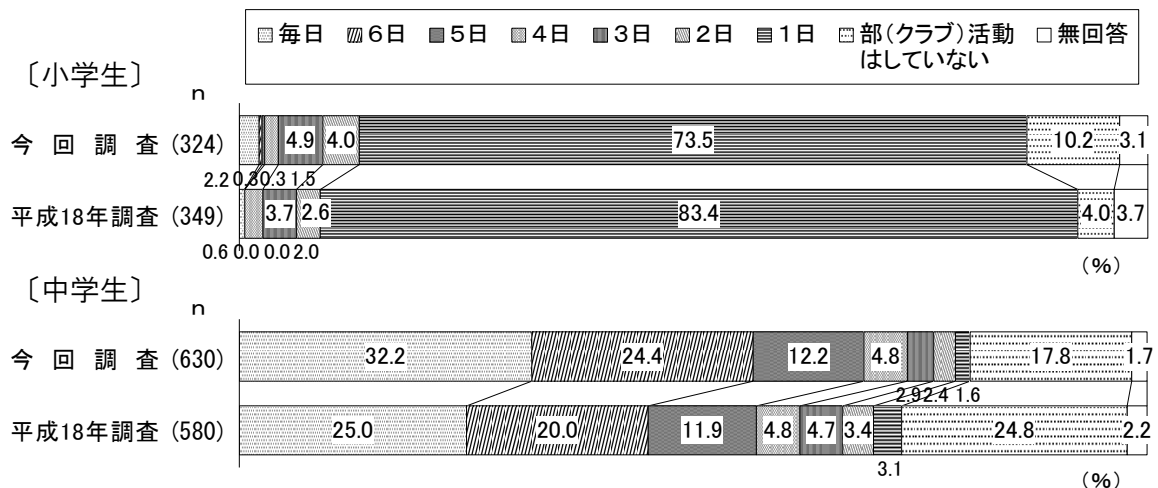


年代別にみると、小学生では「1日」が73.5%と多くなっている。中学生では、「毎日」が32.2%、「6日」が24.4%、「5日」が12.2%となっており、5日以上部（クラブ）活動をしている子どもは68.8%となっている。(図表2-4-2)

平成18年調査と比較すると、中学生では、「毎日」が7.2ポイント、「6日」が4.4ポイント、それぞれ増加している。逆に「部（クラブ）活動はしていない」は7.0ポイント減少している。

(図表2-4-2)

図表2-4-2 部（クラブ）活動に参加する日数（年代別経年比較）



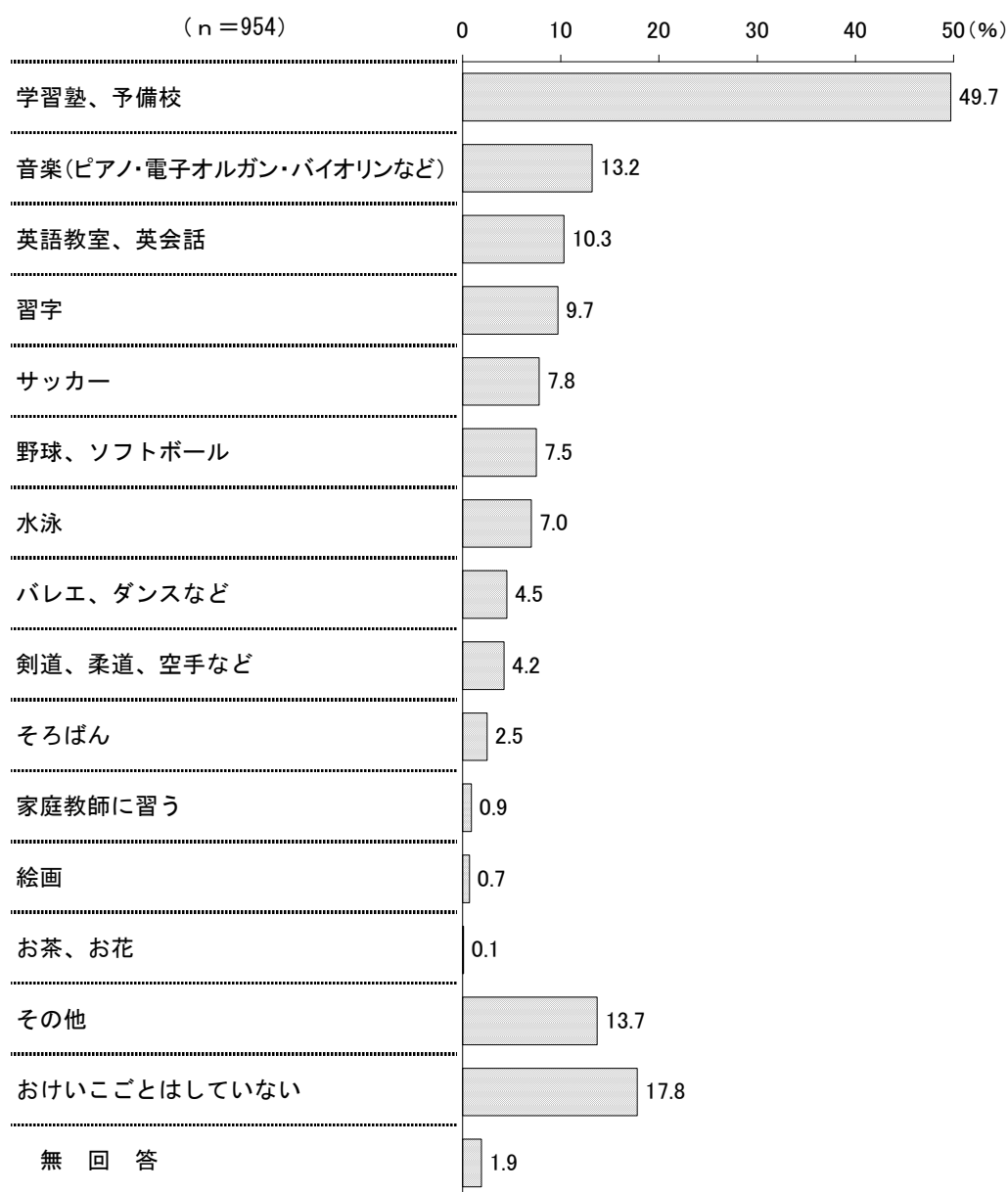
(5) おけいごとへの参加状況

◇「学習塾、予備校」が49.7%

問22 あなたは、どのようなおけいごとやスポーツなどをしていますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

どのようなおけいごとやスポーツなどを行っているか聞いたところ、「学習塾、予備校」が49.7%で最も多く、次いで「音楽（ピアノ・電子オルガン・バイオリンなど）」（13.2%）、「英語教室、英会話」（10.3%）、「習字」（9.7%）、「サッカー」（7.8%）、「野球、ソフトボール」（7.5%）、「水泳」（7.0%）などの順となっている。（図表2-5-1）

図表2-5-1

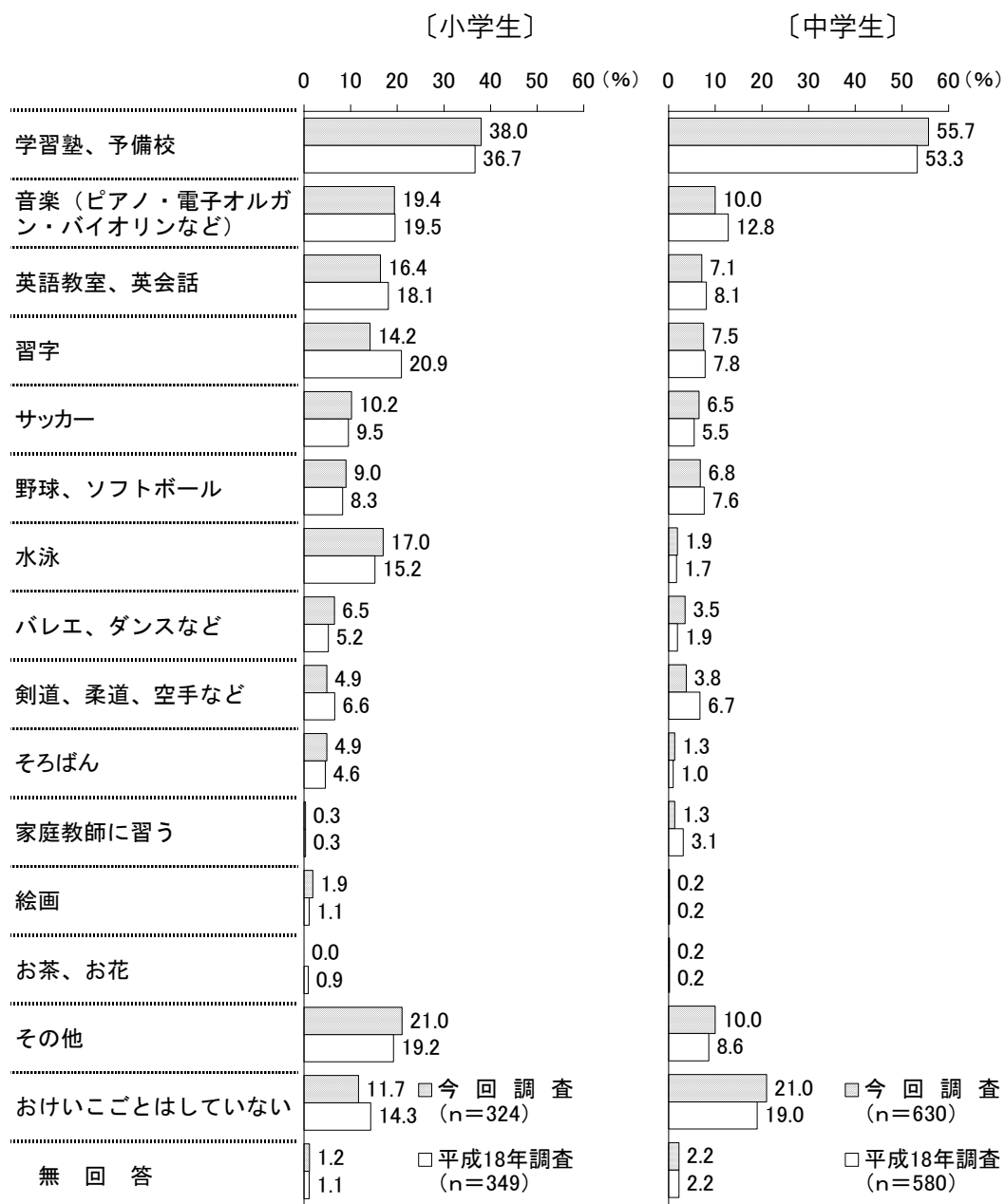


年代別にみると、「学習塾、予備校」は小学生で38.0%、中学生で55.7%となっている。「水泳」は小学生（17.0%）で最も多いスポーツ種目となっている。また、「学習塾、予備校」と「家庭教師に習う」以外のほとんどのおけいごとやスポーツで、小学生の方が割合が多くなっている。

（図表2-5-2）

平成18年調査と比較すると、「習字」は小学生で6.7ポイント減少しているが、それ以外の項目では大きな傾向の変化はみられない。（図表2-5-2）

図表2-5-2 おけいごとへの参加状況（年代別経年比較）



(5-1) おけいごとをする日数

◇「1日」が16.8%、「2日」が24.8%、「3日」が20.9%

(この質問は、おけいごとをしている人だけにうかがいます)

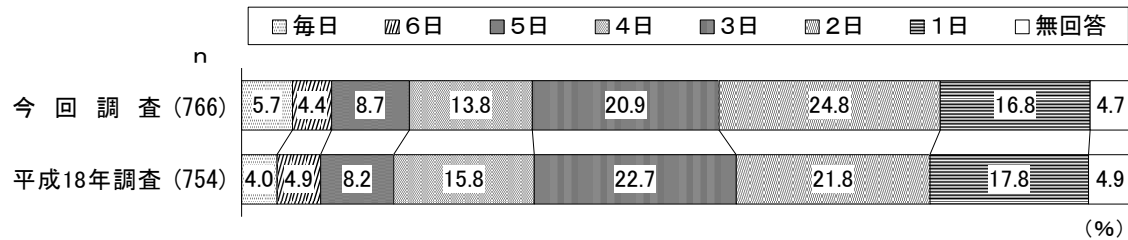
問23 週に何日ぐらい、おけいごとをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

おけいごとをしている子どもに、週に何日ぐらいおけいごとをしているか聞いたところ、「1日」が16.8%、「2日」が24.8%、「3日」が20.9%、「4日」が13.8%などとなっている。

(図表2-5-3)

平成18年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3

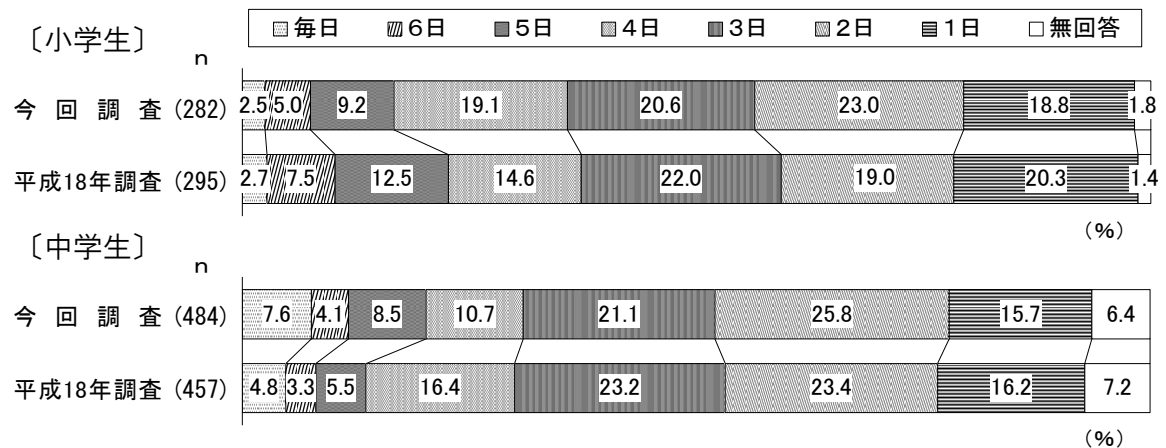


年代別にみると、「毎日」は中学生 (7.6%) の方が小学生 (2.5%) より多くなっている。

(図表2-5-4)

年代別に平成18年調査と比較すると、5日以上おけいごとをしている子どもは中学生では増加傾向にあり、小学生では減少傾向にある。「1日」、「2日」、「3日」の割合はほぼ同じ傾向になっている。(図表2-5-4)

図表2-5-4 おけいごとをする日数 (年代別経年比較)



(6) 学校以外での学習時間

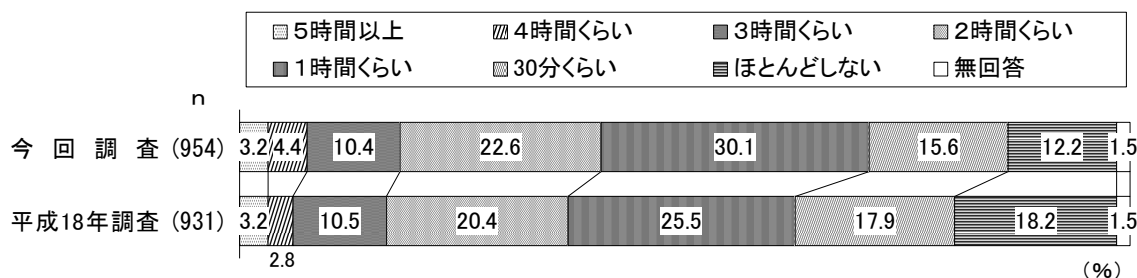
◇「1時間くらい」が30.1%、「30分くらい」が15.6%、「ほとんどしない」が12.2%

問24 学校以外で1日にどのくらい勉強しますか。次の中から1つ選んで○をしてください。
 (学習塾などでの勉強も含めて教えてください。)
 (類似質問：満15歳～30歳130ページ参照)

学校以外で1日にどのくらい勉強するか聞いたところ、「1時間くらい」が30.1%で最も多く、次いで「2時間くらい」が22.6%、「30分くらい」が15.6%などの順となっている。「ほとんどしない」は12.2%である。(図表2-6-1)

平成18年調査と比較すると、学習時間の長い子どもの割合が増加傾向にあり、「ほとんどしない」は6.0ポイント減少している。(図表2-6-1)

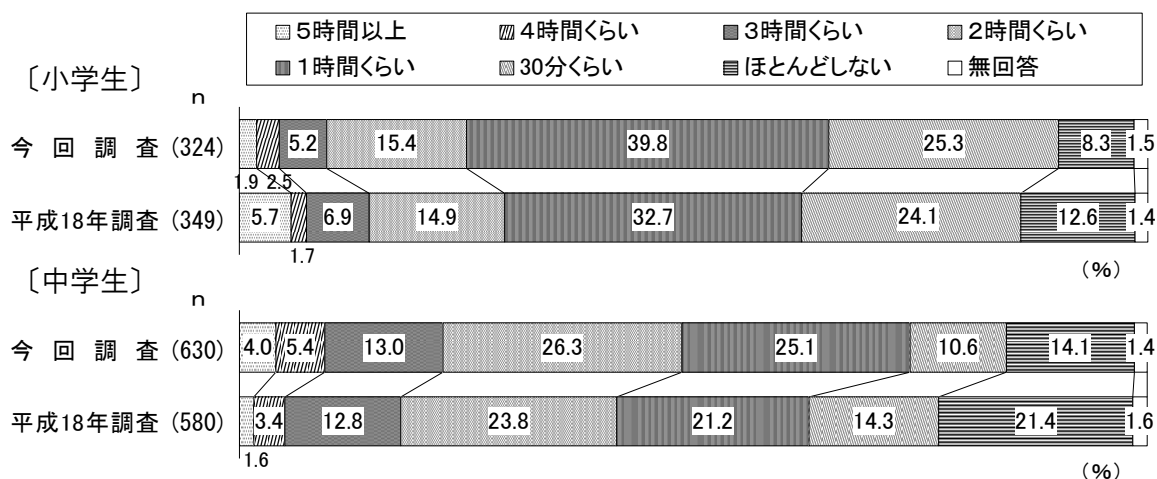
図表2-6-1



年代別にみると、小学生では、「1時間くらい」が39.8%で最も多く、「2時間くらい」以上勉強している子どもは25.0%となっている。中学生では、「1時間くらい」が25.1%で、「2時間くらい」以上勉強している子どもは48.7%となっている。(図表2-6-2)

年代別に平成18年調査と比較すると、小学生では、「1時間くらい」が7.1ポイント増加しており、「ほとんどしない」と「2時間くらい」以上勉強している子どもの割合はともに減少している。中学生では、学習時間の長い子どもの割合が増加傾向にあり、「ほとんどしない」は7.3ポイント減少している。(図表2-6-2)

図表2-6-2 学校以外での学習時間 (年代別経年比較)



3 価値観について

(1) 価値観

◇『そう思う (計)』は<勇気のある人間になりたい><人の役に立つ人間になりたい>で9割台

問25 あなたは、ここにあげてあることについて、どう思いますか。アからコのそれぞれについて、1つ選んで○をつけてください。

(類似質問：満15歳～30歳138ページ、保護者261ページ参照)

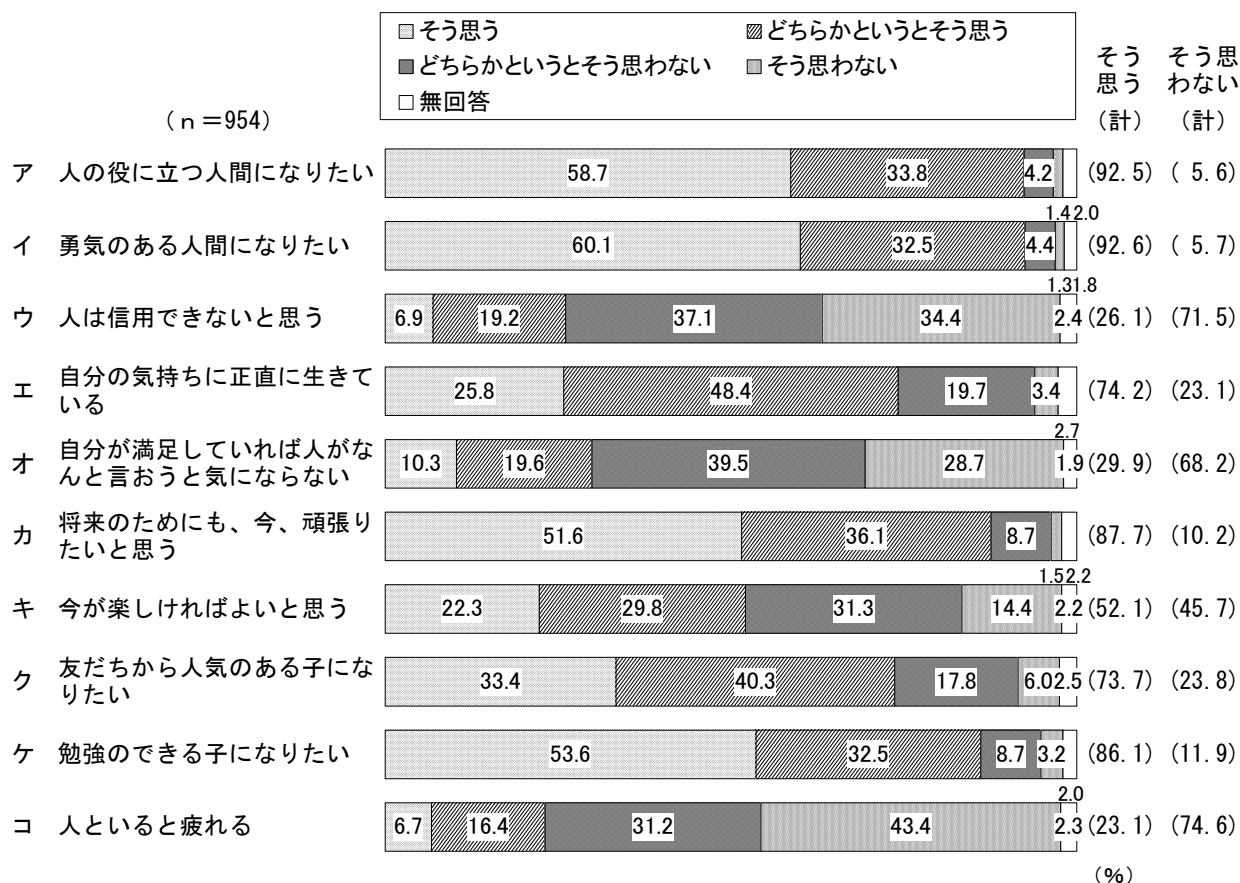
価値観について、10項目に分けてどう思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせた『そう思う (計)』の割合は、<イ 勇気のある人間になりたい> (92.6%) と<ア 人の役に立つ人間になりたい> (92.5%) の2項目で9割を超え、次いで<カ 将来のためにも、今、頑張りたいと思う> (87.7%)、<ケ 勉強のできる子になりたい> (86.1%) で8割を超えている。

このほかでは、『そう思う (計)』は<エ 自分の気持ちに正直に生きている> (74.2%) と<ク 友だちから人気のある子になりたい> (73.7%) で7割台となっている。

「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない (計)』は、<コ 人といると疲れる> (74.6%)、<ウ 人は信用できないと思う> (71.5%) で7割台、<オ 自分が満足していれば人がなんとおもうと気にならない> (68.2%) で7割近くとなっている。

<キ 今が楽しければよいと思う>は、『そう思う (計)』 (52.1%) と『そう思わない (計)』 (45.7%) がほぼ拮抗している。(図表3-1-1)

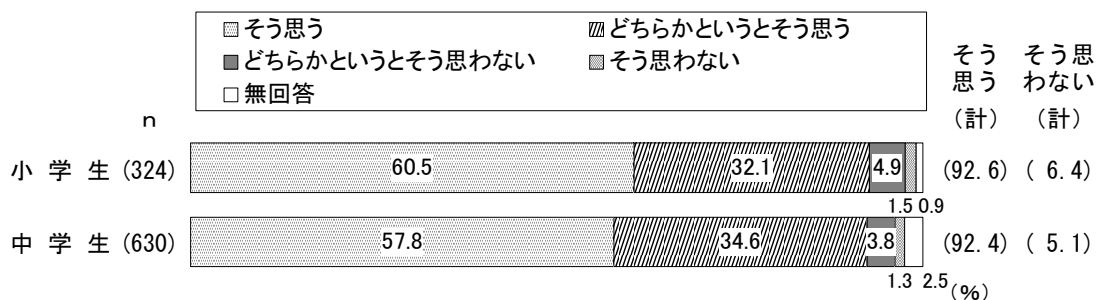
図表3-1-1



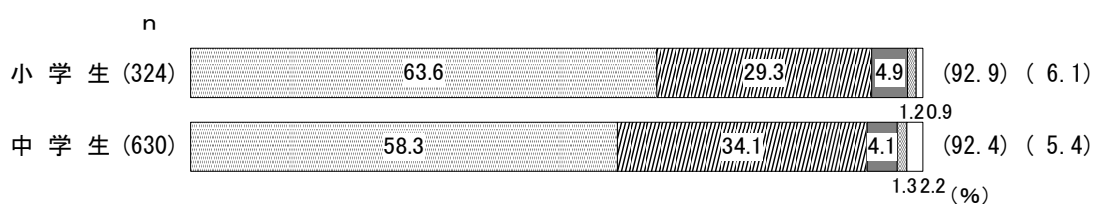
年代別にみると、『そう思わない（計）』の割合が＜ウ 人は信用できないと思う＞で14.2ポイント、＜コ 人というると疲れる＞で13.3ポイント、小学生の方が中学生よりそれぞれ高くなっているほかは、大きな傾向の違いのある項目はみられない。（図表3-1-2、3-1-3）

図表3-1-2 価値観（年代別）

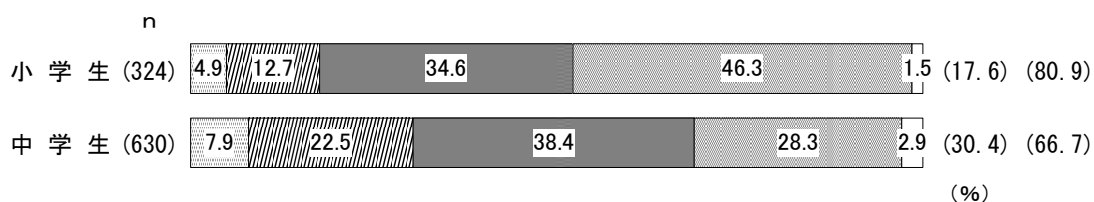
ア 人の役に立つ人間になりたい



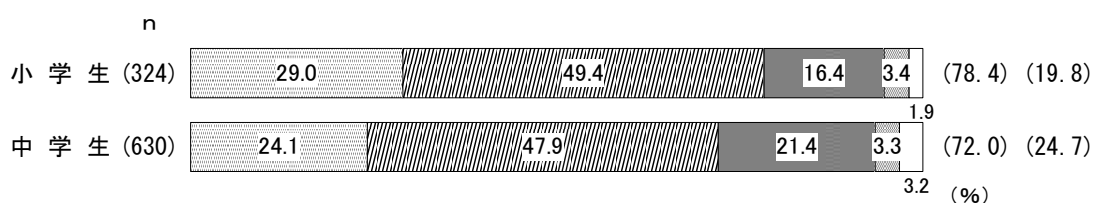
イ 勇気のある人間になりたい



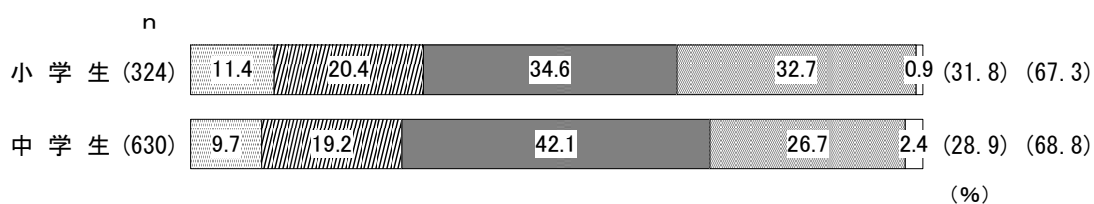
ウ 人は信用できないと思う



エ 自分の気持ちに正直に生きている

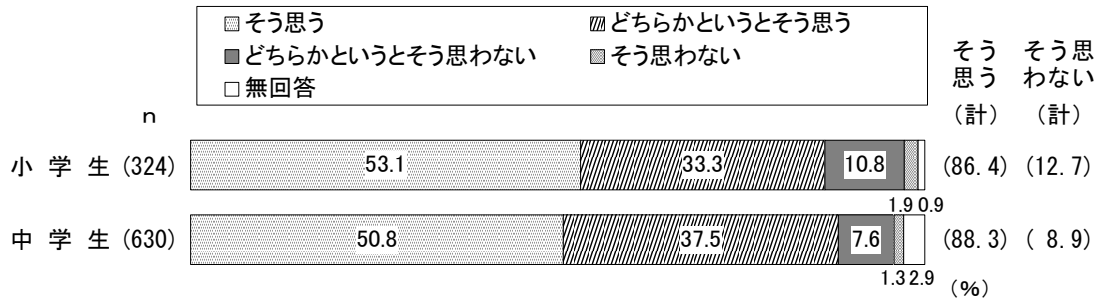


オ 自分が満足していれば人がなんと云おうと気にならない

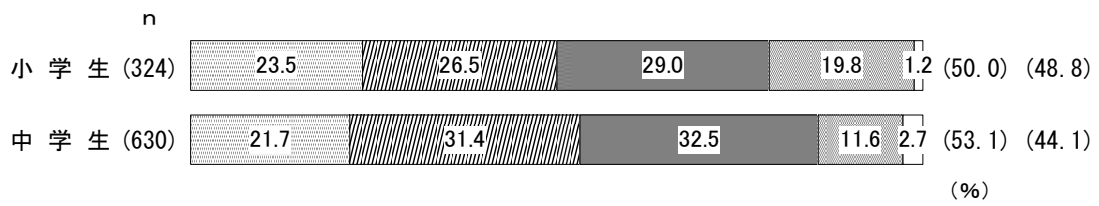


図表 3-1-3 価値観 (年代別) (つづき)

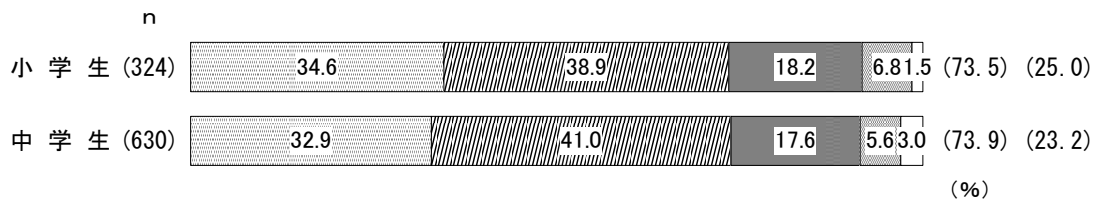
カ 将来のためにも、今、頑張りたいと思う



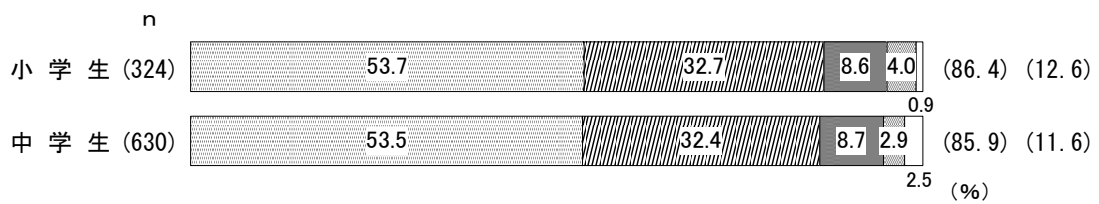
キ 今が楽しければよいと思う



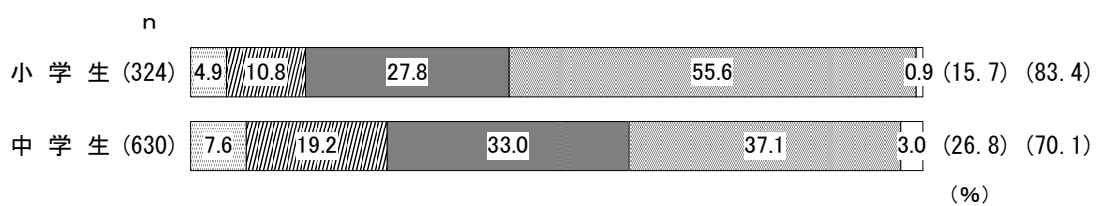
ク 友だちから人気のある子になりたい



ケ 勉強のできる子になりたい



コ 人といると疲れる



4 将来の希望について

(1) 進学意向

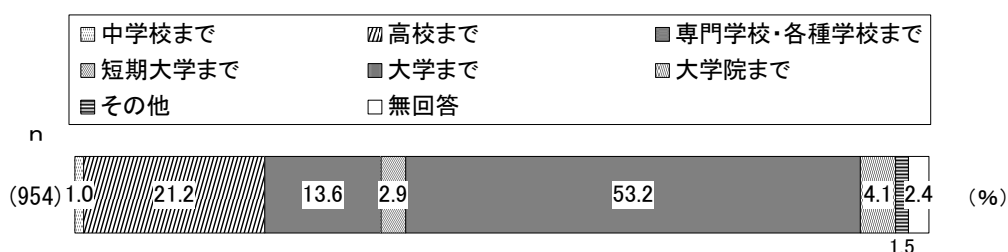
◇「大学まで」が53.2%、「高校まで」が21.2%

問26 あなたは将来どの学校まで行きたいと思いますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

将来どの学校まで行きたいと思うか聞いたところ、「大学まで」が53.2%で最も多く、次いで「高校まで」が21.2%、「専門学校・各種学校まで」が13.6%などの順となっている。

(図表4-1-1)

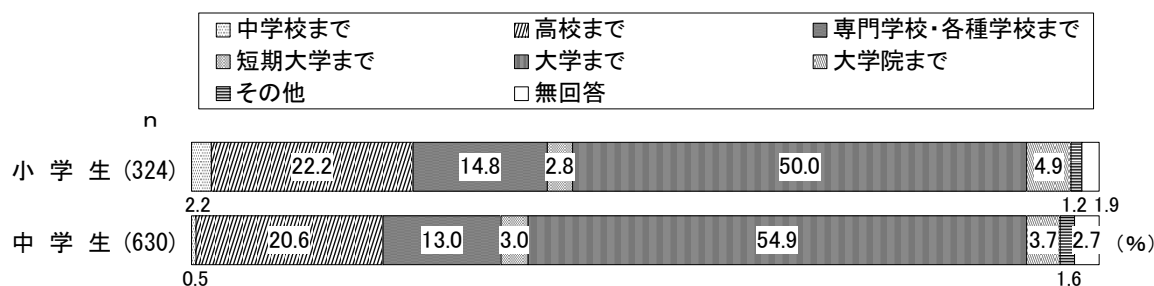
図表4-1-1



年代別にみると、「大学まで」は中学生で54.9%、小学生で50.0%となっている。

(図表4-1-2)

図表4-1-2 進学意向 (年代別)



(2) 将来の夢や生きがい

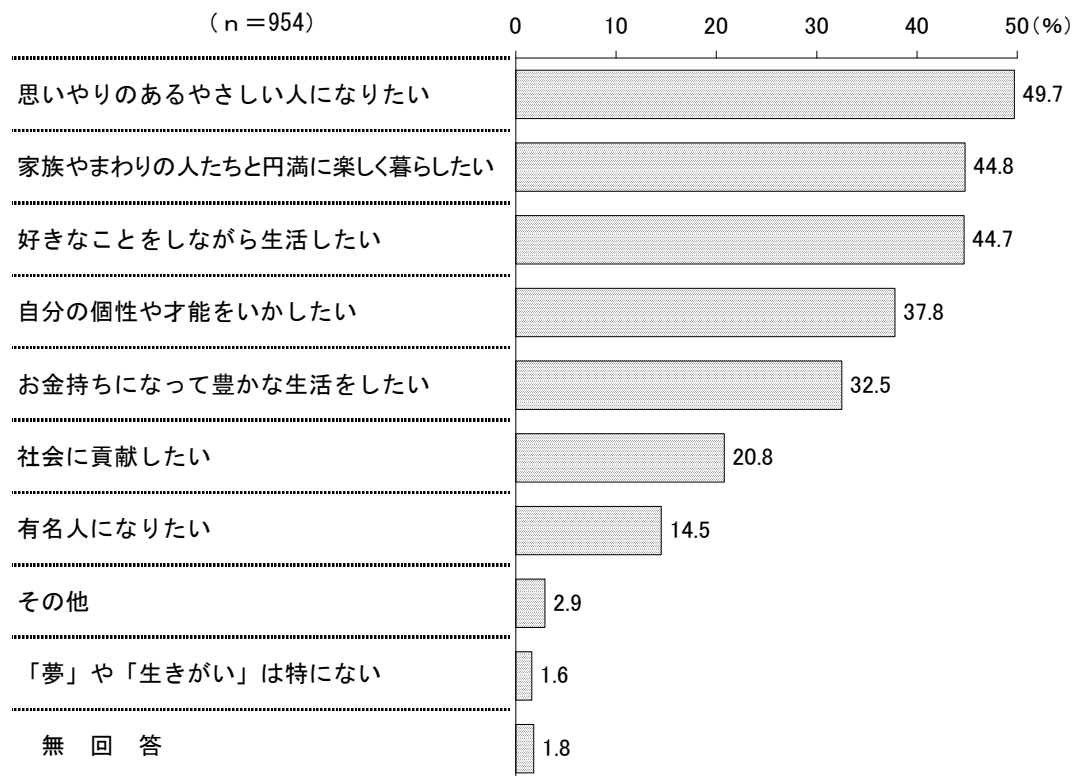
◇「思いやりのあるやさしい人になりたい」が49.7%

問27 あなたは、どのような「夢」や「生きがい」を持っていますか。次の中から3つまで選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳143ページ参照)

どのような「夢」や「生きがい」を持っているか聞いたところ、「思いやりのあるやさしい人になりたい」が49.7%で最も多く、次いで「家族やまわりの人たちと円満に楽しく暮らしたい」(44.8%)、「好きなことをしながら生活したい」(44.7%)、「自分の個性や才能をいかしたい」(37.8%)、「お金持ちになって豊かな生活をしたい」(32.5%)などの順となっている。

(図表4-2-1)

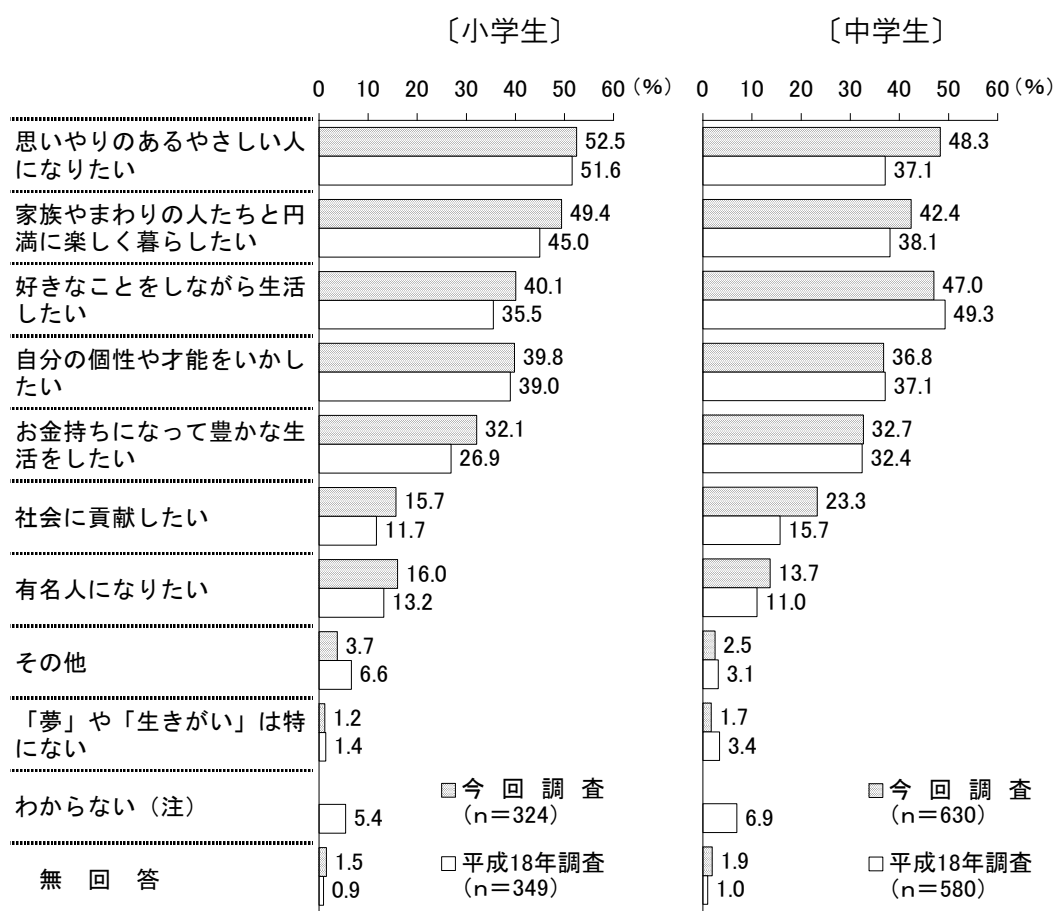
図表4-2-1



年代別にみると、中学生よりも小学生で割合が多いのは「家族やまわりの人たちと円満に楽しく暮らしたい」(49.4%)、「自分の個性や才能をいかしたい」(39.8%)などである。小学生よりも中学生で割合が多いのは「好きなことをしながら生活したい」(47.0%)、「社会に貢献したい」(23.3%)などである。(図表4-2-2)

平成18年調査の結果と比較すると、小学生では「お金持ちになって豊かな生活をしたい」が5.2ポイント、「好きなことをしながら生活したい」が4.6ポイント、「家族やまわりの人たちと円満に楽しく暮らしたい」が4.4ポイント増加している。中学生では、「思いやりのあるやさしい人になりたい」が11.2ポイント、「社会に貢献したい」が7.6ポイント増加している。(図表4-2-2)

図表4-2-2 将来の夢や生きがい (年代別経年比較)



(注)「わからない」の選択肢は今回調査では省いている。

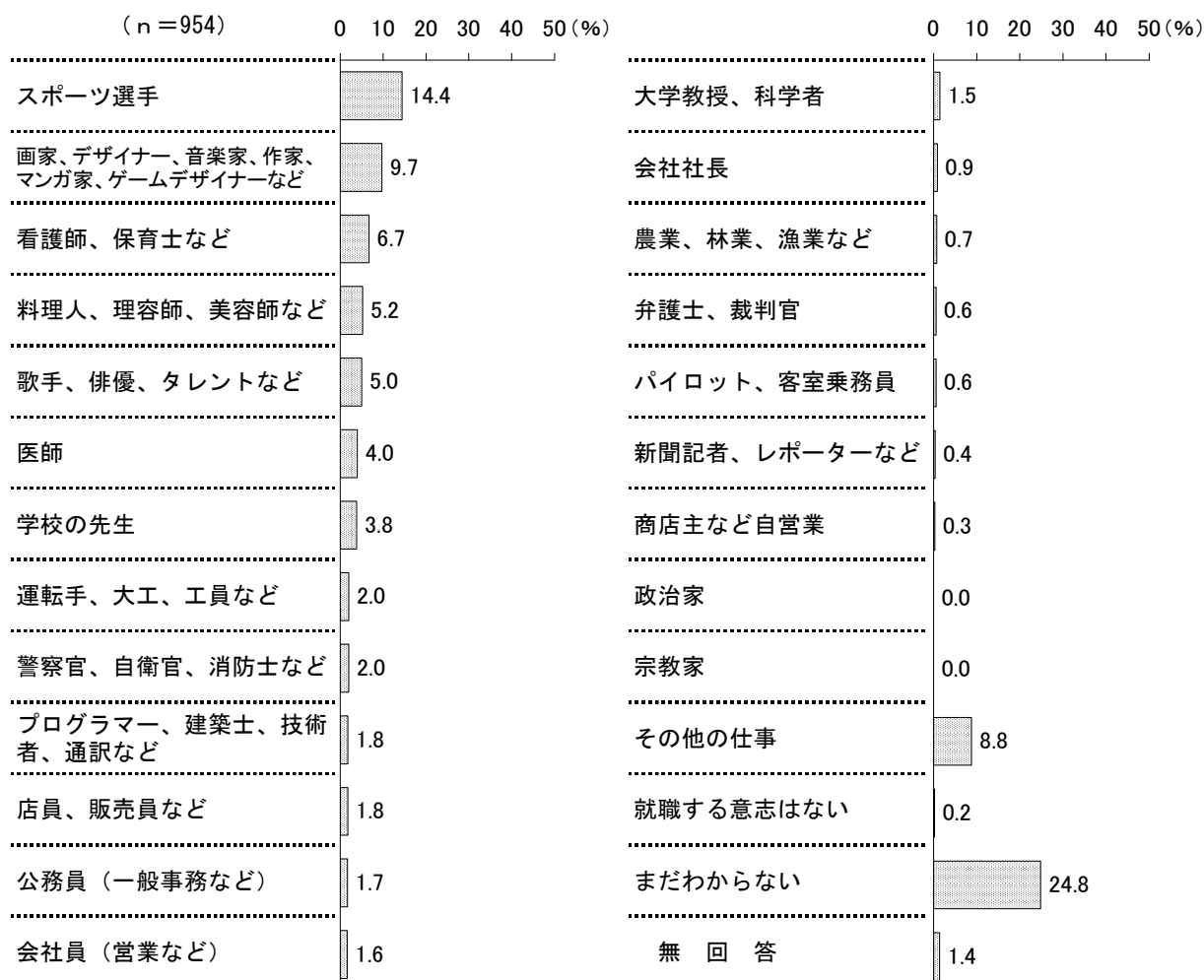
(3) 将来つきたい職業

◇「スポーツ選手」が14.4%

問28 あなたは、将来どのような職業につきたいと思っていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳145ページ参照)

将来どのような職業につきたいか聞いたところ、「スポーツ選手」が14.4%で最も多く、次いで「画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど」(9.7%)、「看護師、保育士など」(6.7%)、「料理人、理容師、美容師など」(5.2%)、「歌手、俳優、タレントなど」(5.0%)、「医師」(4.0%)、「学校の先生」(3.8%)などの順となっている。(図表4-3-1)

図表4-3-1



年代別にみると、上位3項目は同じ順位となっており、「料理人、理容師、美容師など」と「歌手、俳優、タレントなど」も第4位または第5位となっている。それ以外では、小学生は「医師」「警察官、自衛官、消防士など」、「大学教授、科学者」が続いており、中学生では「学校の先生」、「医師」、「公務員（一般事務など）」が続いている。（図表4-3-2）

図表4-3-2 将来つきたい職業（年代別）

順位	小学生（n=324）	（人）	順位	中学生（n=630）	（人）
第1位	スポーツ選手	64	第1位	スポーツ選手	73
第2位	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	40	第2位	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	53
第3位	看護師、保育士など	21	第3位	看護師、保育士など	43
第4位	料理人、理容師、美容師など	17	第4位	料理人、理容師、美容師など	33
	歌手、俳優、タレントなど	17		歌手、俳優、タレントなど	31
第6位	医師	12	第5位	学校の先生	31
第7位	警察官、自衛官、消防士など	9	第7位	医師	26
	大学教授、科学者	9	第8位	公務員（一般事務など）	14
第9位	運転手、大工、工員など	7	第9位	運転手、大工、工員など	12
	店員、販売員など	7		会社員（営業など）	12
第11位	プログラマー、建築士、技術者、通訳など	6	第11位	プログラマー、建築士、技術者、通訳など	11
第12位	学校の先生	5	第12位	警察官、自衛官、消防士など	10
第13位	パイロット、客室乗務員	4		店員、販売員など	10
第14位	会社員（営業など）	3	第14位	農業、林業、漁業など	7
	会社社長	3	第15位	会社社長	6
第16位	公務員（一般事務など）	2	第16位	大学教授、科学者	5
第17位	弁護士、裁判官	1		弁護士、裁判官	5
	商店主など自営業	1	第18位	新聞記者、レポーターなど	4
	農業、林業、漁業など	-	第19位	パイロット、客室乗務員	2
	新聞記者、レポーターなど	-		商店主など自営業	2
	政治家	-	政治家	-	
	宗教家	-	宗教家	-	
	その他の仕事	29	その他の仕事	55	
	就職する意志はない	1	就職する意志はない	1	
	まだわからない	63	まだわからない	174	
	無回答	3	無回答	10	

過去の調査結果と比較すると、「スポーツ選手」は小学生、中学生ともに第1位が続いているなど傾向に大きな変化はみられない。(図表4-3-3)

図表4-3-3 将来つきたい職業(年代別経年比較)(上位5項目)

調査年 順位	小学生		
	今回調査	平成18年度	平成13年度
第1位	スポーツ選手	スポーツ選手	スポーツ選手
第2位	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	看護師、保育士など	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど
第3位	看護師、保育士など	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	歌手、俳優、タレントなど
第4位	料理人、理容師、美容師など/ 歌手、俳優、タレントなど	料理人、理容師、美容師など	看護師、保育士など
第5位		歌手、俳優、タレントなど	医師

調査年 順位	中学生		
	今回調査	平成18年度	平成13年度
第1位	スポーツ選手	スポーツ選手	スポーツ選手
第2位	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど
第3位	看護師、保育士など	看護師、保育士など	看護師、保育士など
第4位	料理人、理容師、美容師など	歌手、俳優、タレントなど	歌手、俳優、タレントなど
第5位	歌手、俳優、タレントなど	料理人、理容師、美容師など	料理人、理容師、美容師など/プログラマー、建築士、技術者、通訳など

(4) 夢や希望をかなえるためにやらなければいけないこと

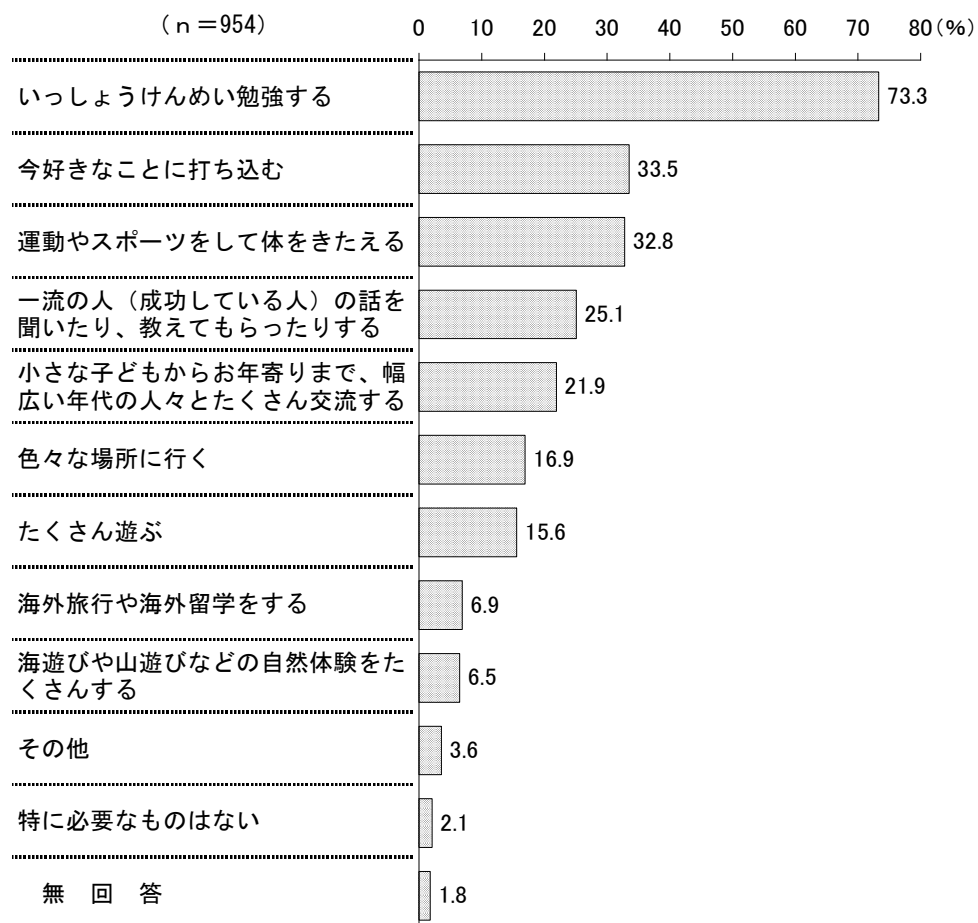
◇「いっしょうけんめい勉強する」が73.3%

問29 あなたは、あなたの夢をかなえたり、希望する仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳148ページ、保護者244ページ参照)

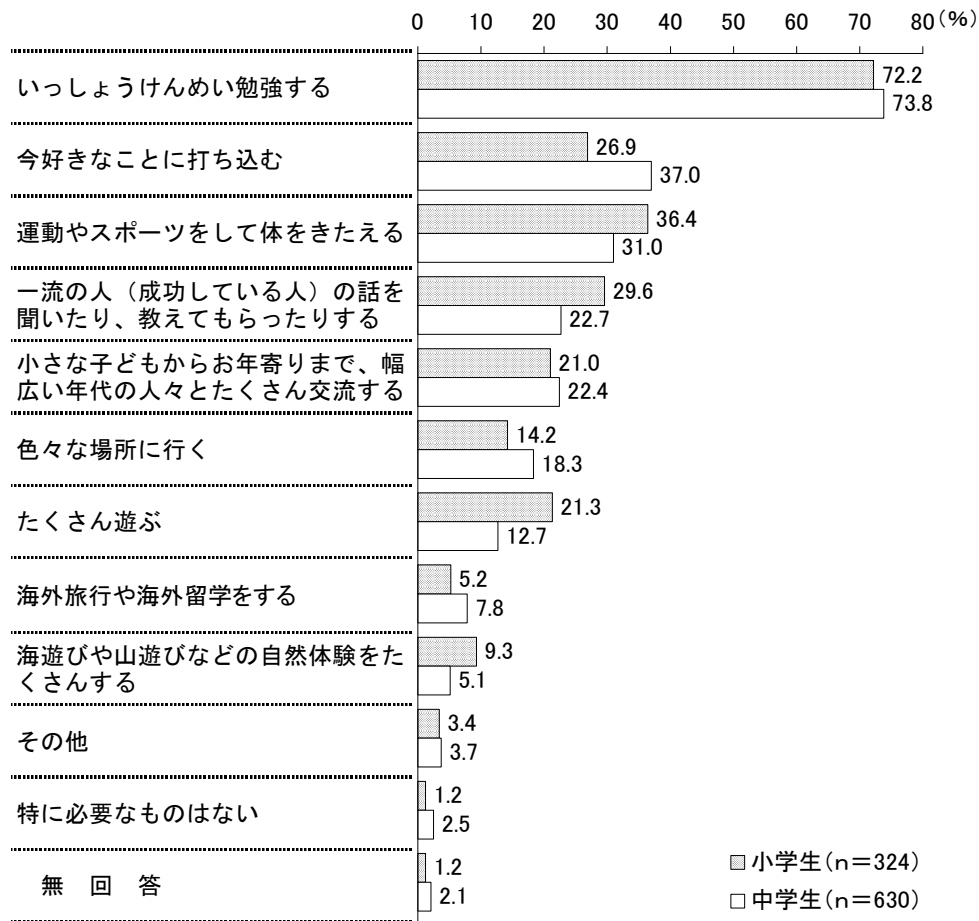
夢をかなえたり、希望する仕事をするためにどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「いっしょうけんめい勉強する」が73.3%で最も多く、次いで「今好きなことに打ち込む」(33.5%)、「運動やスポーツをして体をきたえる」(32.8%)、「一流の人(成功している人)の話を知ったり、教えてもらったりする」(25.1%)、「小さな子どもからお年寄りまで、幅広い年代の人々とたくさん交流する」(21.9%)などの順となっている。(図表4-4-1)

図表4-4-1



年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「運動やスポーツをして体をきたえる」(36.4%)、「一流の人(成功している人)の話を聞いたり、教えてもらったりする」(29.6%)、「たくさん遊ぶ」(21.3%)などである。小学生より中学生で割合が多いのは、「今好きなことに打ち込む」(37.0%)などである。(図表4-4-2)

図表4-4-2 夢や希望をかなえるためにやらなければいけないこと(年代別)



5 余暇や友人関係について

(1) テレビ視聴時間

◇「5時間以上」が14.3%、「4時間くらい」が16.7%、「3時間くらい」が26.8%

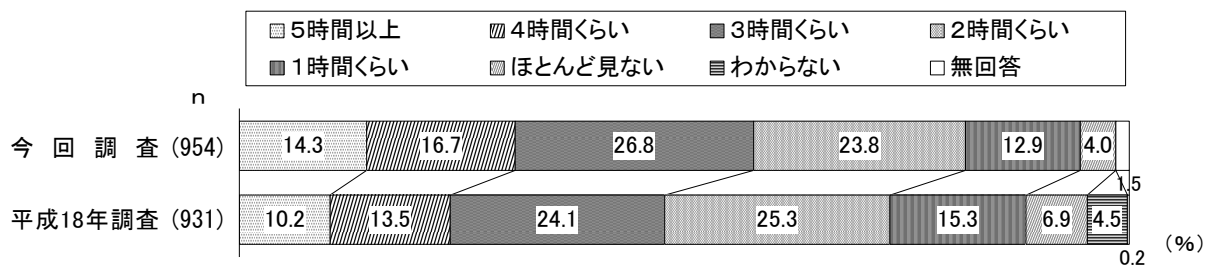
問30 あなたは、1日にどのくらいテレビを見ますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳150ページ参照)

1日にどのくらいテレビを見るか聞いたところ、「3時間くらい」が26.8%、「2時間くらい」が23.8%、「4時間くらい」が16.7%、「5時間以上」が14.3%などとなっている。

(図表5-1-1)

平成18年調査と比較すると、視聴時間の長い子どもの割合が増加傾向にある。(図表5-1-1)

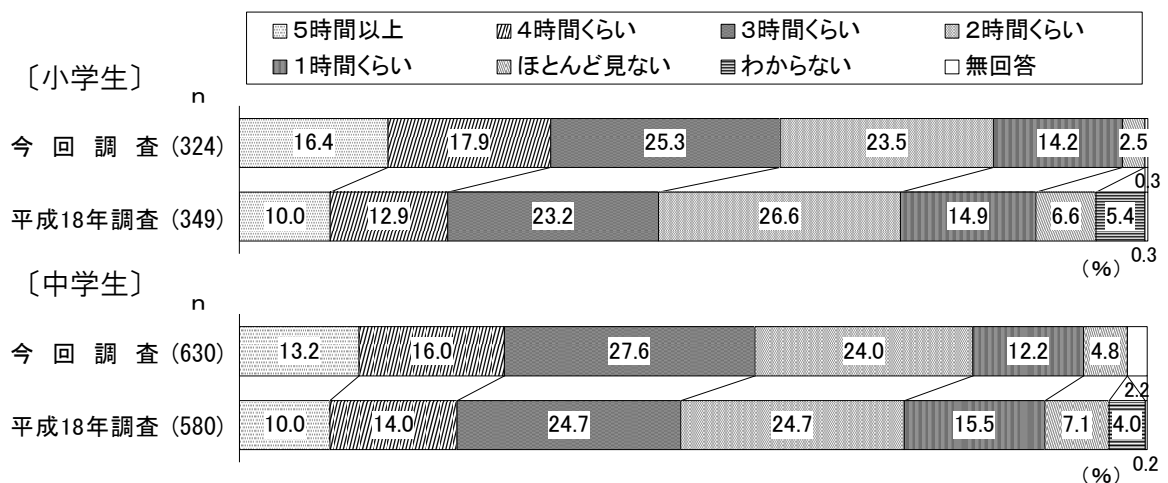
図表5-1-1



年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表5-1-2)

年代別に平成18年調査と比較しても、小学生、中学生ともに視聴時間の長い子どもの割合が増加傾向にある。(図表5-1-2)

図表5-1-2 テレビ視聴時間 (年代別経年比較)



(2) テレビゲームをする頻度

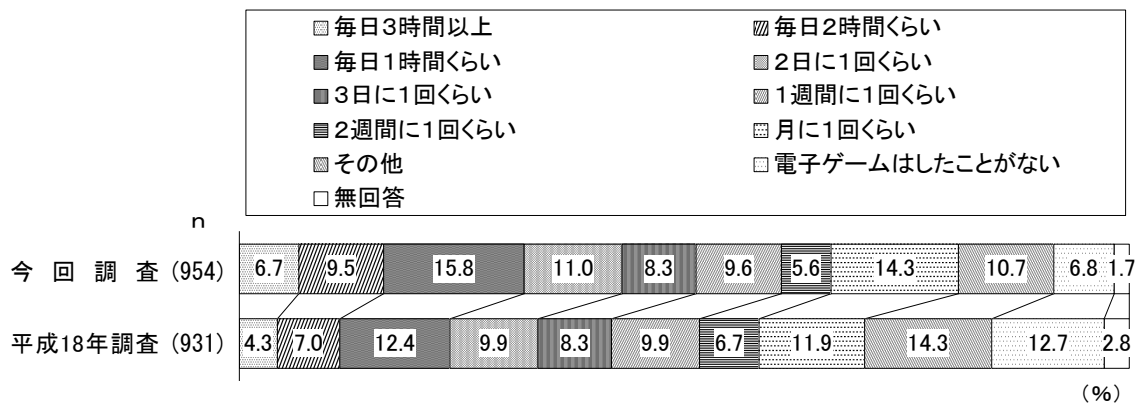
◇毎日テレビゲームをする子どもは32.0%

問31 あなたは、どのくらいの割合で電子ゲーム（Wii、プレイステーション、DS、PSPなど）をしますか。次の中から1つ選んで○をしてください。
 （類似質問：満15歳～30歳152ページ参照）

電子ゲームをどのくらいの割合でするか聞いたところ、「毎日1時間くらい」（15.8%）、「毎日2時間くらい」（9.5%）、「毎日3時間以上」（6.7%）の3つを合わせた、毎日テレビゲームをしている子どもの割合は32.0%となっている。（図表5-2-1）

平成18年調査と比較すると、テレビゲームをする頻度の高い子どもの割合が増加傾向にある。
 （図表5-2-1）

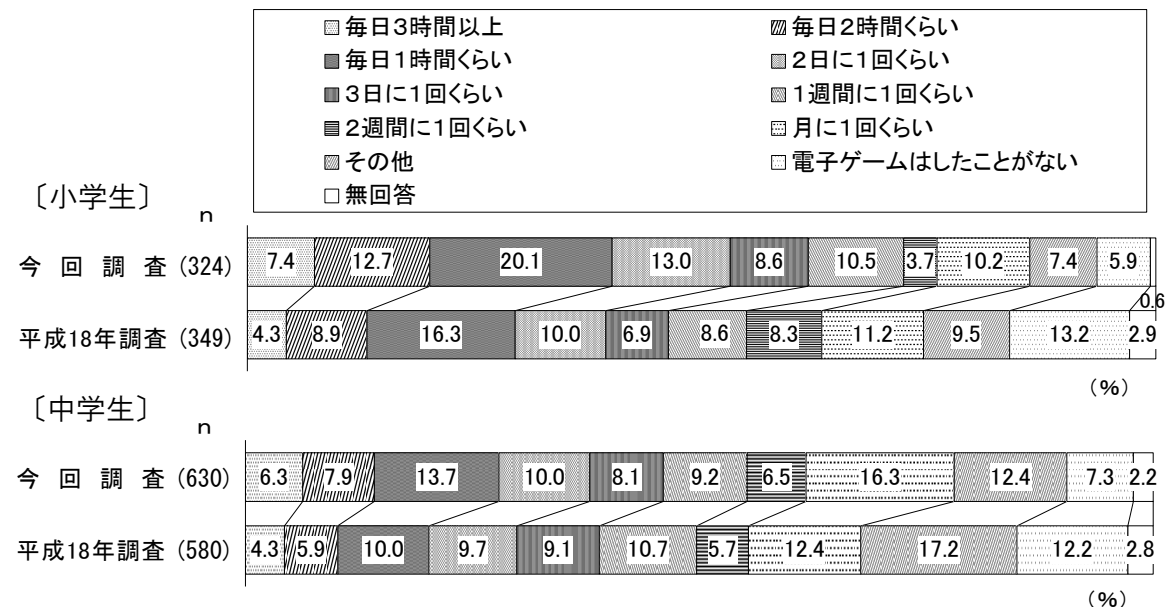
図表5-2-1



年代別にみると、毎日テレビゲームをしている子どもの割合は小学生で40.2%、中学生で27.9%となっており、小学生の方がテレビゲームをする頻度の高い子どもの割合が多くなっている。

年代別に平成18年調査と比較すると、小学生、中学生ともに、テレビゲームをする頻度の高い子どもの割合が増加傾向にある。（図表5-2-2）

図表5-2-2 テレビゲームをする頻度（年代別経年比較）



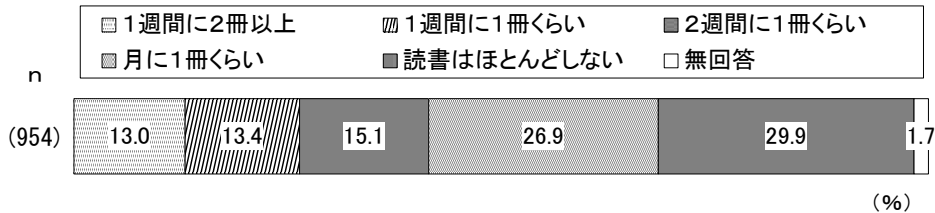
(3) 読書量

◇「読書はほとんどしない」は29.9%、「月に1冊くらい」は26.9%

問32 あなたはどのくらいの割合で読書をしますか（マンガ・雑誌は除く）。次の中から1つ選んで○をしてください。（類似質問：満15歳～30歳153ページ参照）

どのくらいの割合で読書をするか聞いたところ、「1週間に2冊以上」が13.0%、「1週間に1冊くらい」が13.4%、「2週間に1冊くらい」が15.1%、「月に1冊くらい」が26.9%となっている。また、「読書はほとんどしない」は29.9%となっている。（図表5-3-1）

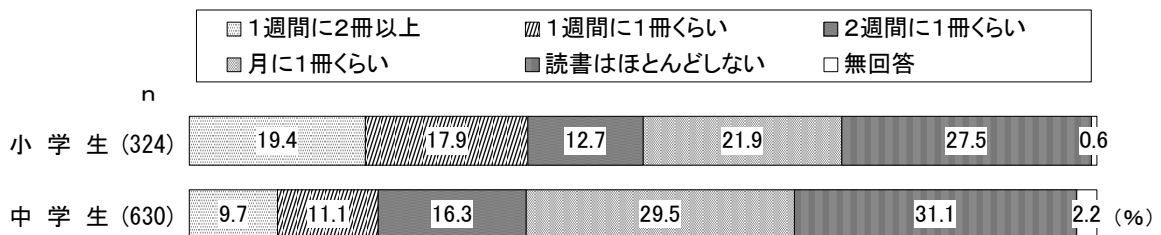
図表5-3-1



年代別にみると、「読書はほとんどしない」は小学生で27.5%、中学生で31.1%となっており、大きな差はみられないが、「1週間に2冊以上」は小学生で19.4%、中学生で9.7%となっており、読書習慣のある子どもの中では、小学生の方が読書量の多い人の割合が多くなっている。

(図表5-3-2)

図表5-3-2 読書量（年代別）



(4) 携帯電話の保有状況と保有理由

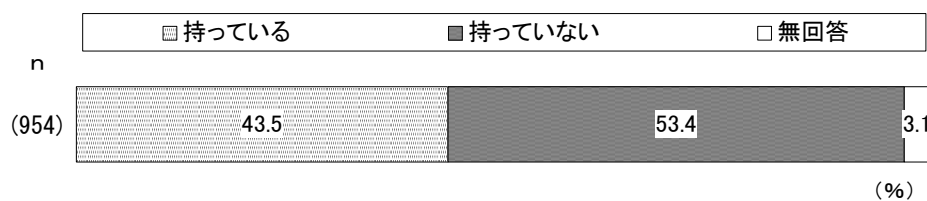
◇携帯電話を持つ子どもは43.5%で、理由は「家族と連絡を取るのに便利だから」が53.5%

問33 あなたは自分専用の携帯電話（PHSを含む）を持っていますか。持っている人は、持っているおもな理由は何ですか。次の中から1つ選んで○をしてください。

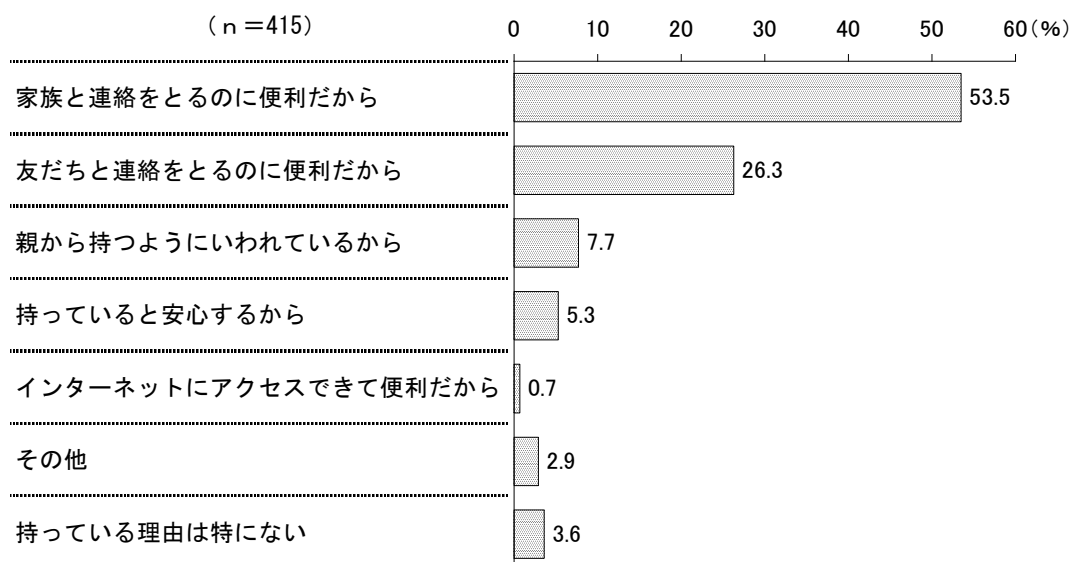
自分専用の携帯電話を持っているか聞いたところ、「持っている」は43.5%、「持っていない」は53.4%となっている。(図表5-4-1)

携帯電話を「持っている」と答えた子どもに、その理由を聞いたところ、「家族と連絡をとるのに便利だから」が53.5%で最も多く、次いで「友だちと連絡をとるのに便利だから」(26.3%)、「親から持つようにいわれているから」(7.7%)などの順となっている。(図表5-4-2)

図表5-4-1 携帯電話の保有状況



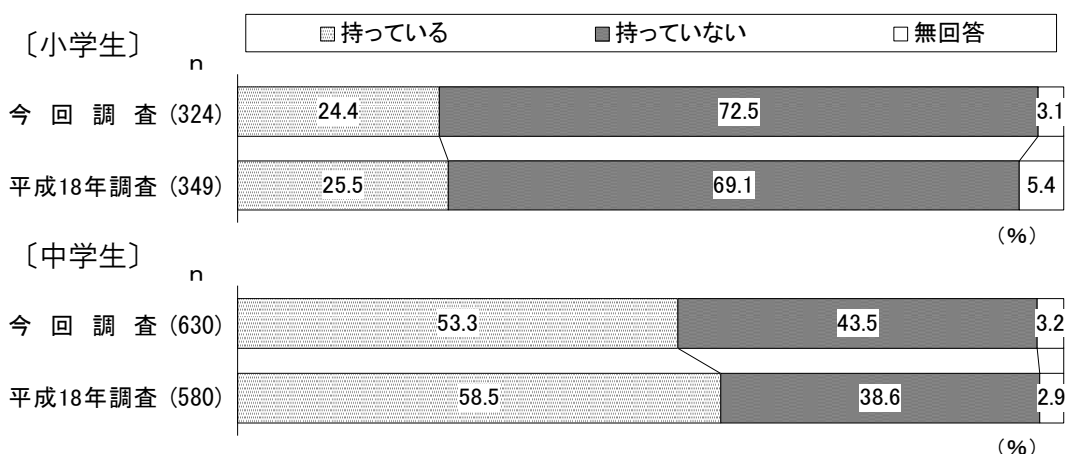
図表5-4-2 携帯電話の保有理由



自分専用の携帯電話を持っているかについて年代別にみると、「持っている」は小学生で24.4%、中学生で53.3%となっている。(図表5-4-3)

平成18年調査と比較すると、小学生はほぼ同じ傾向となっており、中学生では「持っている」が5.2ポイント減少している。(図表5-4-3)

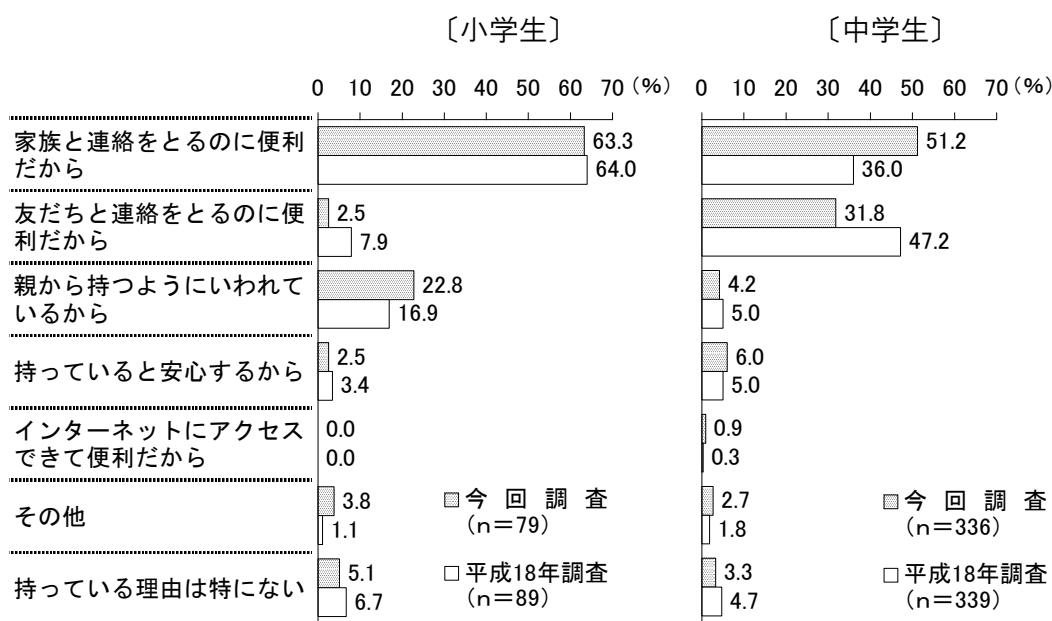
図表5-4-3 携帯電話の保有状況 (年代別経年比較)



携帯電話を持っている理由について年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「家族と連絡をとるのに便利だから」(63.3%)、「親から持つようにいわれているから」(22.8%)などである。小学生より中学生で割合が多いのは、「友だちと連絡をとるのに便利だから」(31.8%)、「持っていると安心するから」(6.0%)などである。(図表5-4-4)

平成18年調査と比較すると、中学生では「家族と連絡をとるのに便利だから」が15.2ポイント増加し、「友だちと連絡をとるのに便利だから」が15.4ポイント減少している。(図表5-4-4)

図表5-4-4 携帯電話の保有理由 (年代別経年比較)



(4-1) フィルタリングサービスの利用状況

◇「利用している」は55.4%、「利用していない」は17.1%

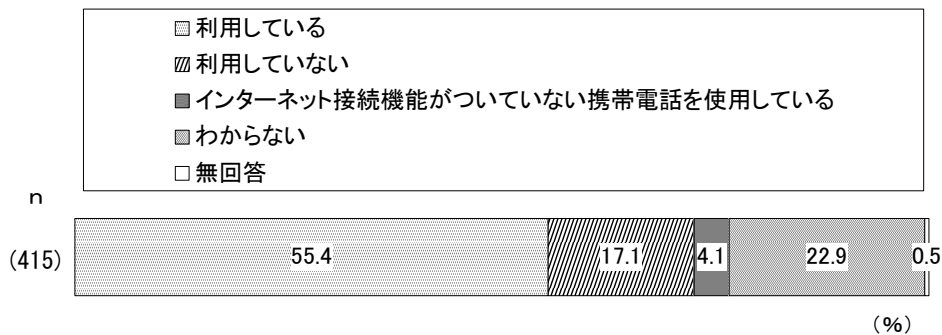
(問33で、携帯電話を持っていると答えた人にうかがいます)

問34 あなたは自分専用の携帯電話（PHSを含む）にフィルタリングサービスを利用していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳164ページ、保護者218ページ参照)

携帯電話を「持っている」と答えた子どもに、携帯電話にフィルタリングサービスを利用しているか聞いたところ、「利用している」は55.4%、「利用していない」は17.1%となっている。また「わからない」は22.9%である。(図表5-4-5)

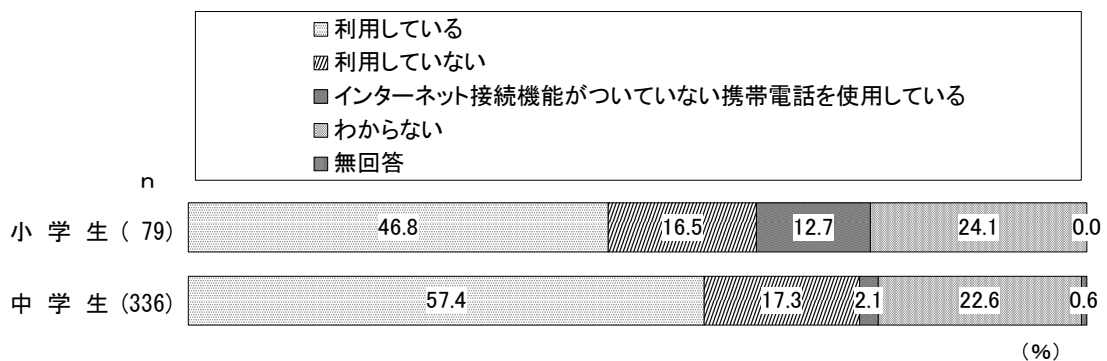
図表5-4-5



年代別にみると、「利用している」と「インターネット接続機能がついていない携帯電話を使用している」の2つを合わせた割合は、小学生（59.5%）、中学生（59.5%）ともに6割近くとなっている。「利用していない」は小学生（16.5%）、中学生（17.3%）ともに1割台となっている。

(図表5-4-6)

図表5-4-6 フィルタリングサービスの利用状況（年代別）



(4-2) 携帯電話の利用のルール

◇「利用料金についてルールを決めている」が34.2%

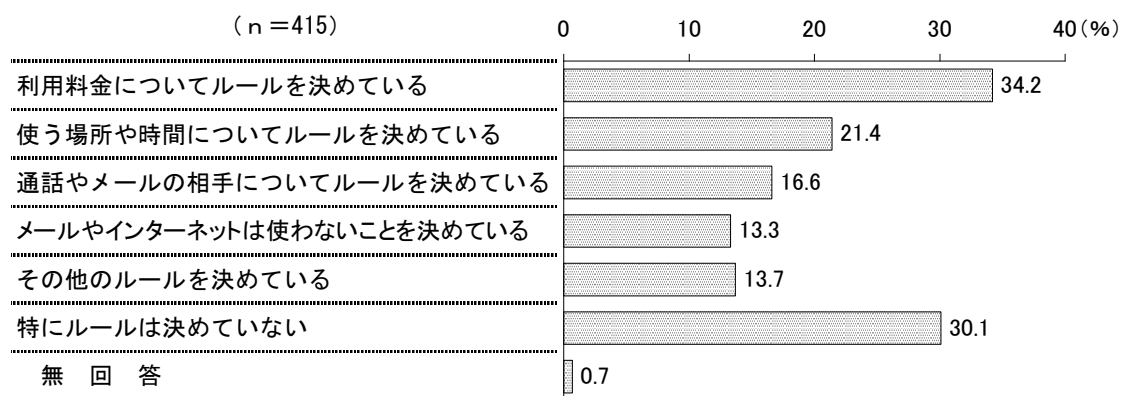
(問33で、携帯電話を持っていると答えた人にうかがいます)

問35 あなたは、携帯電話の利用について、おうちの人と何かルールを決めていますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

(類似質問：満15歳～30歳164ページ、保護者219ページ参照)

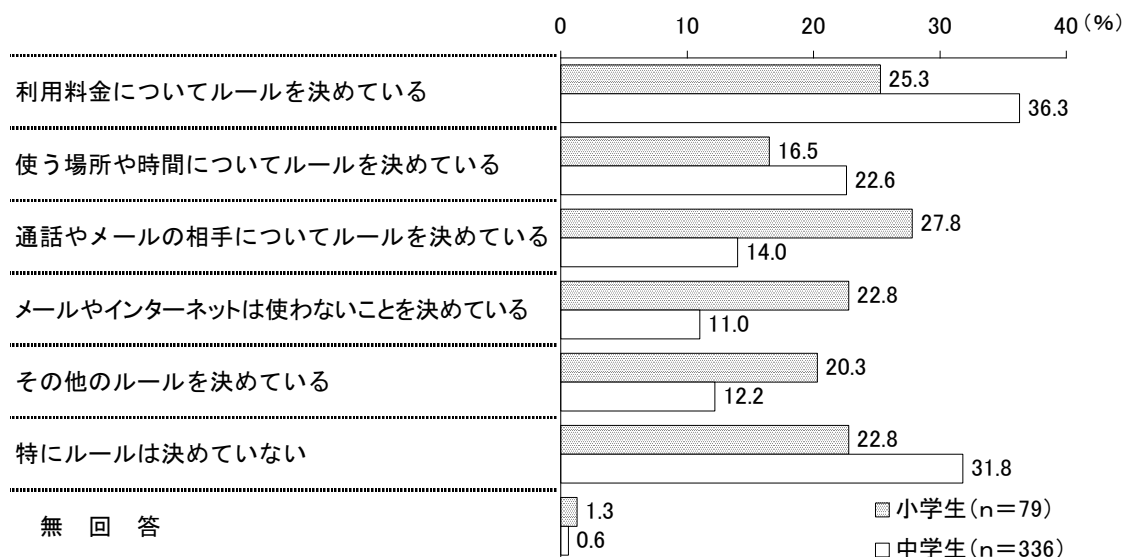
携帯電話を「持っている」と答えた子どもに、携帯電話の利用についてルールを決めているか聞いたところ、「利用料金についてルールを決めている」が34.2%で最も多く、次いで「使う場所や時間についてルールを決めている」(21.4%)、「通話やメールの相手についてルールを決めている」(16.6%)などの順となっている。「特にルールは決めていない」は30.1%である。(図表5-4-7)

図表5-4-7



年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「通話やメールの相手についてルールを決めている」(27.8%)、「メールやインターネットは使わないことを決めている」(22.8%)などである。中学生では「利用料金についてルールを決めている」が36.3%で最も多く、次いで「使う場所や時間についてルールを決めている」(22.6%)が続いている。また、「特にルールは決めていない」が31.8%となっている。(図表5-4-8)

図表5-4-8 携帯電話の利用のルール (年代別)



(5) インターネットの利用状況

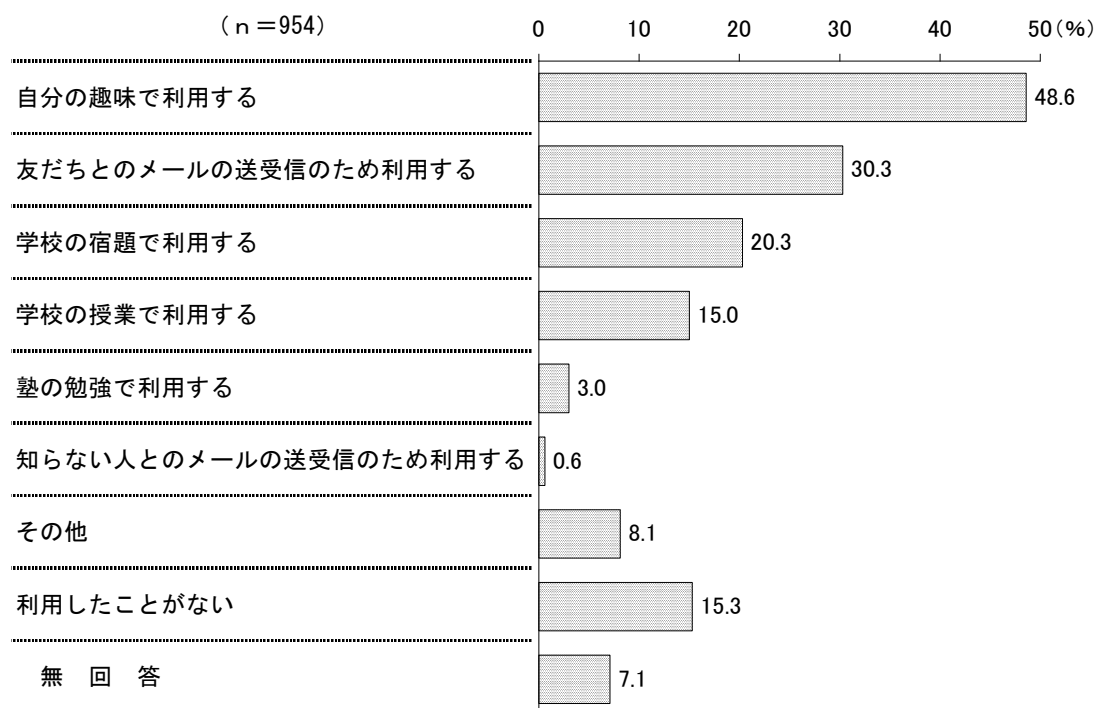
◇「自分の趣味で利用する」が48.6%

問36 あなたが普段、携帯電話（PHSを含む）やパソコンで、インターネットを利用する主な目的は何ですか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

（類似質問：満15歳～30歳158ページ参照）

インターネットを利用する主な目的を聞いたところ、「自分の趣味で利用する」が48.6%で最も多く、次いで「友だちとのメールの送受信のため利用する」（30.3%）、「学校の宿題で利用する」（20.3%）、「学校の授業で利用する」（15.0%）などの順となっている。（図表5-5-1）

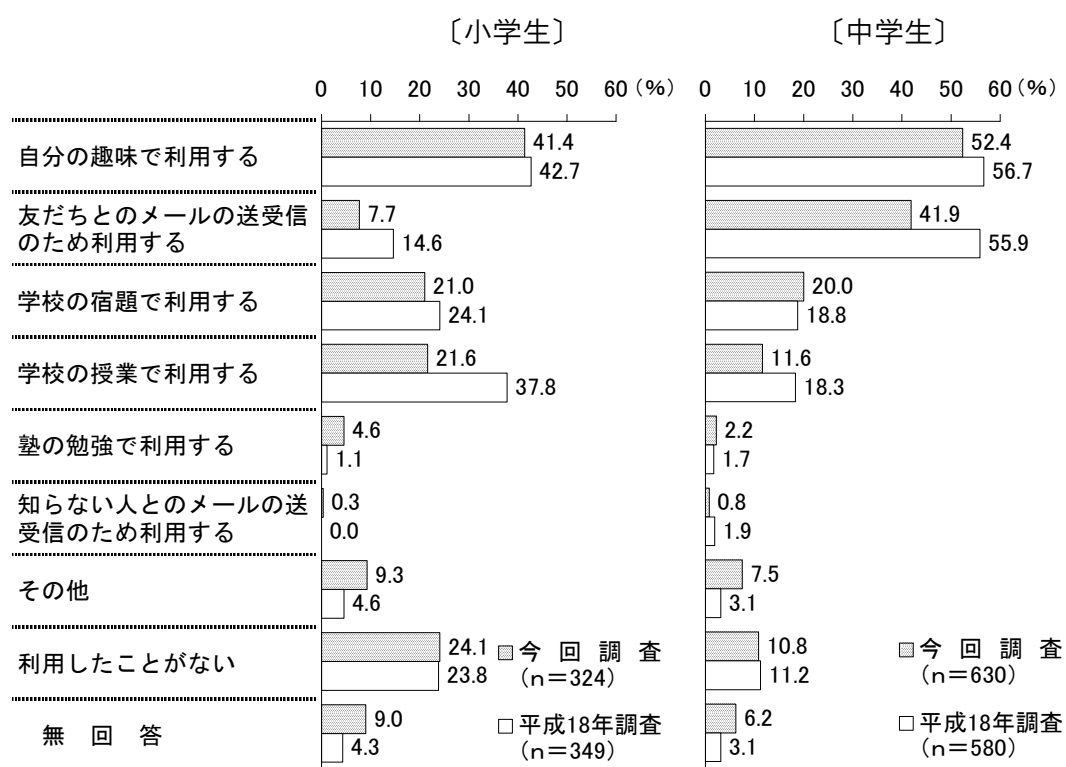
図表5-5-1



年代別にみると、小学生より中学生で割合が多いのは、「自分の趣味で利用する」(52.4%)、「友だちとのメールの送受信のため利用する」(41.9%) などである。「利用したことがない」は小学生で24.1%、中学生で10.8%となっている。(図表5-5-2)

平成18年調査と比較すると、「友だちとのメールの送受信のため利用する」と「学校の授業で利用する」は小学生、中学生ともに減少している。(図表5-5-2)

図表5-5-2 インターネットの利用状況(年代別経年比較)



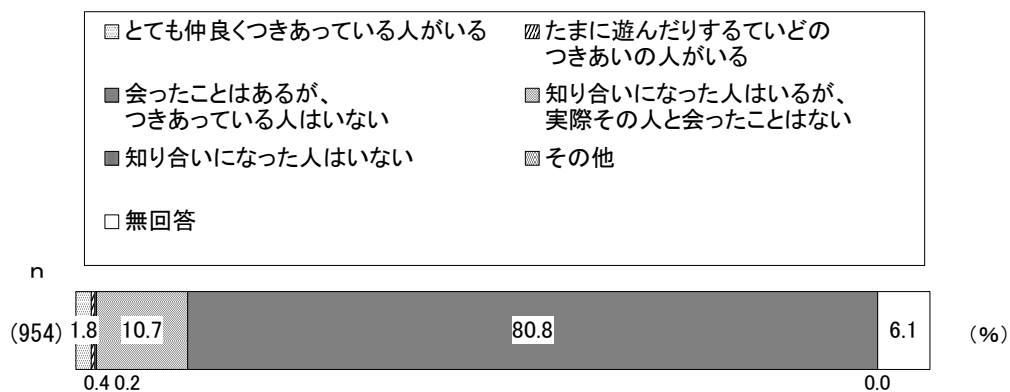
(6) インターネットを通じて知り合った人とのつきあい

◇「知り合いになった人はいない」が80.8%

問45 あなたは、インターネットで知り合った人がいますか。ある人は、そこで知り合った人とどのようなつきあいをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。
(類似質問：満15歳～30歳165ページ参照)

インターネットで知り合った人がいるか、またそこで知り合った人とどのようなつきあいをしているか聞いたところ、「知り合いになった人はいない」が80.8%、「知り合いになった人はいるが、実際その人と会ったことはない」が10.7%となっている。実際に会ったことがある子どもの割合は2.4%である。(図表5-6-1)

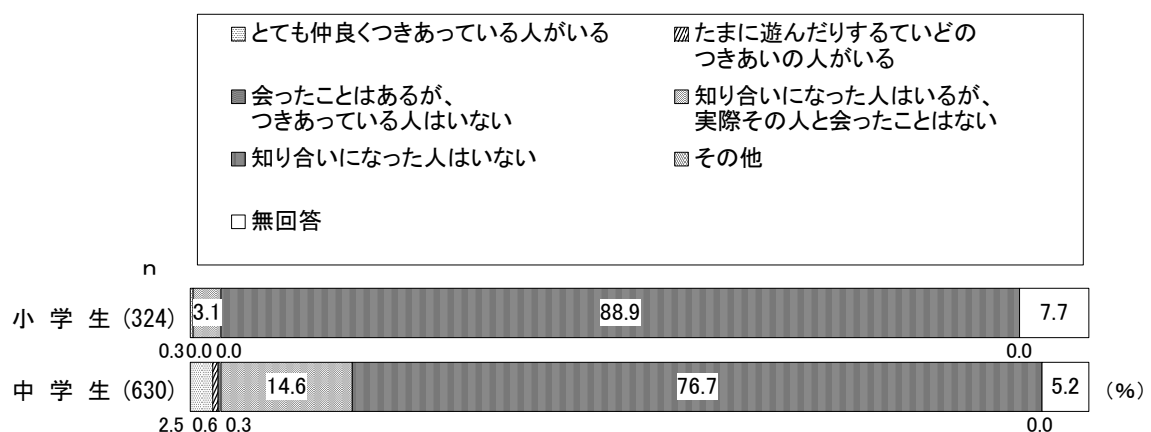
図表5-6-1



年代別にみると、小学生では、「知り合いになった人はいない」が88.9%、「知り合いになった人はいるが、実際その人と会ったことはない」が3.1%で、実際に会ったことがある子どもは0.3%である。中学生では、「知り合いになった人はいない」が76.7%、「知り合いになった人はいるが、実際その人と会ったことはない」が14.6%で、実際に会ったことがある子どもは3.4%である。

(図表5-6-2)

図表5-6-2 インターネットを通じて知り合った人とのつきあい (年代別)



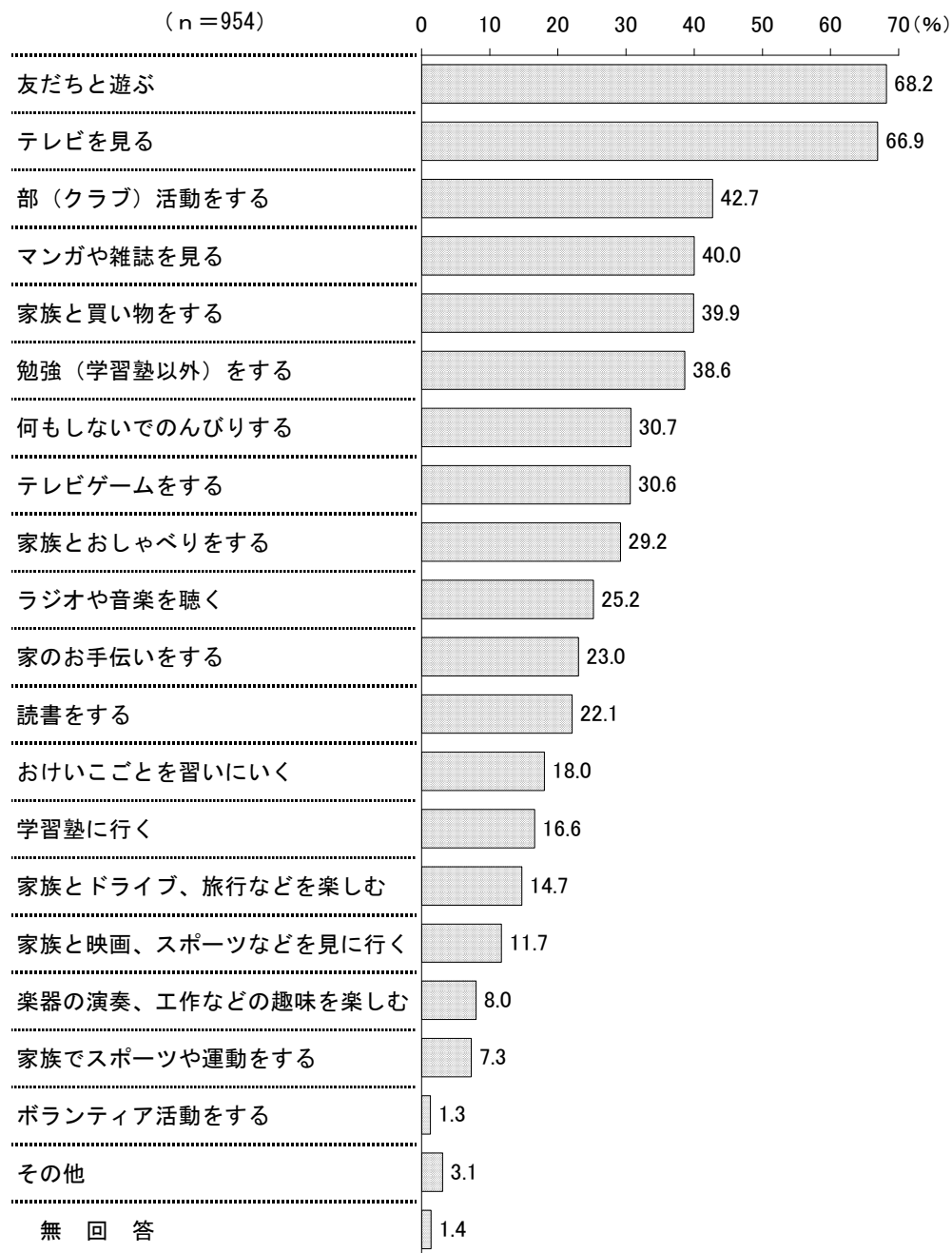
(7) 休日の過ごし方

◇「友だちと遊ぶ」が68.2%、「テレビを見る」が66.9%

問37 あなたは学校が休みの日は、どのようにすごしていますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳166ページ)

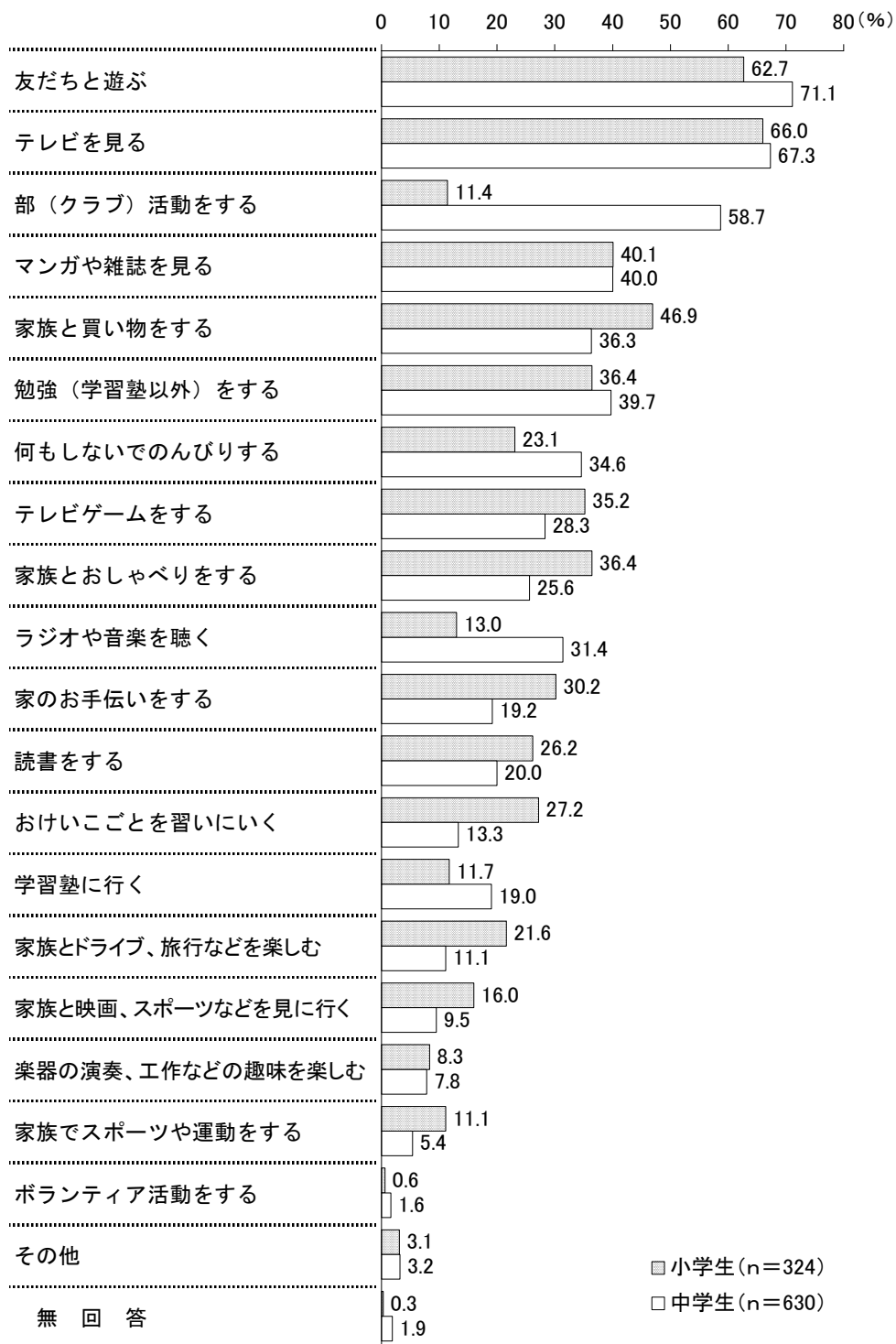
学校が休みの日はどのように過ごしているか聞いたところ、「友だちと遊ぶ」が68.2%、「テレビを見る」が66.9%で、この2項目が多く、次いで「部(クラブ)活動をする」(42.7%)、「マンガや雑誌を見る」(40.0%)、「家族と買い物をする」(39.9%)、「勉強(学習塾以外)をする」(38.6%)などの順となっている。(図表5-7-1)

図表5-7-1



年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「家族と買い物をする」(46.9%)、「家族とおしゃべりをする」(36.4%)、「テレビゲームをする」(35.2%)、「家のお手伝いをする」(30.2%)、「おけいごとを習いに行く」(27.2%)、「家族とドライブ、旅行などを楽しむ」(21.6%)などである。中学生では、「部(クラブ)活動をする」が58.7%となっているほかでは、「友だちと遊ぶ」(71.1%)、「何もしないでのんびりする」(34.6%)、「ラジオや音楽を聴く」(31.4%)、「学習塾に行く」(19.0%)の割合が小学生に比べて多くなっている。(図表5-7-2)

図表5-7-2 休日の過ごし方(年代別)



年代別に過去の調査結果と比較すると、「友だちと遊ぶ」と「テレビを見る」は小学生、中学生ともに第1位または第2位となっている。小学生では今回調査で「テレビを見る」が第1位、「友だちと遊ぶ」が第2位となり、中学生では「友だちと遊ぶ」が第1位、「テレビを見る」が第2位となっているが、この2項目が6割から7割を占めて多くなっている傾向に変化はない。

(図表5-7-3)

図表5-7-3 休日の過ごし方(年代別経年比較)(上位5項目)

調査年 順位	小学生		
	今回調査 (%)	平成18年度 (%)	平成13年度 (%)
第1位	テレビを見る (66.0)	友達と一緒に遊ぶ (60.7)	友達と一緒に遊ぶ (71.5)
第2位	友だちと遊ぶ (62.7)	テレビを見る (59.9)	テレビを見る (62.8)
第3位	家族と買い物をする (46.9)	家族と買い物をする (47.3)	マンガや雑誌を見る (51.0)
第4位	マンガや雑誌を見る (40.1)	マンガや雑誌を見る (41.5)	テレビゲームをする (47.6)
第5位	勉強(学習塾以外)をする (36.4)	テレビゲームをする (40.4)	家族と買い物をする (46.6)

調査年 順位	中学生		
	今回調査 (%)	平成18年度 (%)	平成13年度 (%)
第1位	友だちと遊ぶ (71.1)	友達と一緒に遊ぶ (71.4)	友達と一緒に遊ぶ (78.8)
第2位	テレビを見る (67.3)	テレビを見る (67.2)	テレビを見る (69.3)
第3位	部(クラブ)活動をする (58.7)	マンガや雑誌を見る (54.7)	マンガや雑誌を見る (57.5)
第4位	マンガや雑誌を見る (40.0)	部(クラブ)活動をする (49.8)	部(クラブ)活動をする (48.4)
第5位	勉強(学習塾以外)をする (39.7)	テレビゲームをする (40.9)	ラジオや音楽を聴く (38.4)

(7-1) 休日の友達との過ごし方

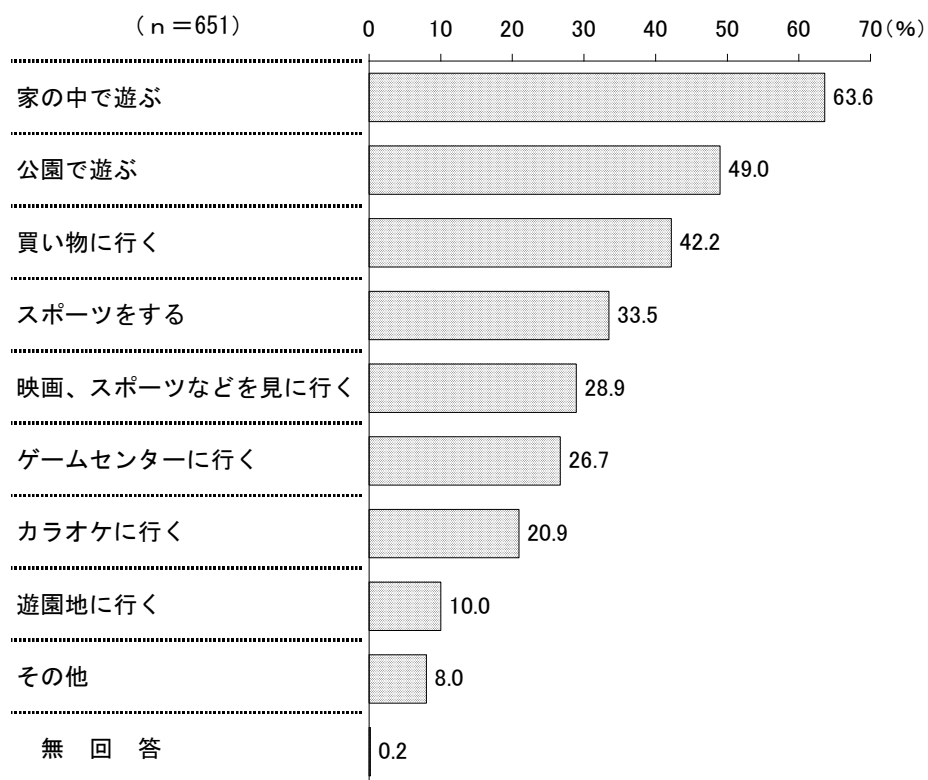
◇「家の中で遊ぶ」が63.6%、「公園で遊ぶ」が49.0%

(問37で「19 友だちと遊ぶ」に○をした人にうかがいます)

問38 あなたは、学校が休みの日に友だちとどのように遊びますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

学校が休みの日の過ごし方で「友だちと遊ぶ」と答えた子どもに、どのように遊ぶか聞いたところ、「家の中で遊ぶ」が63.6%で最も多く、次いで「公園で遊ぶ」(49.0%)、「買い物に行く」(42.2%)、「スポーツをする」(33.5%)、「映画、スポーツなどを見に行く」(28.9%)、「ゲームセンターに行く」(26.7%)などの順となっている。(図表5-7-4)

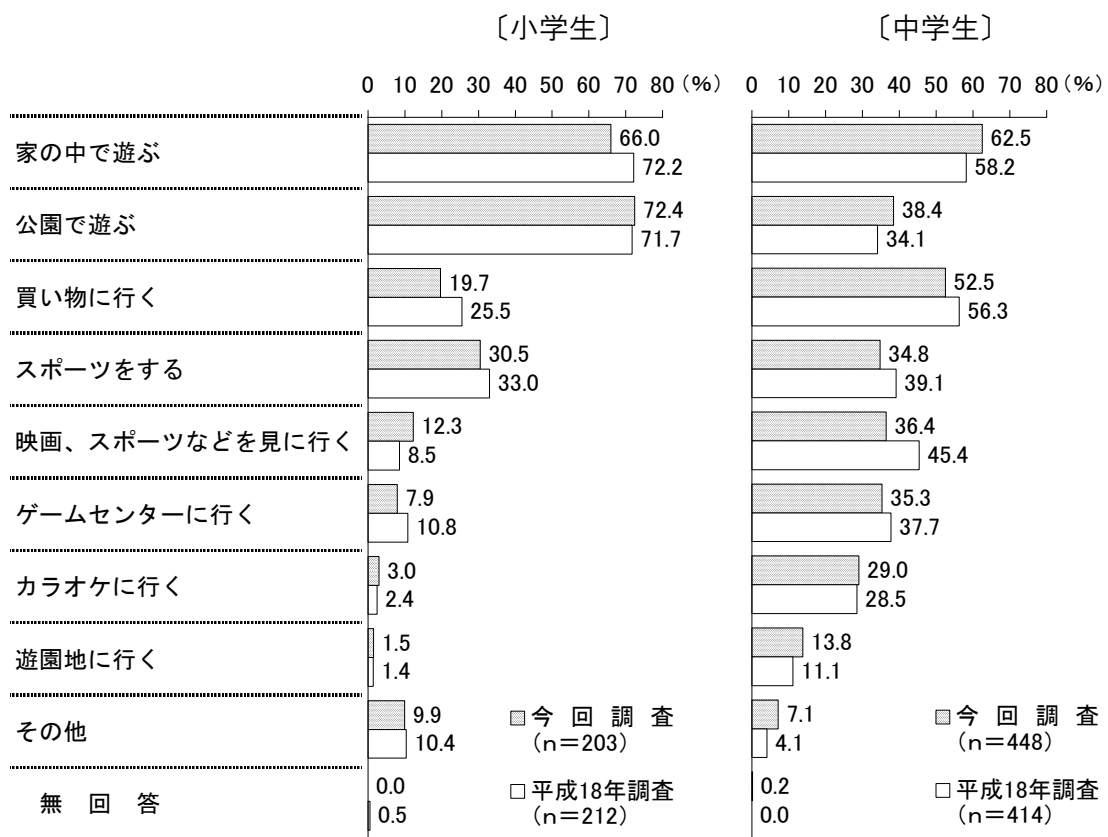
図表5-7-4



年代別にみると、小学生では、「公園で遊ぶ」が72.4%で、「家の中で遊ぶ」(66.0%)を上回っている。中学生では、「家の中で遊ぶ」(62.5%)に次いで「買い物に行く」(52.5%)が多く、「公園で遊ぶ」(38.4%)、「映画、スポーツなどを見に行く」(36.4%)、「ゲームセンターに行く」(35.3%)、「スポーツをする」(34.8%)がいずれも3割台となっている。(図表5-7-5)

平成18年調査と比較すると、「映画、スポーツなどを見に行く」は中学生で9.0ポイント減少し、「家の中で遊ぶ」は小学生で6.2ポイント減少している。(図表5-7-5)

図表5-7-5 休日の友達との過ごし方 (年代別経年比較)



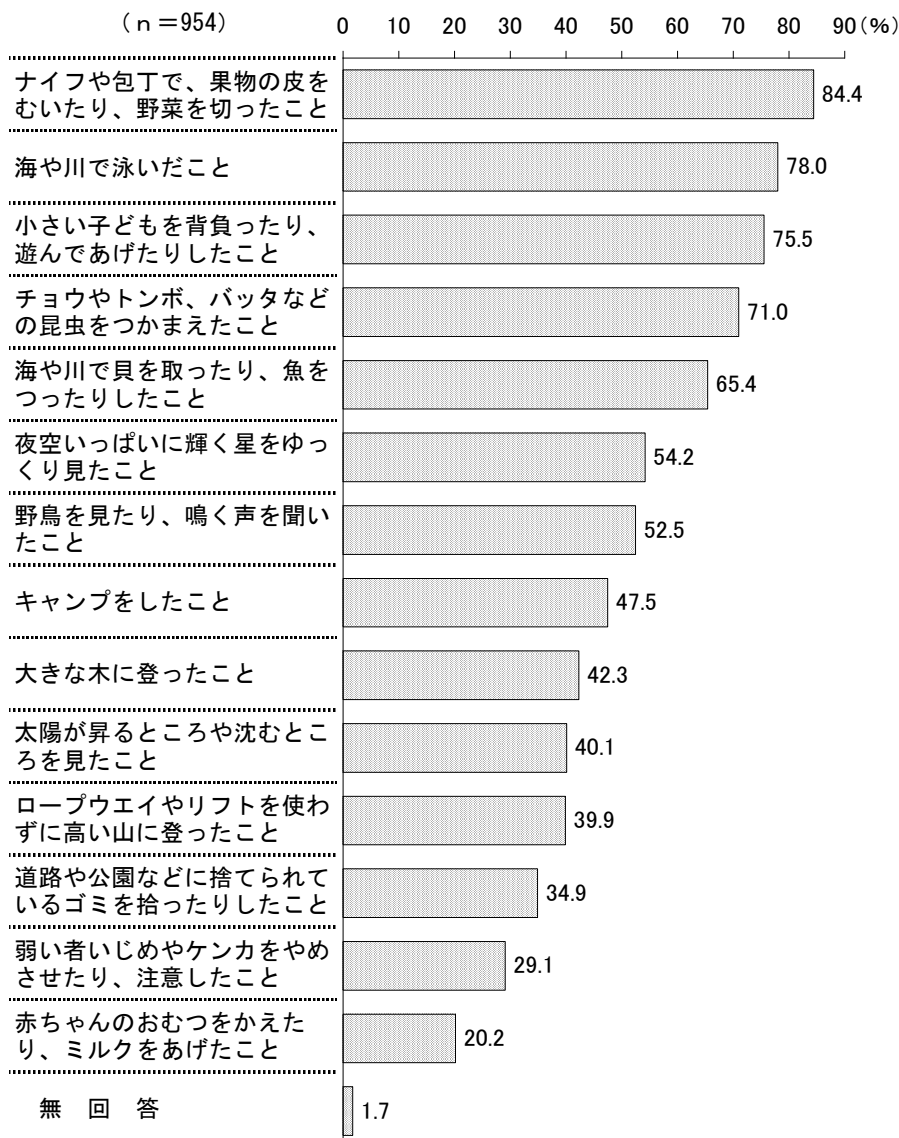
(8) 生活上の経験・海や山などで遊んだ経験

◇「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」が84.4%

問39 あなたは、次のようなことをした経験がありますか。次の中で、経験のあるものすべてに○をしてください。

生活上、あるいは海や山などの遊びで、どのような経験があるか聞いたところ、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」が84.4%で最も多く、次いで「海や川で泳いだこと」(78.0%)、「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」(75.5%)、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」(71.0%)、「海や川で貝を取ったり、魚をつったりしたこと」(65.4%)などの順となっている。(図表5-8-1)

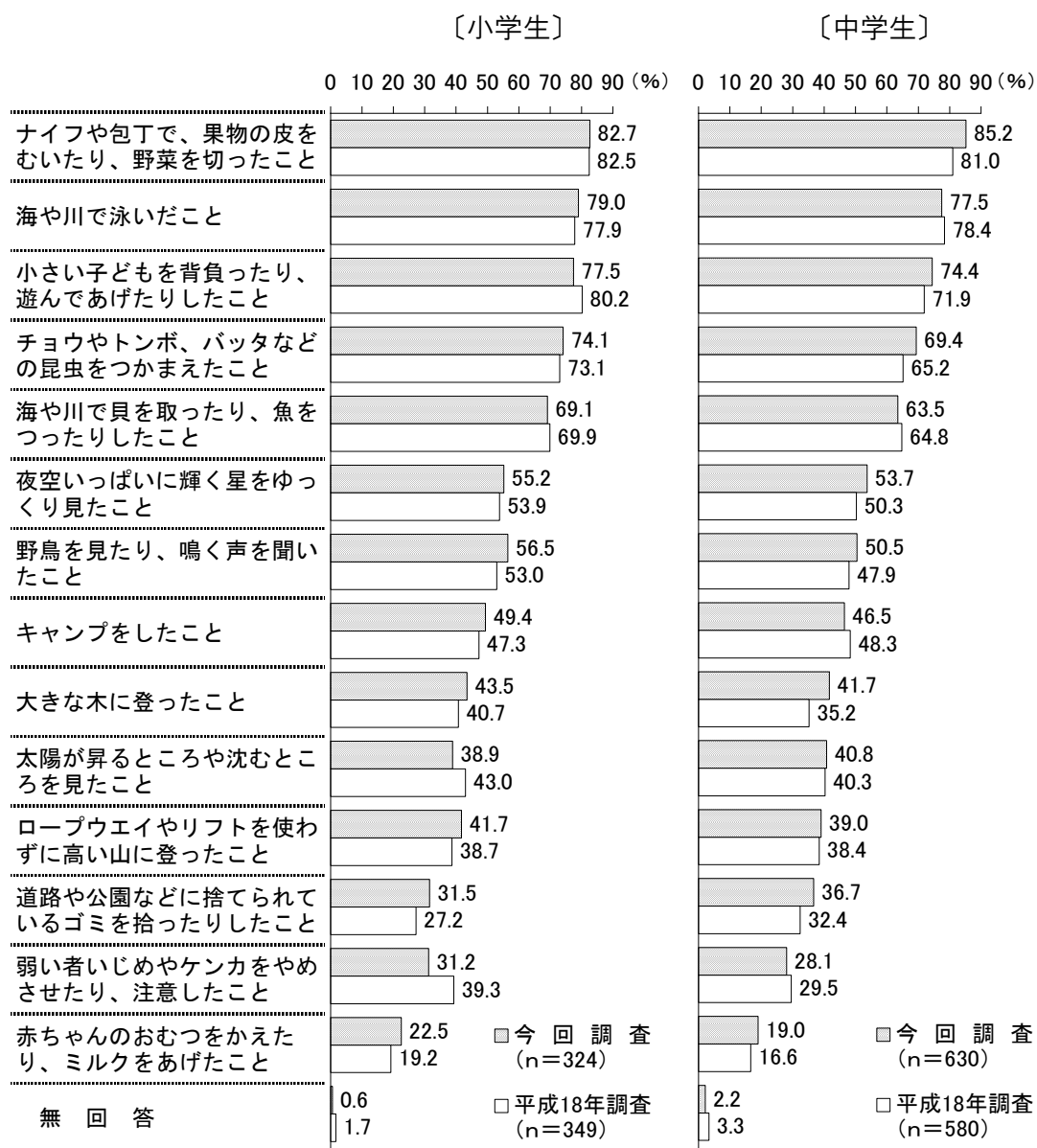
図表5-8-1



年代別にみると、小学生と中学生で大きな差のある項目はなく、また、順位に大きな違いのある項目もみられない。(図表5-8-2)

平成18年調査と比較すると、平成18年調査に比べて若干の増加傾向にある項目が多くなっているが、特に顕著な傾向の違いがある項目はみられない。(図表5-8-2)

図表5-8-2 生活上の経験・海や山などで遊んだ経験(年代別経年比較)



(9) 仲のよい友達の数

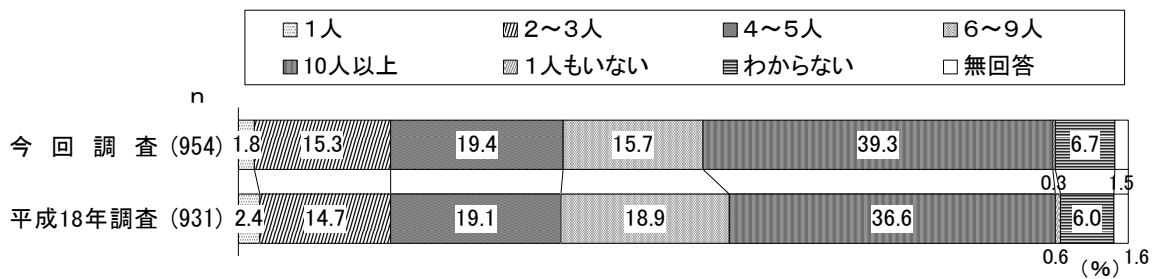
◇「10人以上」が39.3%

問40 あなたには、とても仲の良い友だちは何人いますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

とても仲の良い友達が何人いるか聞いたところ、「10人以上」が39.3%で最も多くなっている。「6～9人」は15.7%、「4～5人」は19.4%、「2～3人」は15.3%である。(図表5-9-1)

平成18年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図表5-9-1)

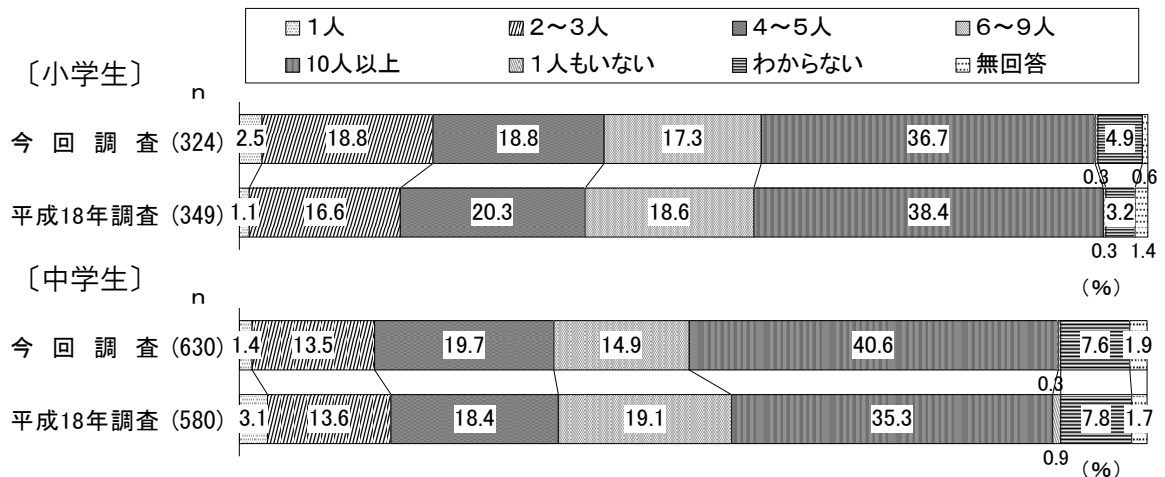
図表5-9-1



年代別にみると、「10人以上」は中学生で40.6%、小学生で36.7%となっており、小学生よりも中学生の方が仲の良い友達の数が多い子どもの割合が多くなっている。(図表5-9-2)

年代別に平成18年調査と比較すると、小学生では仲の良い友達の数が多い子どもの割合はやや減少傾向にあり、逆に中学生では仲の良い友達の数が多い子どもの割合はやや増加傾向にある。(図表5-9-2)

図表5-9-2 仲のよい友達の数 (年代別経年比較)



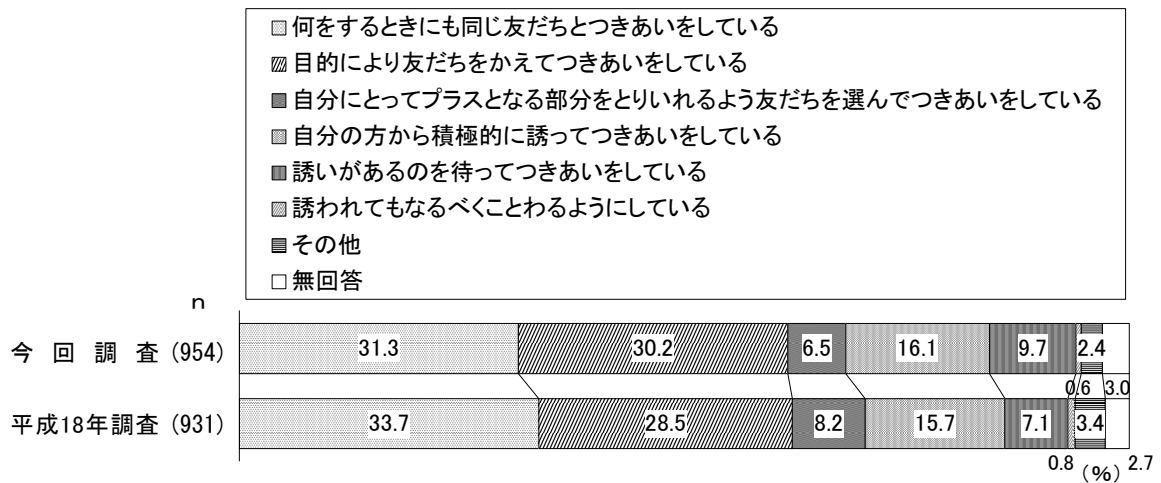
(10) 友達とのつきあい方

◇「何をするときにも同じ友だちとつきあいをしている」が31.3%

問41 あなたは、友だちとどのようにつきあっていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳169ページ参照)

友だちとどのようにつきあっているか聞いたところ、「何をするときにも同じ友だちとつきあいをしている」が31.3%、「目的により友だちをかえてつきあいをしている」が30.2%、「自分の方から積極的に誘ってつきあいをしている」が16.1%などとなっている。(図表5-10-1)

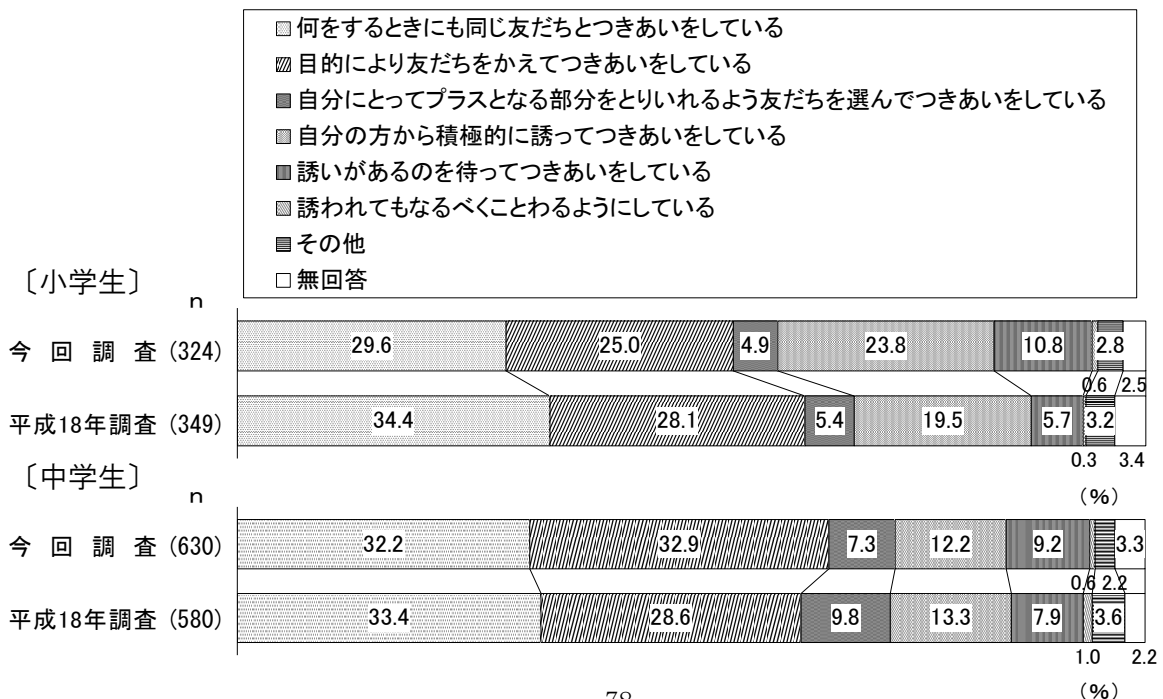
図表5-10-1



年代別にみると、「自分の方から積極的に誘ってつきあいをしている」は小学生(23.8%)の方が中学生(12.2%)より11.6ポイント高くなっている。(図表5-10-2)

年代別に平成18年調査と比較すると、小学生では「自分の方から積極的に誘ってつきあいをしている」が4.3ポイント増加している。中学生では大きな傾向の違いはみられない。(図表5-10-2)

図表5-10-2 友達とのつきあい方 (年代別経年比較)



6 悩みごとなどについて

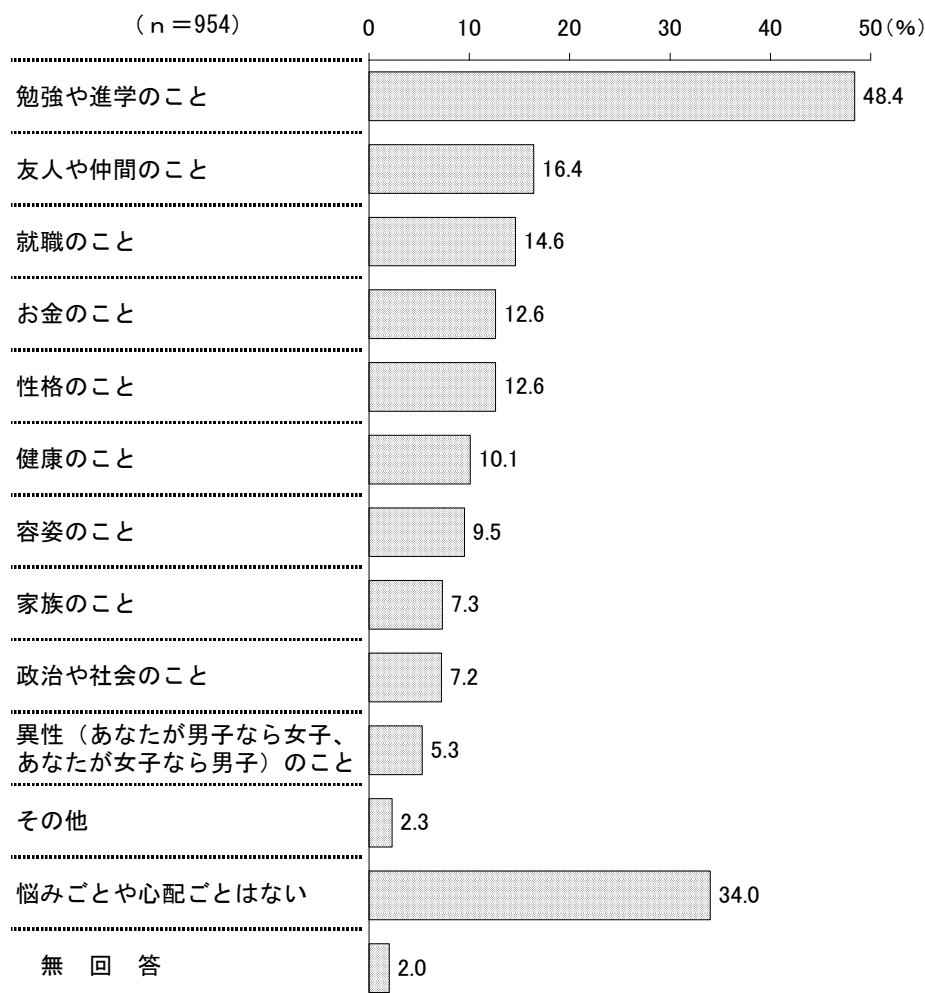
(1) 悩みごとや心配ごと

◇「勉強や進学のこと」が48.4%

問42 あなたには、悩みごとや心配ごとがありますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳171ページ参照)

悩みごとや心配ごとを聞いたところ、「勉強や進学のこと」が48.4%で最も多く、次いで「友人や仲間のこと」(16.4%)、「就職のこと」(14.6%)、「お金のこと」、「性格のこと」(ともに12.6%)、「健康のこと」(10.1%)などの順となっている。(図表6-1-1)

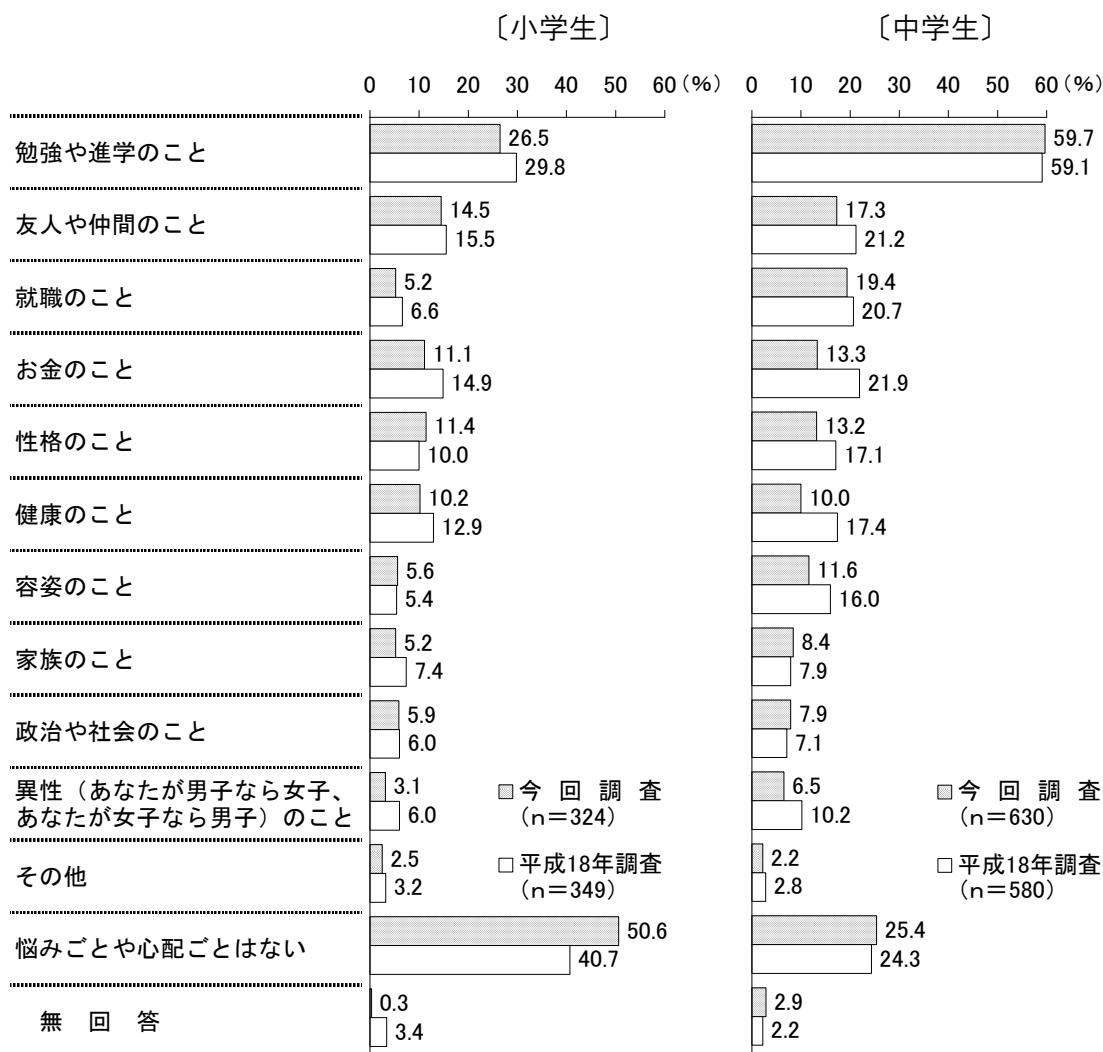
図表6-1-1



年代別にみると、小学生では、「悩みごとや心配ごとはない」が50.6%、「勉強や進学のこと」が26.5%と多くなっている。中学生では「勉強や進学のこと」が59.7%と多く、次いで「悩みごとや心配ごとはない」が25.4%、「就職のこと」が19.4%となっている。（図表6-1-2）

平成18年調査と比較すると、小学生では「悩みごとや心配ごとはない」が9.9ポイント増加している。中学生では、「勉強や進学のこと」はほぼ同じ割合となっているが、「お金のこと」、「健康のこと」をはじめとして、減少傾向にある項目が多くなっている。（図表6-1-2）

図表6-1-2 悩みごとや心配ごと（年代別経年比較）



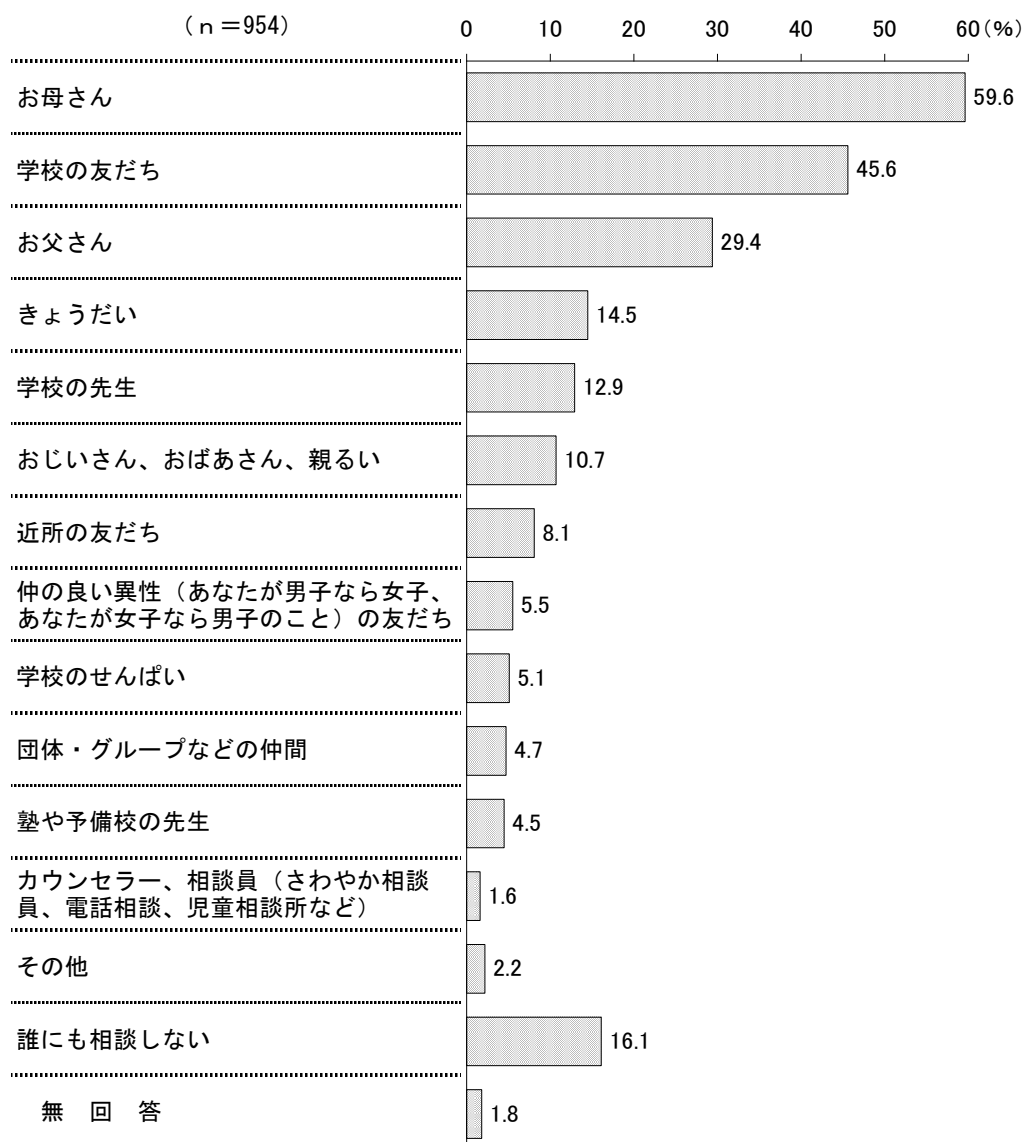
(2) 悩みごとの相談相手

◇「お母さん」が59.6%、「学校の友だち」が45.6%

問43 あなたは、悩みごとを誰に相談しますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳174ページ参照)

悩みごとを誰に相談するか聞いたところ、「お母さん」が59.6%で最も多く、次いで「学校の友だち」(45.6%)、「お父さん」(29.4%)、「きょうだい」(14.5%)、「学校の先生」(12.9%)、「おじいさん、おばあさん、親るい」(10.7%)などの順となっている。「誰にも相談しない」は16.1%である。(図表6-2-1)

図表6-2-1

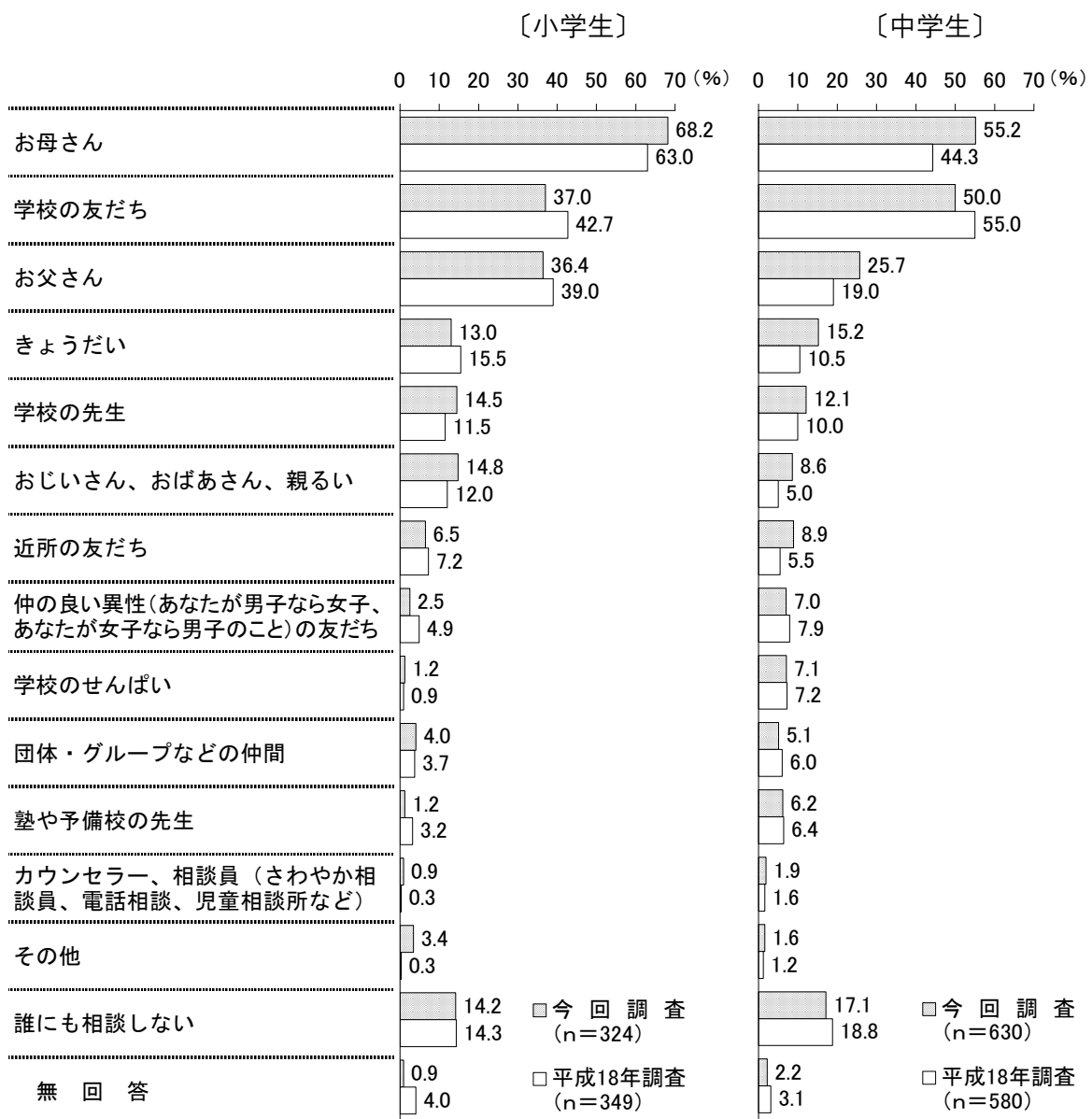


年代別にみると、小学生では「お母さん」(68.2%)、「お父さん」(36.4%)、「おじいさん、おばあさん、親るい」(14.8%)の割合が中学生に比べて多く、逆に中学生では「学校の友だち」(50.0%)をはじめとして、「近所の友だち」(8.9%)、「学校のせんぱい」(7.1%)、「仲の良い異性(あなたが男子なら女子、あなたが女子なら男子のこと)の友だち」(7.0%)、「塾や予備校の先生」(6.2%)、などに相談する人の割合が小学生に比べて多くなっている。(図表6-2-2)

平成18年調査と比較すると、小学生では「お母さん」が5.2ポイント増加し、「学校の友だち」は5.7ポイント減少している。中学生では、「お母さん」が10.9ポイント、「お父さん」が6.7ポイント、「きょうだい」が4.7ポイント増加し、「学校の友だち」は5.0ポイント減少している。

(図表6-2-2)

図表6-2-2 悩みごとの相談相手 (年代別経年比較)



7 青少年の非行などについて

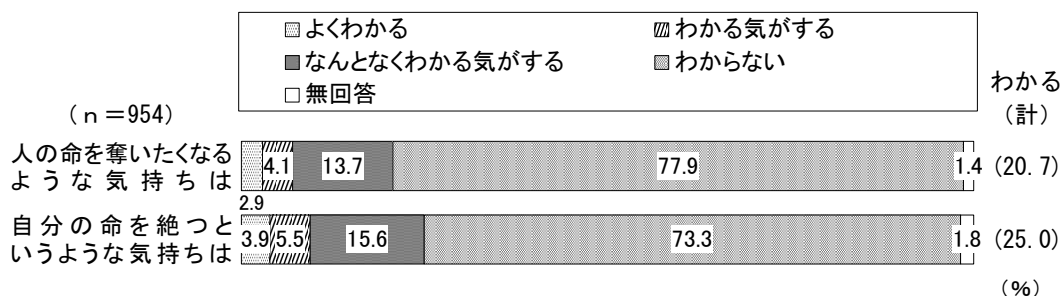
(1) 人の命を奪いたくなる・自分の命を絶つという気持ちに関する意識

◇『わかる(計)』は<人の命を奪いたくなるような気持ち><自分の命を絶つというような気持ち>ともに2割台

問44 最近、青少年が他人の命を奪ったり、自分の命を絶ったりする事件が目立ちます。あなたは、こうした事件についてどう思いますか。それぞれの中で、1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳178ページ、保護者274ページ参照)

青少年が他人の命を奪ったり、自分の命を絶ったりする事件についてどう思うか聞いたところ、「よくわかる」と「わかる気がする」、「何となくわかる気がする」の3つを合わせた『わかる(計)』は、<人の命を奪いたくなるような気持ち>で20.7%、<自分の命を絶つというような気持ち>で25.0%となっている。(図表7-1-1)

図表7-1-1



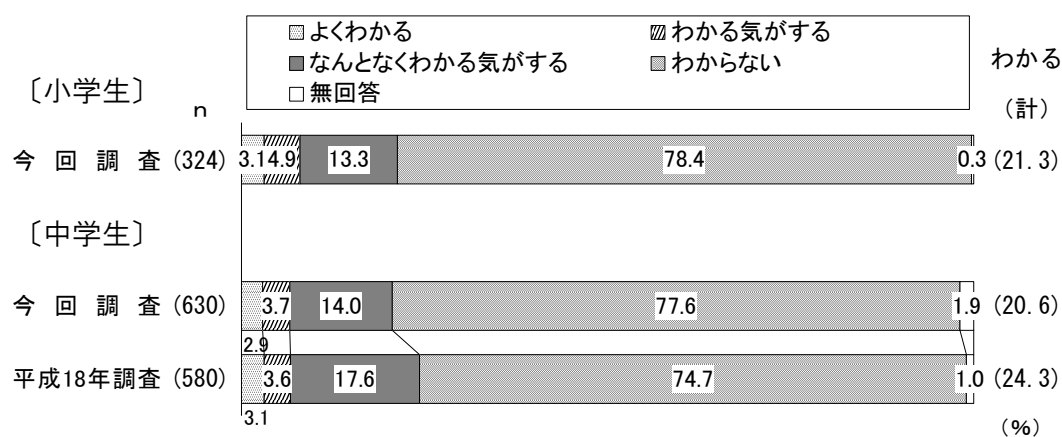
年代別にみると、小学生、中学生ともに、＜人の命を奪いたくなるような気持ち＞、＜自分の命を絶つというような気持ち＞はいずれも2割台となっており、大きな傾向の違いはみられない。

(図表7-1-2、図表7-1-3)

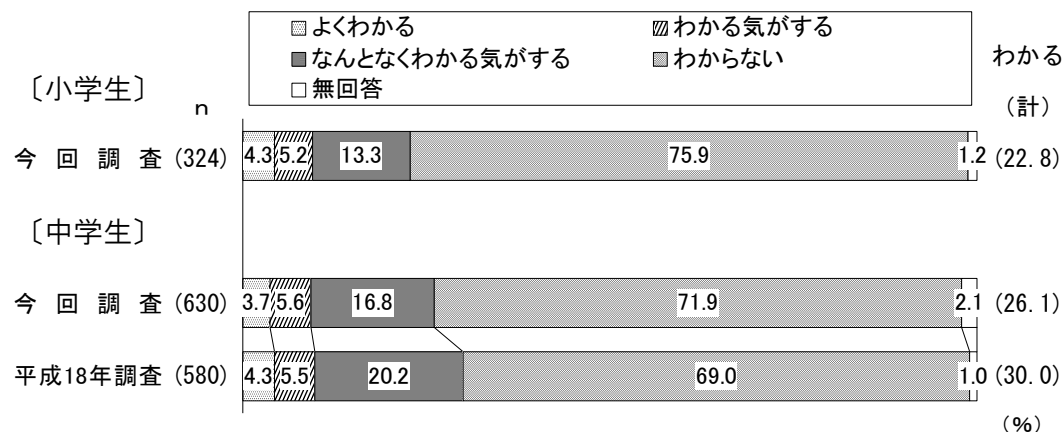
平成18年調査では中学生のみに聞いているため、中学生について平成18年調査と比較すると、『わかる(計)』の割合は、＜人の命を奪いたくなるような気持ち＞で3.7ポイント、＜自分の命を絶つというような気持ち＞で3.9ポイント、それぞれ減少している。

(図表7-1-2、図表7-1-3)

図表7-1-2 人の命を奪いたくなるような気持ちに関する意識 (年代別経年比較)



図表7-1-3 自分の命を絶つというような気持ちに関する意識 (年代別経年比較)



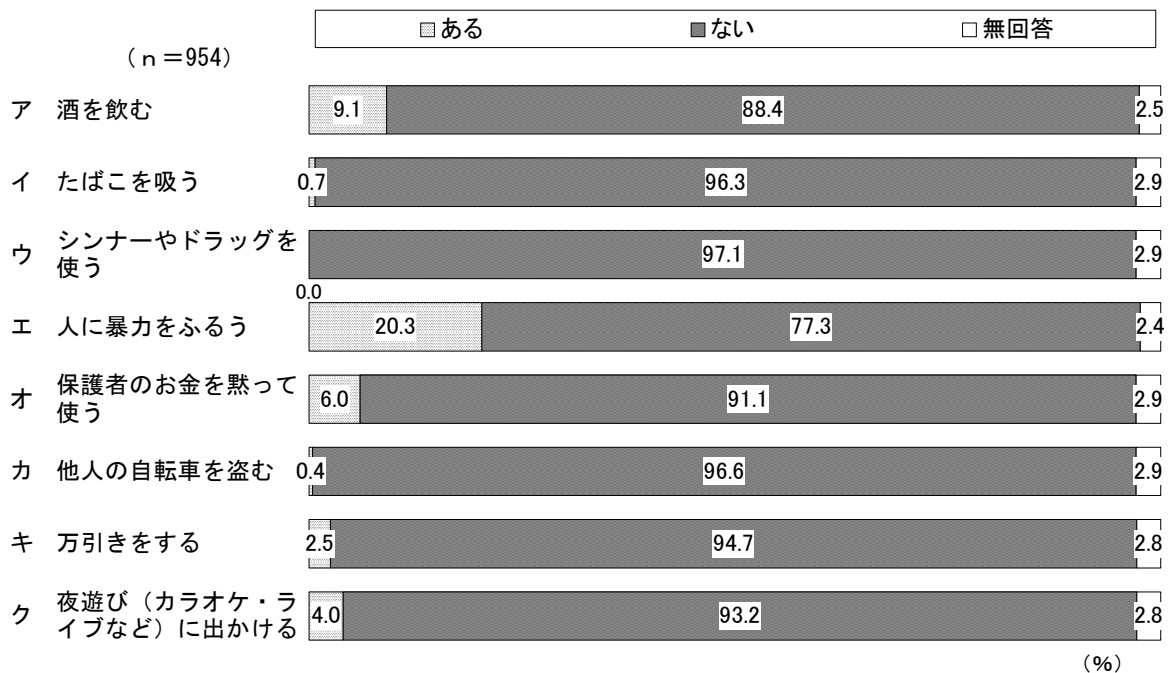
(2) 非行・問題行動の経験

◇人に暴力をふるったことが「ある」は20.3%

問46 あなたは、次のようなことをしてしまったことがありますか。それぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳177ページ参照)

非行・問題行動をした経験について、8項目に分けて聞いたところ、「ある」は、<エ 人に暴力をふるう>で20.3%、<ア 酒を飲む>で9.1%、<オ 保護者のお金を黙って使う>で6.0%、<ク 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける>で4.0%などとなっている。（図表7-2-1）

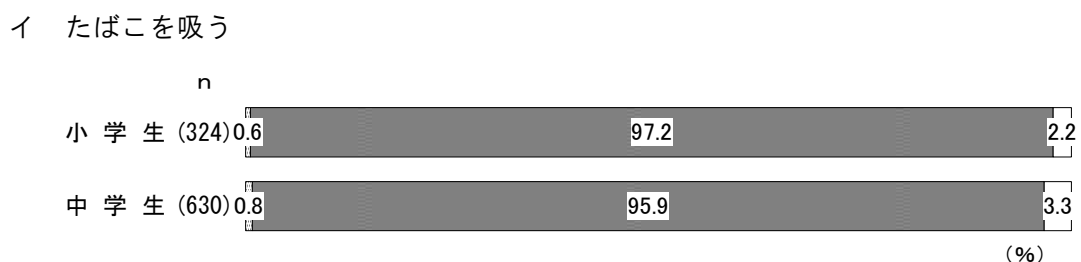
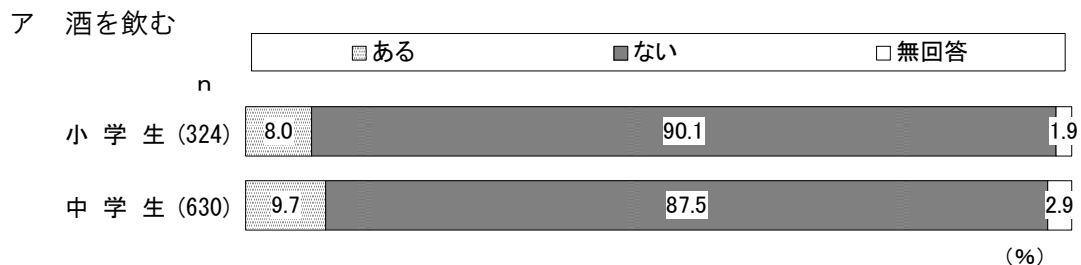
図表7-2-1



年代別にみると、<エ 人に暴力をふるう>は小学生で23.8%、中学生で18.6%と多く、<ク 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける>は中学生で5.7%と多くなっている。

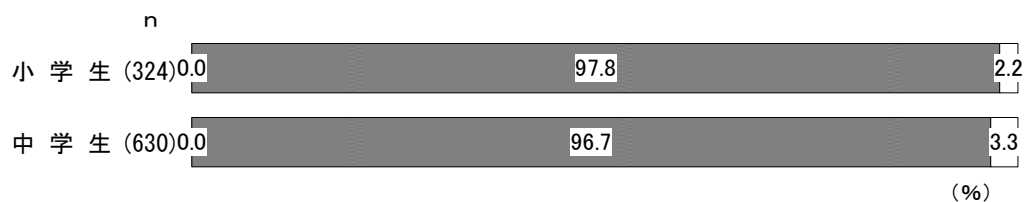
(図表7-2-2、7-2-3)

図表7-2-2 非行・問題行動の経験（年代別）



図表 7-2-3 非行・問題行動の経験（年代別）（つづき）

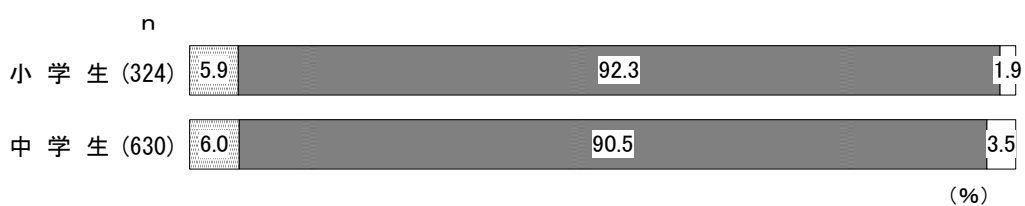
ウ シンナーやドラッグを使う



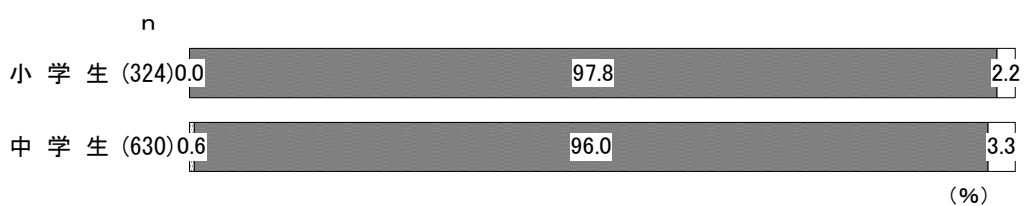
エ 人に暴力をふるう



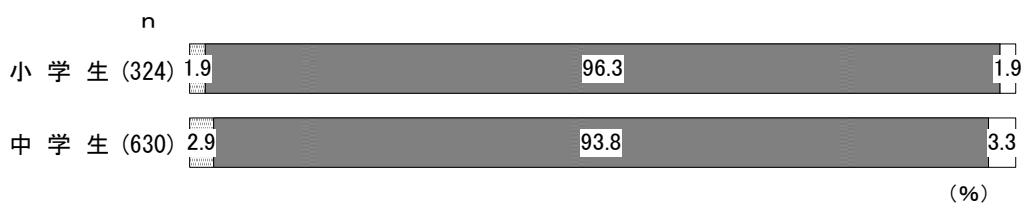
オ 保護者のお金を黙って使う



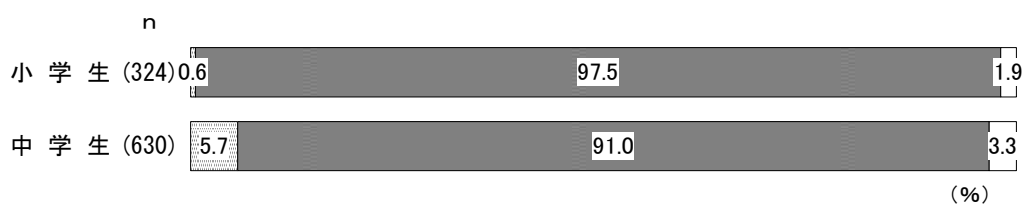
カ 他人の自転車を盗む



キ 万引きをする



ク 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける



8 恋愛や結婚観について

(1) 結婚についての意識

◇「結婚して家庭を持ちたいと思う」が54.3%

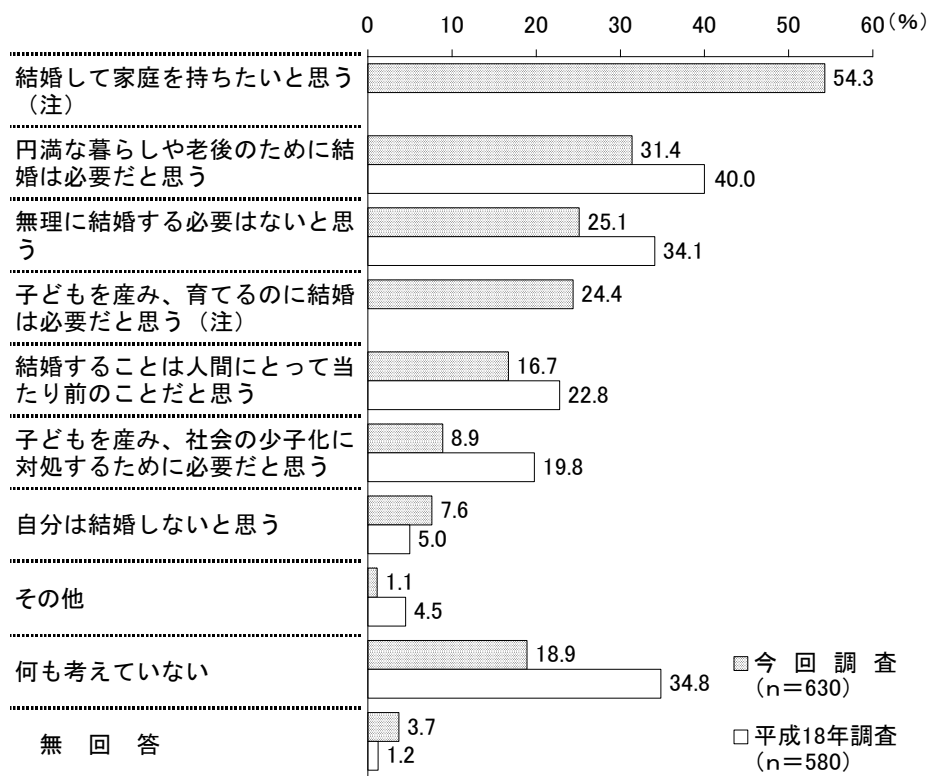
(中学生の人だけ教えてください)

問47 あなたは、結婚についてどう考えていますか。次の中から主なものを3つまで選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳190ページ)

中学生に、結婚についてどう考えているか聞いたところ、「結婚して家庭を持ちたいと思う」が54.3%で最も多く、次いで「円満な暮らしや老後のために結婚は必要だと思う」(31.4%)、「無理に結婚する必要はないと思う」(25.1%)、「子どもを産み、育てるのに結婚は必要だと思う」(24.4%)などの順となっている。(図表8-1-1)

平成18年調査との比較は、今回調査で2つの選択肢を追加しているため直接の比較を行うことはできないため、参考として掲載する。(図表8-1-1)

図表8-1-1



(注)「結婚して家庭を持ちたいと思う」と「子どもを産み、育てるのに結婚は必要だと思う」の選択肢は今回調査で加えたものである。平成18年調査においても回答個数を「3つまで」としていたことから、今回調査と平成18年調査との比較は参考にとどまる。

9 地域・地域活動について

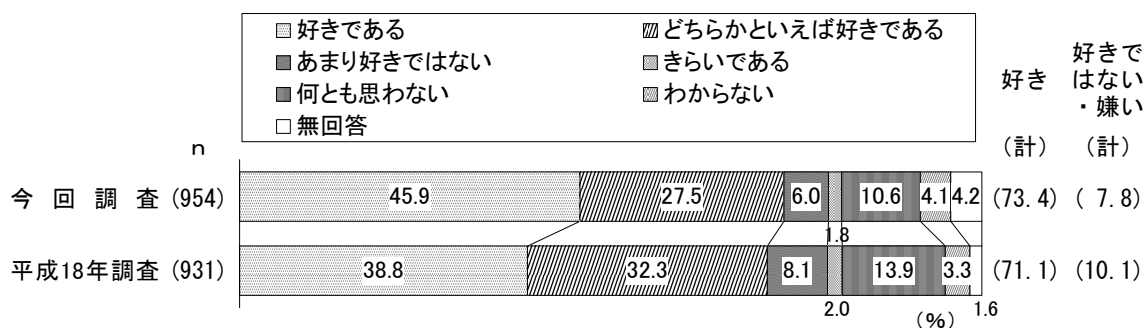
(1) 地域への愛着度

◇『好き(計)』は73.4%

問48 あなたは、今あなたが住んでいる地域が好きですか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳192ページ参照)

今住んでいる地域が好きか聞いたところ、「好きである」(45.9%)と「どちらかといえば好きである」(27.5%)の2つを合わせた『好き(計)』は73.4%となっている。(図表9-1-1)
平成18年調査と比較すると、「好きである」は7.1ポイント増加している。(図表9-1-1)

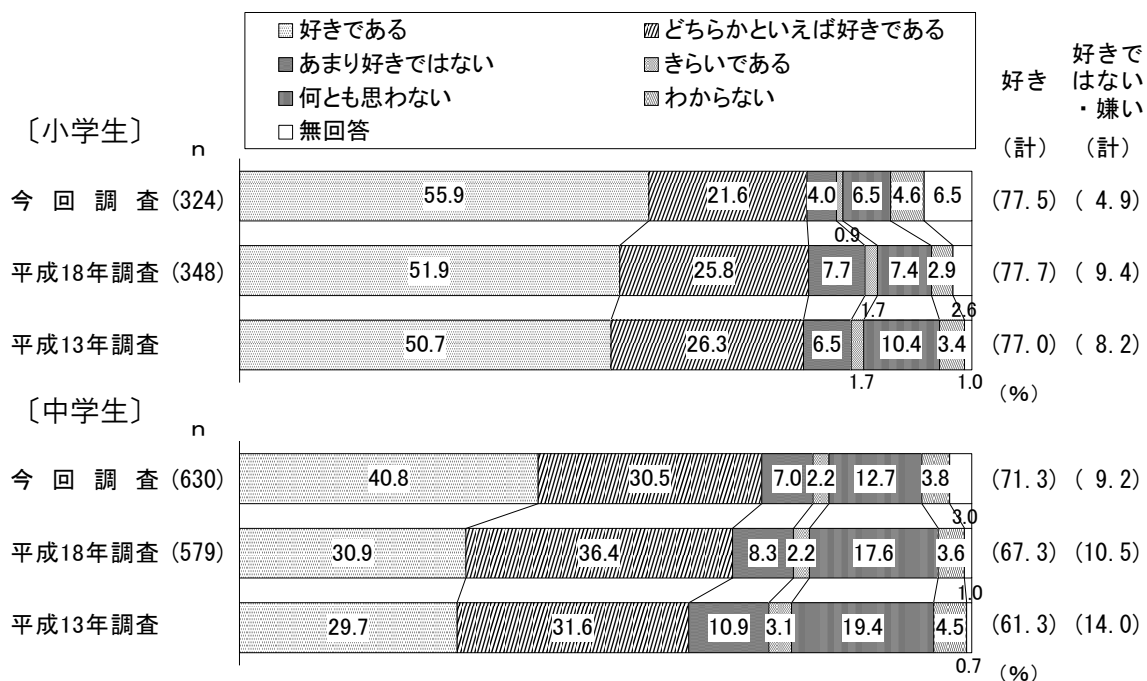
図表9-1-1



年代別にみると、『好き(計)』は中学生(71.3%)より小学生(77.5%)の方が6.2ポイント高く、「好きである」も中学生(40.8%)より小学生(55.9%)の方が15.1ポイント高くなっている。

年代別に過去の調査結果と比較すると、小学生では、「好きである」の割合が増加傾向にある。中学生でも、「好きである」が平成18年調査に比べて9.9ポイント増加するなど、『好き(計)』の割合が増加傾向にある。(図表9-1-2)

図表9-1-2 地域への愛着度(年代別経年比較)



(2) 近所の人へのあいさつ

◇『している(計)』は77.4%

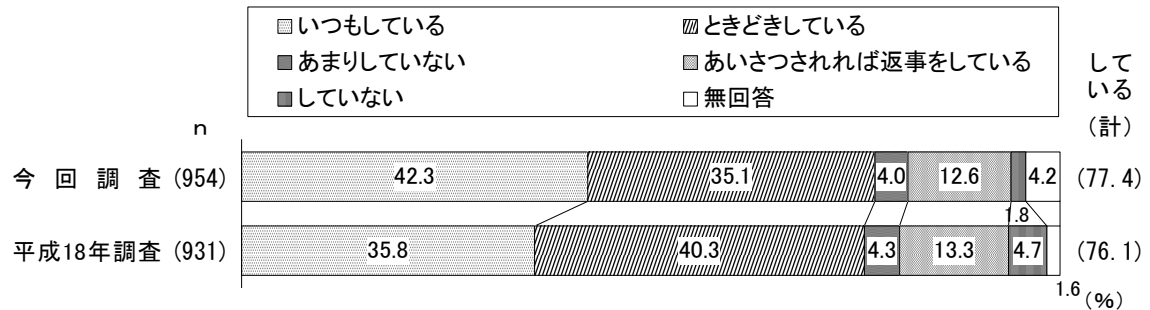
問49 あなたは、近所の人に自分からあいさつをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳194ページ参照)

近所の人に自分からあいさつをしているか聞いたところ、「いつもしている」(42.3%)と「ときどきしている」(35.1%)の2つを合わせた『している(計)』は77.4%となっている。

(図表9-2-1)

平成18年調査と比較すると、「いつもしている」は6.5ポイント増加している。(図表9-2-1)

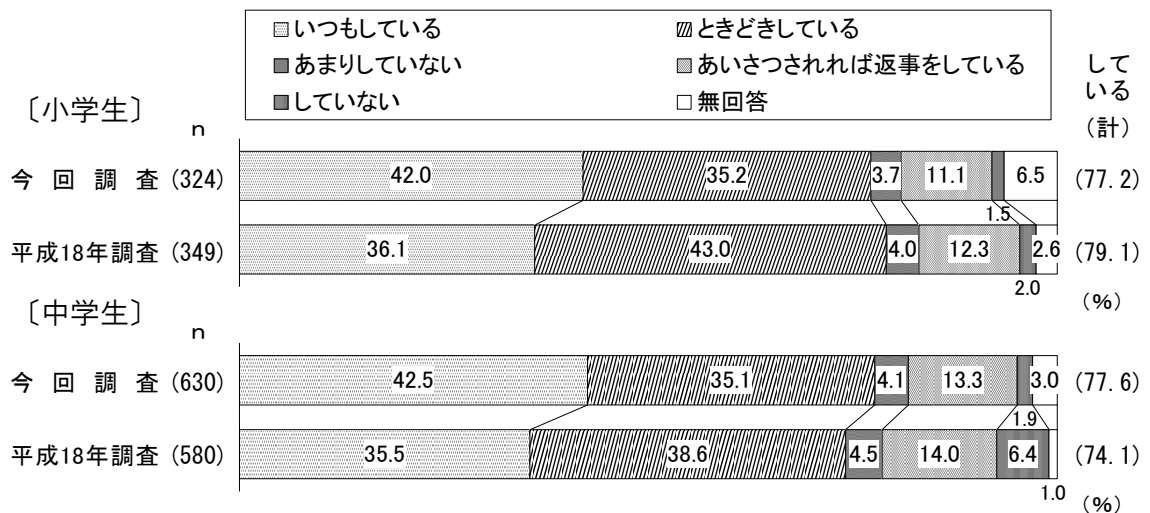
図表9-2-1



年代別にみると、ほぼ同じ傾向になっている。(図表9-2-2)

年代別に平成18年調査と比較すると、「いつもしている」の割合は小学生で5.9ポイント、中学生で7.0ポイント、それぞれ増加している。(図表9-2-2)

図表9-2-2 近所の人へのあいさつ(年代別経年比較)



(3) 家族以外の人からしかられること

◇『しかられる (計)』は25.3%

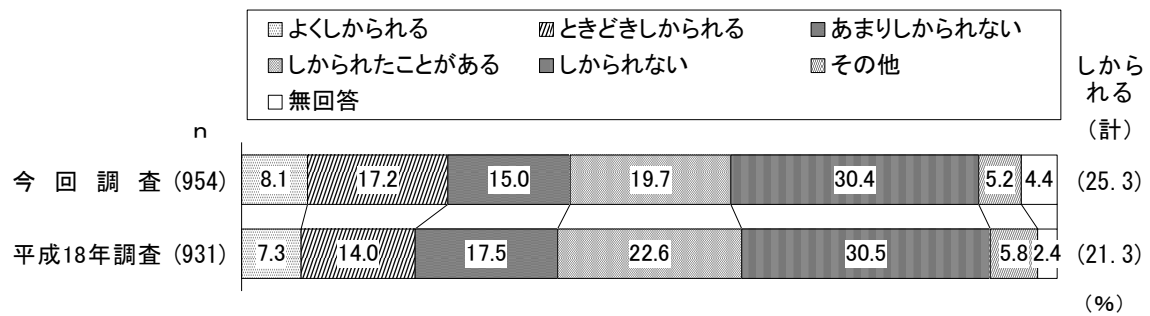
問50 あなたは、家の外で悪いことをした時、家族以外の人からしかられることがありますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

家の外で悪いことをした時、家族以外の人からしかられることがあるか聞いたところ、「よくしかられる」(8.1%)と「ときどきしかられる」(17.2%)の2つを合わせた『しかられる (計)』は25.3%となっている。「しかられない」は30.4%、「しかられたことがある」は19.7%、「あまりしかられない」は15.0%である。(図表9-3-1)

平成18年調査と比較すると、『しかられる (計)』は4.0ポイント増加している。

(図表9-3-1)

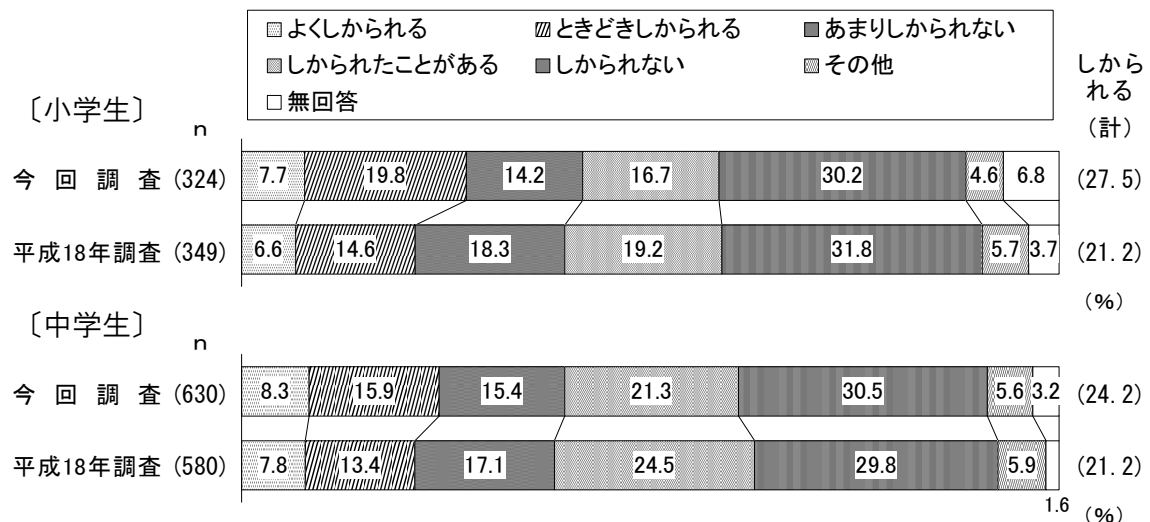
図表9-3-1



年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-3-2)

年代別に平成18年調査と比較すると、『しかられる (計)』は小学生で6.3ポイント、中学生で3.0ポイント、それぞれ増加している。(図表9-3-2)

図表9-3-2 家族以外の人からしかられること (年代別経年比較)



(4) 地域活動への参加状況

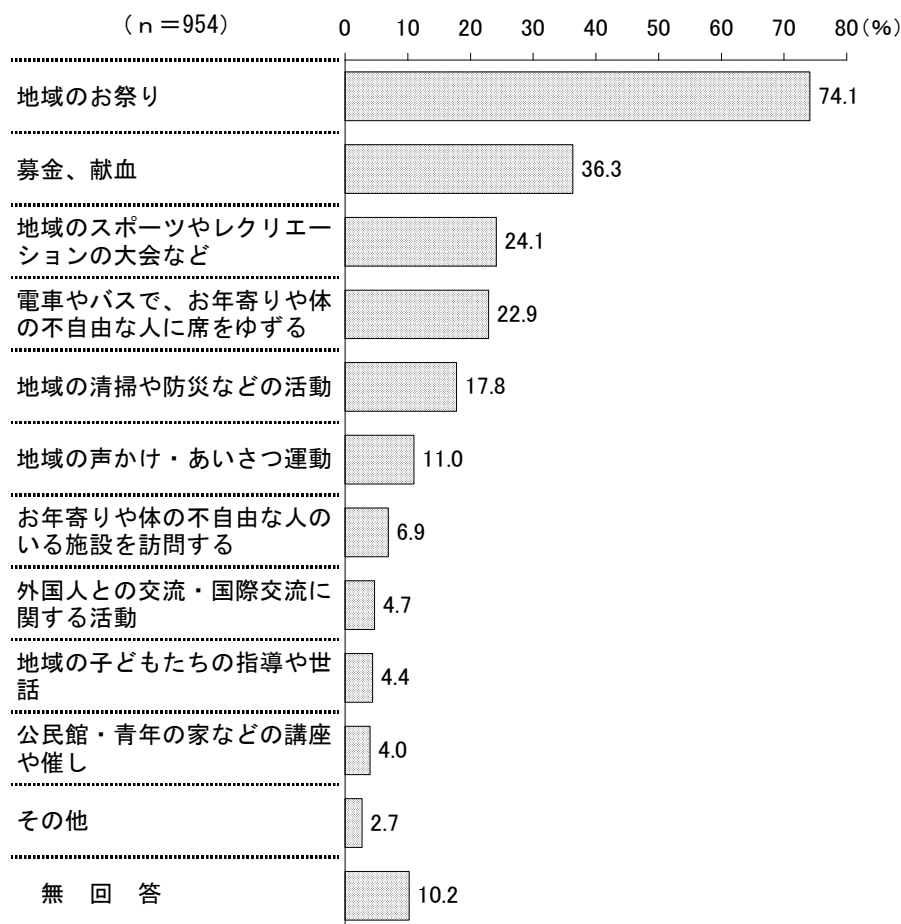
◇「地域のお祭り」が74.1%、「募金、献血」が36.3%

問51 あなたは、最近1年間で、次のような活動に参加したり、行動をしたことがありますか。この中で、参加したり、行ったりしたことがあるものすべてに○をしてください。

(類似質問：満15歳～30歳196ページ、保護者270ページ参照)

最近1年間に地域活動などに参加したり、行動したことがあるか聞いたところ、「地域のお祭り」が74.1%で最も多く、次いで「募金、献血」(36.3%)、「地域のスポーツやレクリエーションの大会など」(24.1%)、「電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」(22.9%)、「地域の清掃や防災などの活動」(17.8%)などの順となっている。(図表9-4-1)

図表9-4-1

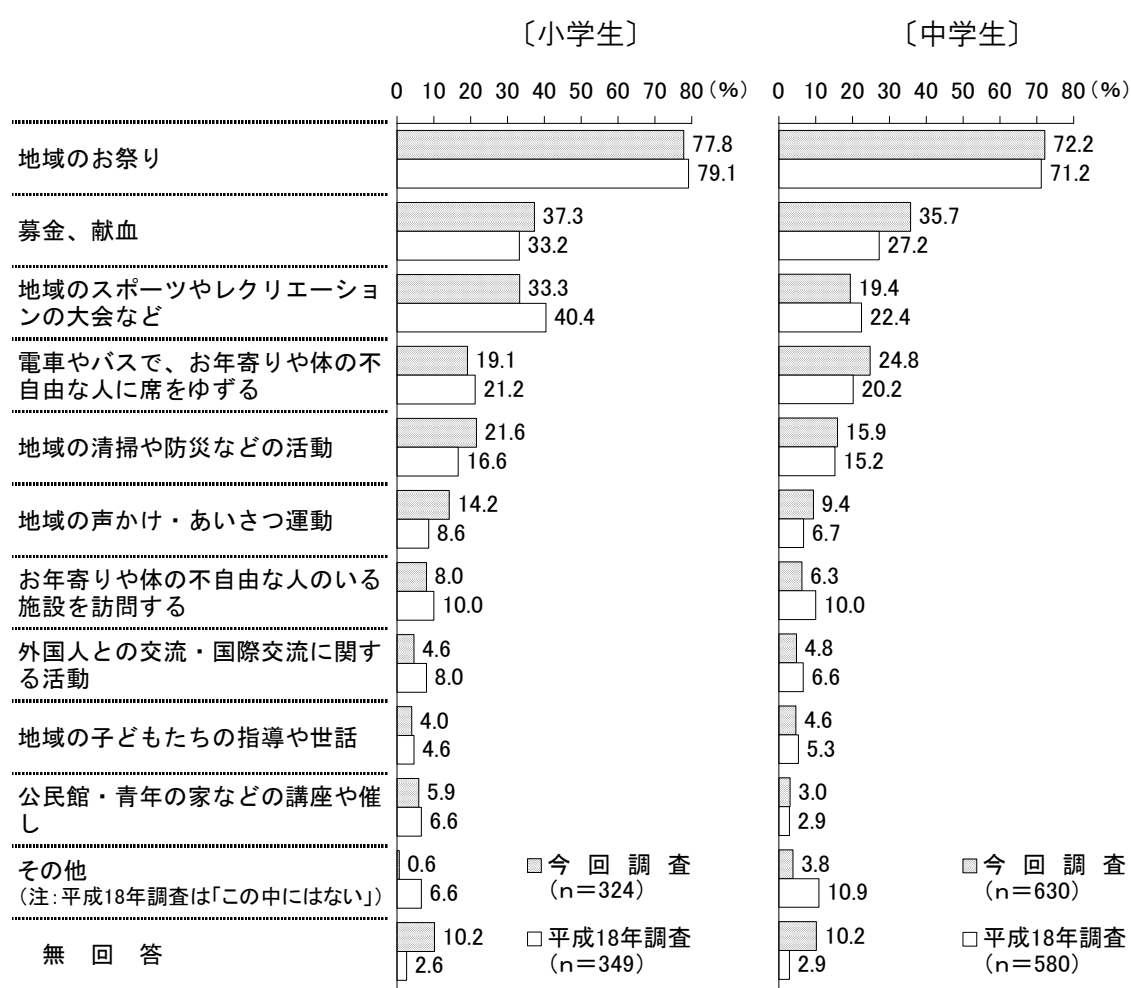


年代別にみると、中学生より小学生の方が割合が多いのは、「地域のお祭り」(77.8%)、「募金、献血」(37.3%)、「地域のスポーツやレクリエーションの大会など」(33.3%)、「地域の清掃や防災などの活動」(21.6%)、「地域の声かけ・あいさつ運動」(14.2%) などである。

(図表9-4-2)

平成18年調査と比較すると、「募金、献血」、「地域の清掃や防災などの活動」、「地域の声かけ・あいさつ運動」は小学生、中学生とも増加している。「地域のスポーツやレクリエーションの大会など」は小学生、中学生とも減少している。(図表9-4-2)

図表9-4-2 地域活動への参加状況 (年代別)



(5) 参加してみたいボランティア活動

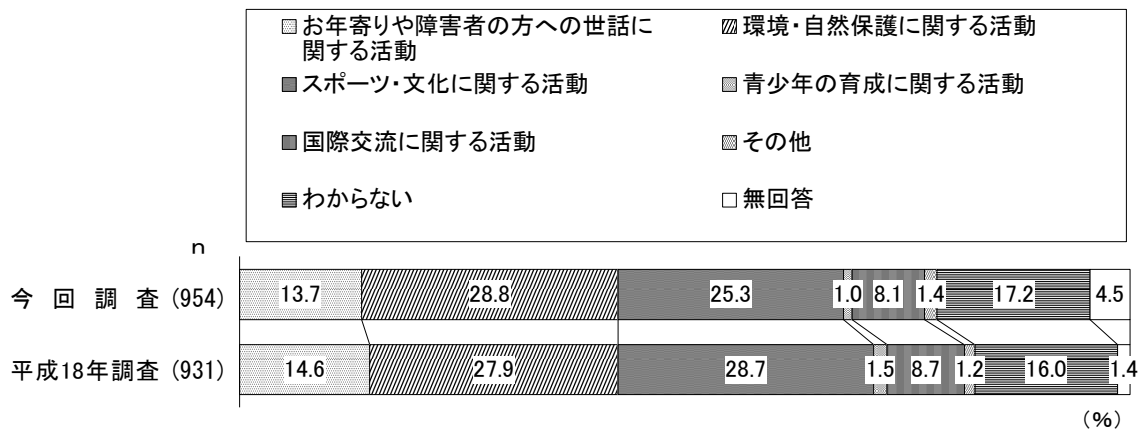
◇「環境・自然保護に関する活動」が28.8%

問52 あなたは、もし自分がボランティア活動をやるとした場合、どのような活動をしたいですか。最もやりたいと思うものを下の中から1つ選んで○をしてください。

ボランティア活動をやるとした場合、どのような活動をしたいか聞いたところ、「環境・自然保護に関する活動」が28.8%で最も多く、次いで「スポーツ・文化に関する活動」(25.3%)、「お年寄りや障害者の方への世話に関する活動」(13.7%)などの順となっている。(図表9-5-1)

平成18年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-5-1)

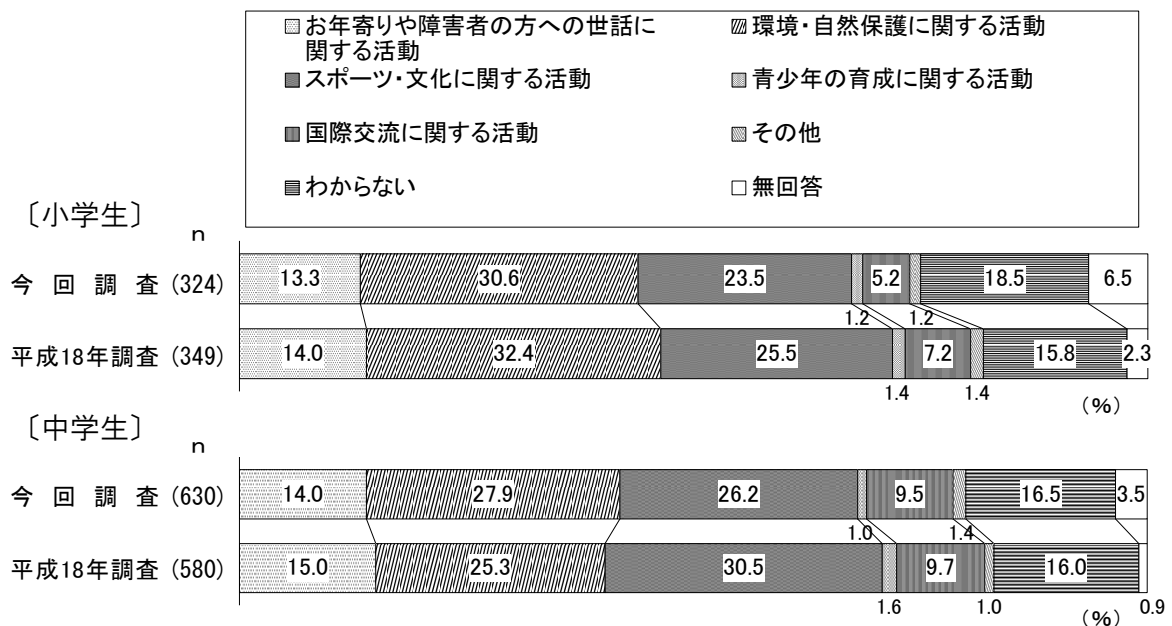
図表9-5-1



年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-5-2)

年代別に平成18年度調査と比較すると、「スポーツ・文化に関する活動」は小学生で2.0ポイント、中学生で4.3ポイント減少している。(図表9-5-2)

図表9-5-2 参加してみたいボランティア活動 (年代別経年比較)



10 社会一般のことについて

(1) 今後の社会への希望

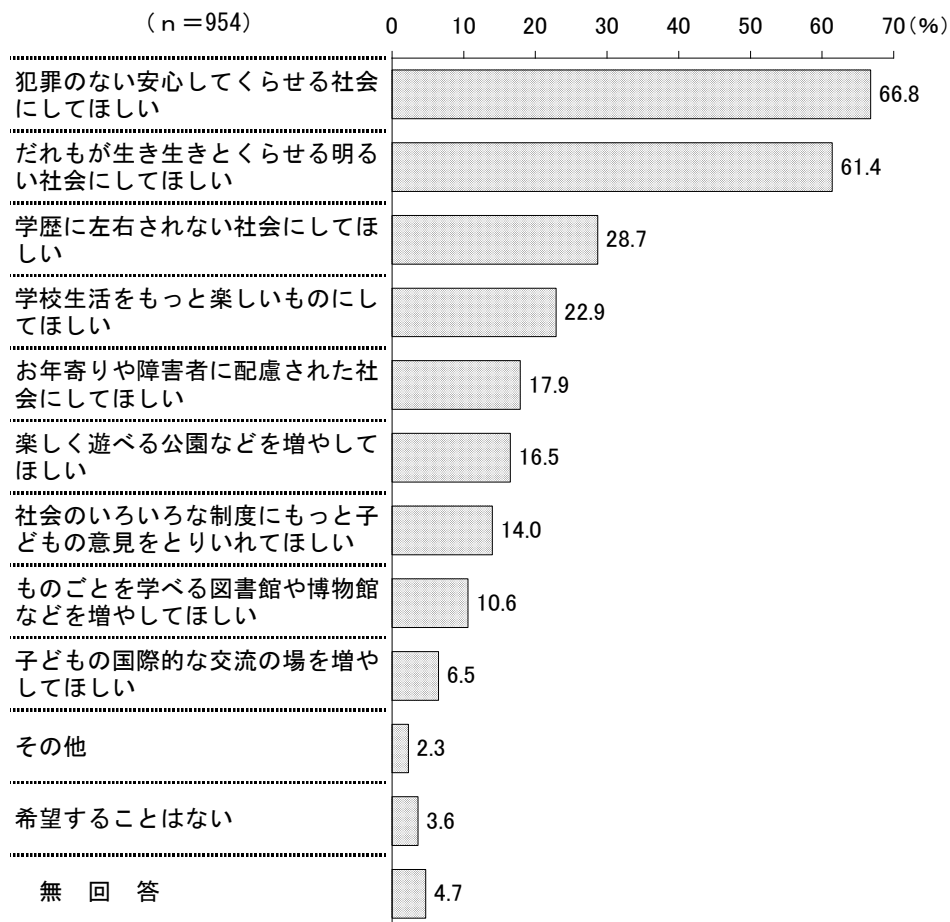
◇「犯罪のない安心してらせる社会にしてほしい」が66.8%

問53 あなたは、今の社会がどのようになることを希望しますか。次の中から3つまで選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳205ページ参照)

今の社会がどのようになることを希望するか聞いたところ、「犯罪のない安心してらせる社会にしてほしい」が66.8%、「だれもが生き生きとくらすめる明るい社会にしてほしい」が61.4%で、この2項目が多く、次いで「学歴に左右されない社会にしてほしい」(28.7%)、「学校生活をもっと楽しいものにしてほしい」(22.9%)、「お年寄りや障害者に配慮された社会にしてほしい」(17.9%)、「楽しく遊べる公園などを増やしてほしい」(16.5%)などの順となっている。

(図表10-1-1)

図表10-1-1



年代別にみると、中学生より小学生で割合が多いのは、「楽しく遊べる公園を増やしてほしい」(24.4%)、「学校生活をもっと楽しいものにしてほしい」(24.1%) などである。小学生より中学生で割合が多いのは、「だれもが生き生きとくらせる明るい社会にしてほしい」(63.8%)、「学歴に左右されない社会にしてほしい」(33.7%)、「社会のいろいろな制度にもっと子どもの意見を取り入れてほしい」(16.2%) などである。(図表10-1-2)

平成18年調査と比較すると、小学生では「学歴に左右されない社会にしてほしい」が5.6ポイント増加し、「犯罪のない安心してくらせる社会にしてほしい」が8.0ポイント減少している。中学生では、「学校生活をもっと楽しいものにしてほしい」が7.6ポイント減少している。

(図表10-1-2)

図表10-1-2 今後の社会への希望 (年代別経年比較)

